

438



始



大正十一年陸軍特種演習記錄

靜岡縣

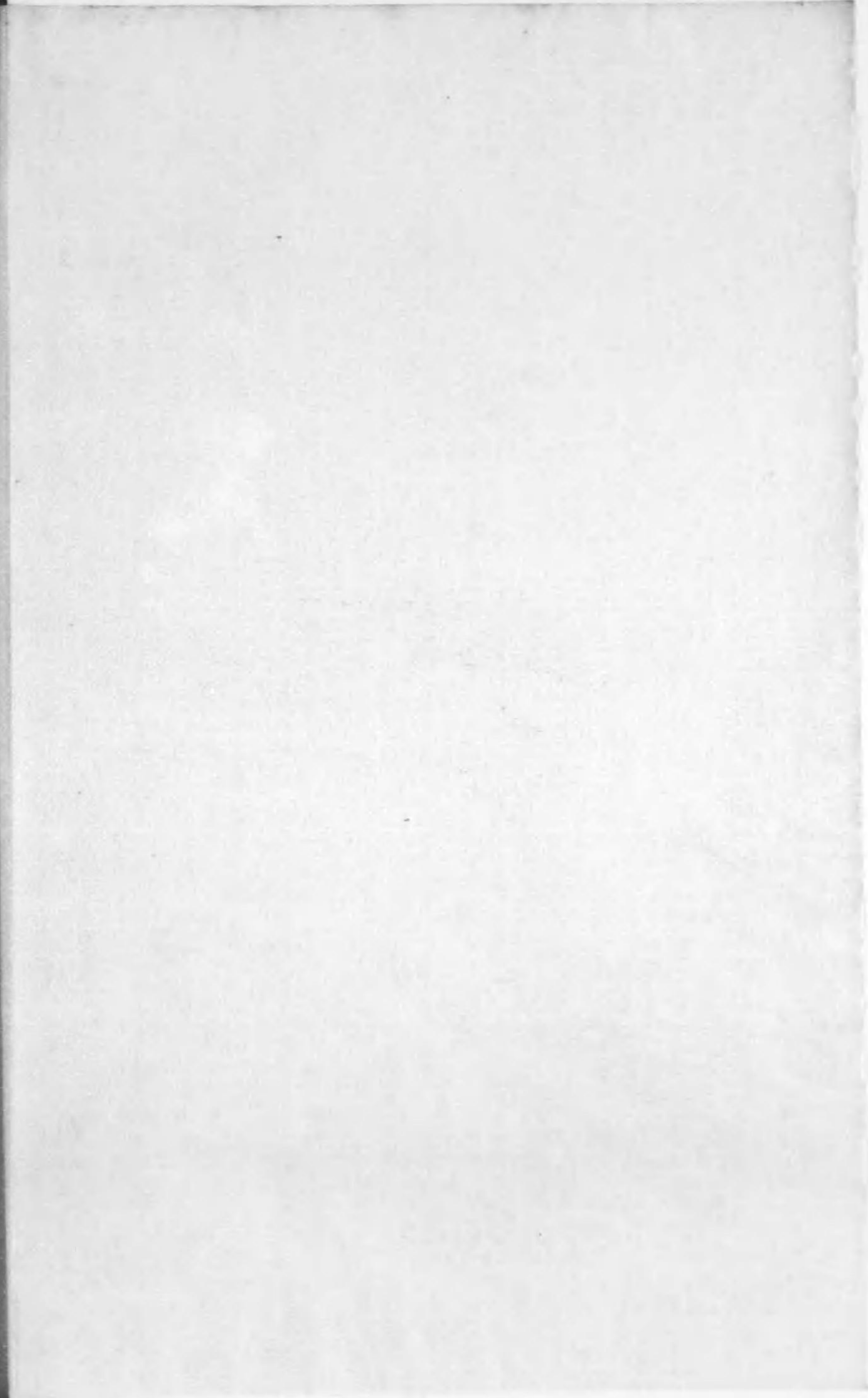
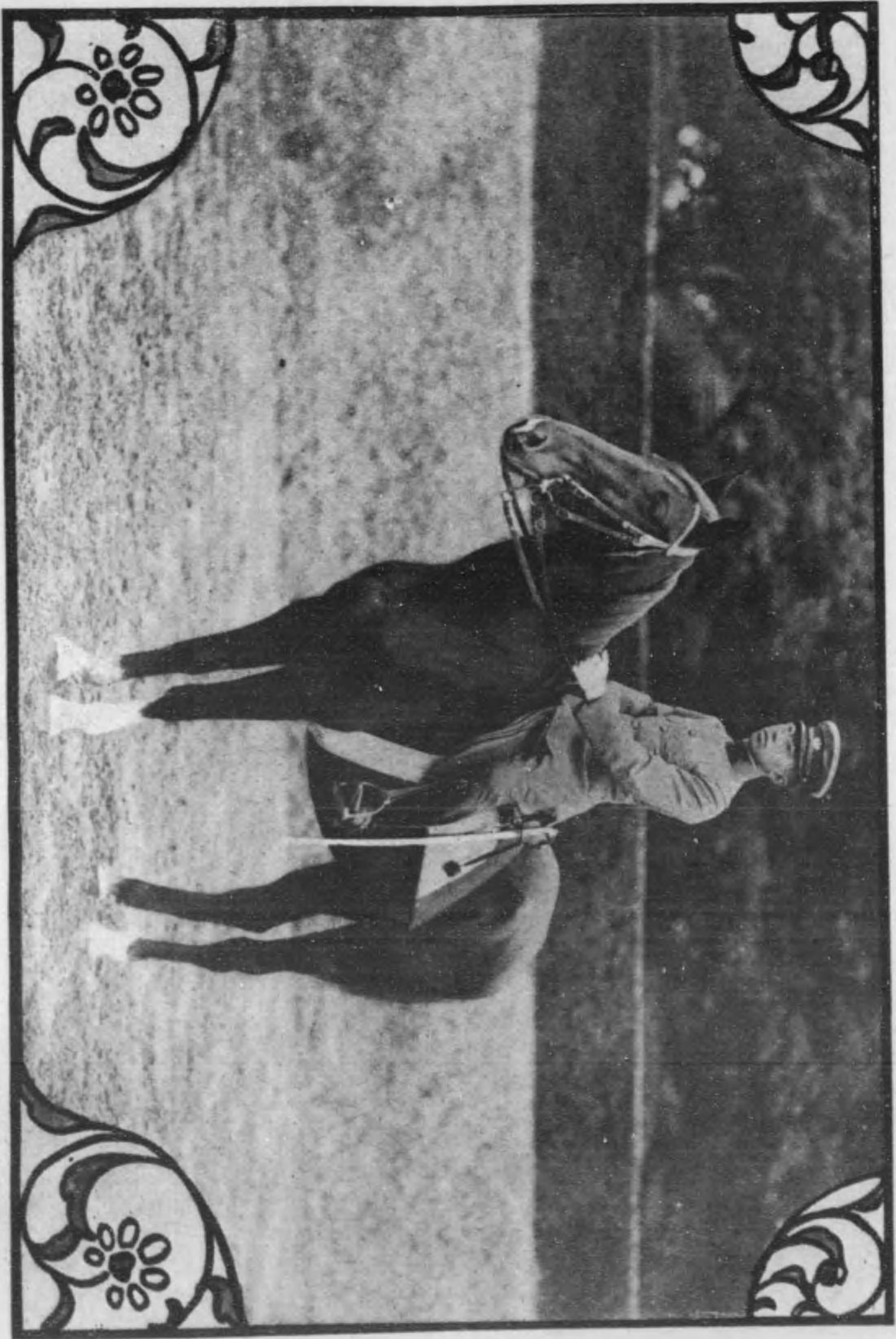
319-438

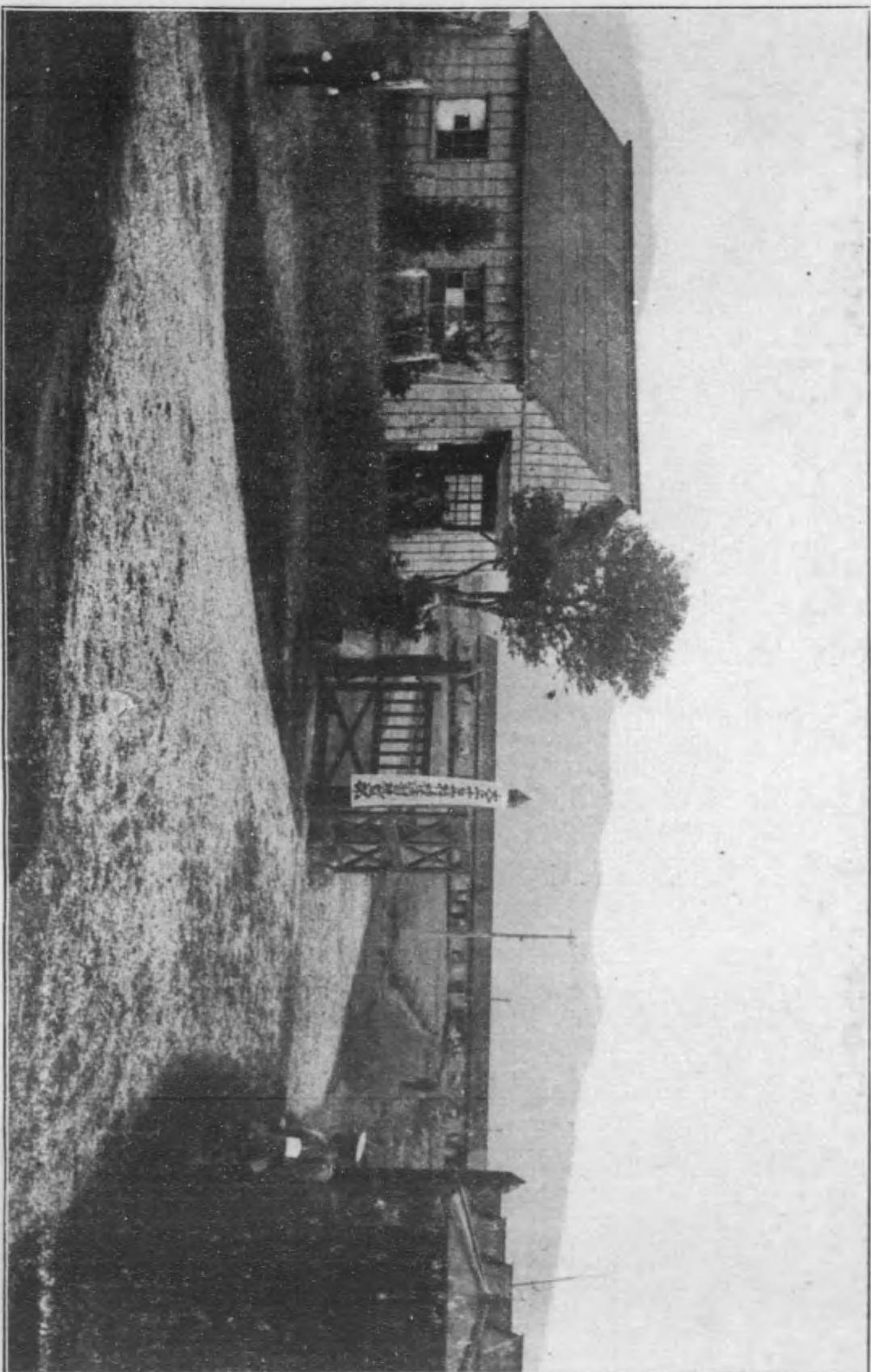


大正十年陸軍特種演習記錄

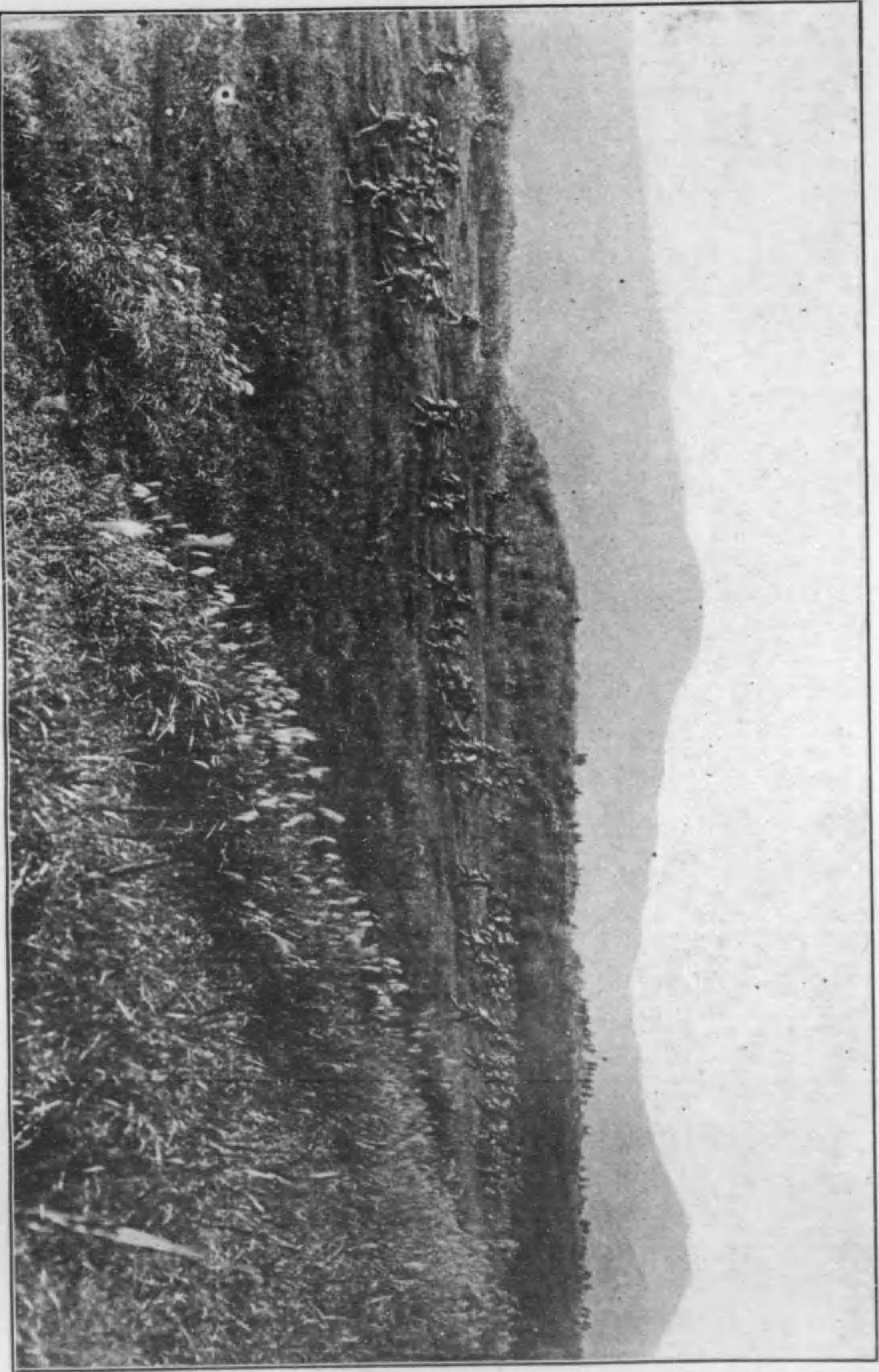
大正
12. 28
内交



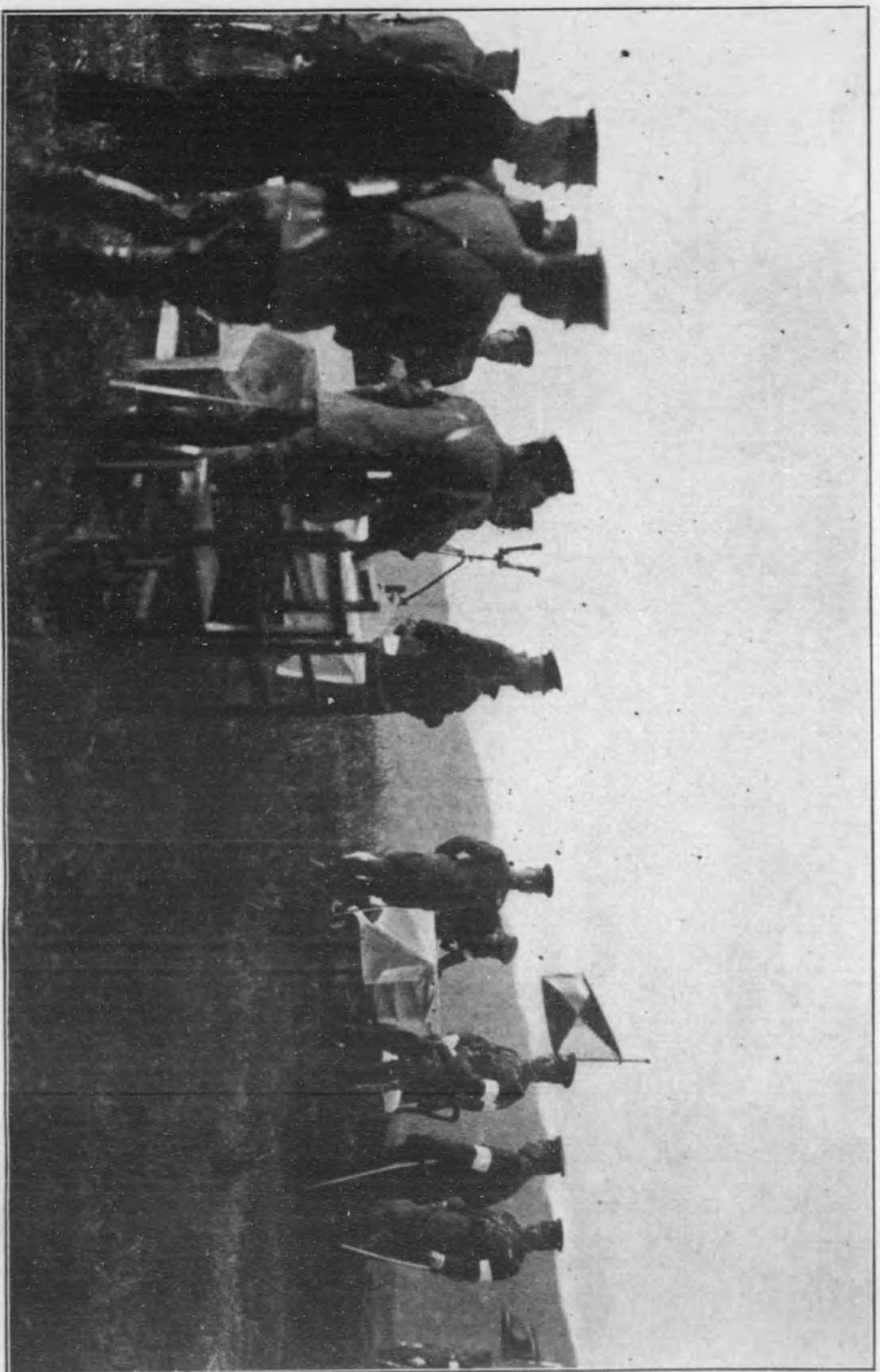




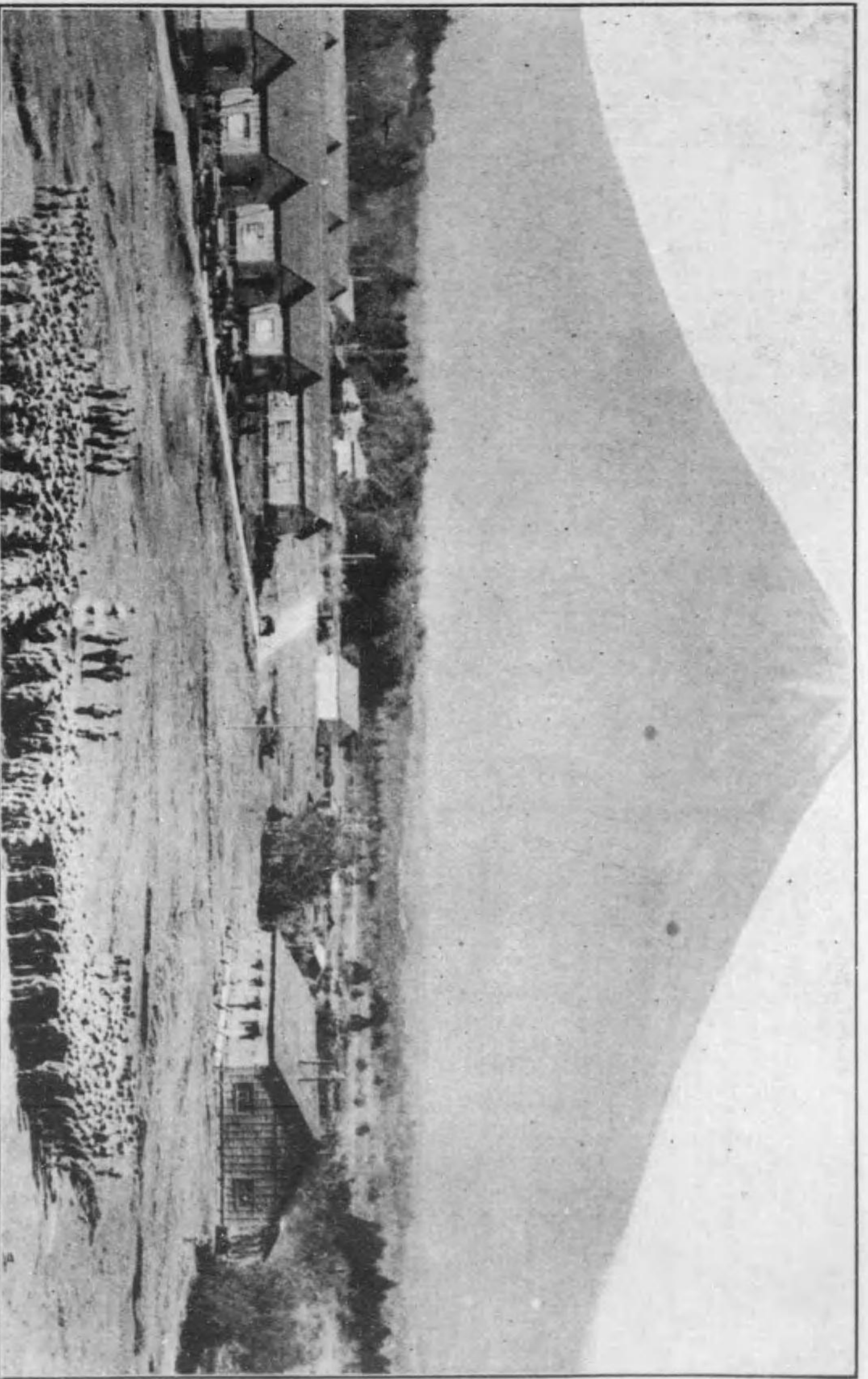
特種演習監督部(板妻廠舍)



隊聯八十六第兵歩ルケ於ニ(突米千八約方西場殿御)近附塚狐
(分十時八前午日五十月一十)



(二其)場立野御點測號四十
(日五十月一十)



御講評於板妻廠(舍)
(十一月五日)

序

大正十年十一月本縣富士山麓ニ於テ實施シタル特種演習ハ、畏クモ 皇太子殿下最初ノ御統監ノ下ニ於テ行ハル、富士嵐烈シクシテ萬象冬ニ入ルコト早ク、廠舎簡素ニシテ寒風凌キ難キニ拘ハラズ、殿下ハ數日ニ亘リテ板妻廠舎ニ御駐泊遊ハサレ、晨朝錦旗ヲ御野立所ニ樹テ、交戦ヲ統ヘラレ、薄暮廠舎ニ於テ親シク軍事ヲ變ハセラル、御精勵洵ニ感泣ニ堪エサル也、而シテ官民亦一致シテ能ク事務ニ當リ協力シテ最善ノ策ヲ盡シ、幸ニ大過ナクシテ終局ヲ見タルハ實ニ欣幸トスル所ナリ、茲ニ其ノ顛末ノ大要ヲ整ヘテ記録ヲ編纂シ、一ハ以テ盛事ヲ無窮ニ傳ヘ、一ハ以テ官民ノ努力ヲ永遠ニ記念セントス

大正十年陸軍特種演習記錄

目次

第一章 特種演習ニ關スル協議	一
第二章 事務分掌規程	三
第三章 事務分掌表	八
第四章 宮廷關係	一八
第一節 行啓	一八
一行啓ニ關スル打合	一八
二行啓ニ關スル注意事項	一九
三御發着割	二二
四供奉人名表	二四
五奉送迎	二七
第二節 御泊所	三三
第三節 門鑑	三四
第四節 拜謁	三七

第五節 獻上用品.....四二

第五章 庶務關係.....四二

第一節 徽章.....四二

第二節 事務所.....四三

第三節 知事兩部長宿舍.....四四

第四節 氣象觀測.....四四

第五節 紀念印刷物.....四五

第六節 自働車.....四五

第六章 兵事關係.....四六

第一節 統監部.....四六

第二節 演習拜觀.....六一

第三節 軍隊宿舍.....七三

第四節 軍需品供給.....七九

第五節 通信報告.....七九

第六節 演習部隊.....七九

第七節 損害賠償價.....九六

第七章 接待關係.....一〇六

第一節 概要.....一〇六

第二節 陪觀者旅舍.....一〇七

第三節 新聞及通信記者.....一一〇

第四節 陪觀縣會議員.....一一一

第八章 工場關係.....一二二

第一節 板妻廠舍.....一二二

第二節 統監部.....一二三

第三節 縣事務所.....一二四

第四節 營繕工費.....一二四

第五節 道路路橋梁.....一二六

第九章 警務關係.....一二四

第一節 警察官吏服務心得.....一二四

第二節 一般計畫.....一四九

第三節 警察官吏ノ配置.....一五〇

第四節 皇太子殿下御警衛.....一五八

第五節 皇族御旅館並沿道御警衛.....一六一

第六節 水源地警戒.....一六三

第七節	警察電話	一六三
第八節	各課及署員ノ動員	一六四
第九節	飛行場取締	一六八
第十節	演習場周圍ノ取締	一六八
第十一節	交通取締	一六九
第十二節	火災、盜難及危險物ノ警戒	一七〇
第十三節	拜觀注意並宣傳票	一七〇
第十章	衛生關係	一七二
第一節	概要	一七二
第二節	行啓ニ關スル衛生施設事項	一七三
第三節	演習ニ關スル衛生施設事項	一七七
第四節	軍隊通過沿道附近ノ衛生施設	一八〇
第五節	衛生施設實施狀況	一八二
第六節	衛生注意事項ノ宣傳	一八七
第七節	飲料水試驗成績	一八七
第十一章	經費關係	一九四
第十二章	新聞紙上ノ特種演習	一九五

第一節	演習ノ目的	一九五
一	東軍行動	一九六
二	西軍行動	一九七
三	空軍行動	一九七
第二節	演習氣分漲ル御殿場地方	一九八
第三節	板妻廠舎へ御着	一九九
第四節	東宮殿下御駐泊所	二〇〇
第五節	御愛馬進風ニ召サセラレテ	二〇一
第六節	東宮親シク御統裁	二〇二
第七節	飛行機ノ大活躍	二〇三
第八節	攻防兩軍ノ大快戰	二〇五
第九節	休戰命令下ル	二〇六
第十節	東宮ノ御高德ヲ拜シ只ダ有難涙ニ咽フ	二〇七

大正十年陸軍特種演習記錄

第一章 特種演習ニ關スル協議



皇太子殿下統監ノ下ニ特種演習ヲ施行セラル、御沙汰ニ接シ松原内務部長、辛島警察部長、古澤駿東郡長、鈴木沼津警察署長及石上屬ハ七月十八日沼津町ニ於テ菊池參謀次長、服部松浦兩參謀部員及池ノ上參謀本部副官ニ會見シ左記ノ諸項ヲ聽取シ重要ナル諸件ニ關スル打合ヲナシタリ。

一 静岡縣ハ特種演習ニ付テハ其ノ全部ニ關係ヲ有スルモ特別大演習ニ付テハ只諸部隊ノ集合地トナルノミナリ。

二 特種演習ハ 東宮殿下各統監ノ下ニ第三師團及第十五師團ヲ以テ十一月十三日朝ヨリ同月十五日朝ニ亘リ富士裾野ニ於テ此ノ舉行被爲在モノナリ。

三 東宮殿下ニハ十一月十三日午後御殿場驛ニ御駐紮同月十三、十四ノ兩日板妻廠舎ニ御駐泊被爲遊御統監中ハ總テ御馬ニ召サセラル、御豫定ナリ。

四 東宮殿下特種演習御舉行ニ先チ豫メ地理實查ノ爲行啓可被爲在ヤモ不圖右ノ場合ハ沼津御用邸ニ

御駐泊被爲遊御豫定ナリ。

五 静岡縣ニハ 天皇陛下ノ行幸ハ不被爲在見込ナルモ 宮殿下元帥軍事參議官其ノ他文武官東京静岡等ノ新聞記者及關係師團隨從ノ新聞記者等約百名御殿場佐野沼津附近ニ宿泊スヘキニ付右ノ宿舍準備方縣ノ配慮ヲ得度但宿舍割等ニ付テハ軍隊ニ於テモ盡カスヘシ。

六 東宮殿下直接ノ御警衛ハ軍隊ニ於テナスヘキモ沿道ノ御警衛及衛生等ノ事項ニ付テハ縣ノ配慮ヲ得度シ。

七 七月下旬若ハ八月上旬頃東宮主事諸事打合セノ爲來縣ノ筈ナリ。

八 特種演習ニ付テモ功勞者等ニ對スル御沙汰等被爲在ヘシ。

九 縣ノ物産等ヲ台覽ニ供シ奉ラントセハ板妻廠舎ニ陳列スルヲ適當トスヘシ。

十 左記ノ道路ニ付野砲ノ通過シ得ヘキ様相當ノ配慮アリタシ。

國 府 縣 道 郡 道

一 沼津御殿場線 二 三島北上線

三 北上御殿場線 四 國道特第二線

五 國道特第三線 六 御殿場小田原線 其ノ他板妻附近道路

十一 軍隊宿泊ニ際シ必要ナル場合ハ第十五師團留守隊ノ寢具ノ一部ヲ使用スルハ差支ナシ。

十二 板妻廠舎附近ニ御警衛係官陪觀者取締官又ハ諸事連絡官ノ詰所ヲ設ケラレ度但廠舎ノ一部ヲ使用スルモ差支ナシ

十三 公職者功勞者新聞記者在郷軍人會員學校職員生徒及公共團體員等ニ對シテハ特種演習ノ陪觀ヲ許可スル筈ナリ。

十四 大分縣ニ於テハ縣ヨリ在郷軍人會ニ依頼シ同會員ヲシテ警察勤務ノ補助ヲナサシメタリ。

十五 各件トモ具體的ノ事項更ニ打合ヲナス筈ナリ。

第二章 事務分掌規程

事務分掌ニ關スル訓令左ノ如シ。

静岡縣訓令乙第三一四號

知事官房
内務部
警察部

大正十年特種演習地方事務分掌規程左ノ通定ム

大正十年九月二十四日

静岡縣知事 道 岡 秀 彦

◎大正十年特種演習地方事務分掌規程

第一條 特種演習ニ關スル地方事務ヲ措置スル爲部ヲ設ケ部ヲ分チテ係トナシ部ニ部長ヲ係ニ係長ヲ置キ之ニ係員ヲ配屬セシメ其ノ事務ヲ處理セシム

第二條 部及係ノ分類竝其ノ事務ノ分掌左ノ如シ

一 總務部

1 宮廷係

- イ 御泊所ニ關スル事項
- ロ 奉迎送ニ關スル事項
- ハ 拜謁、御機嫌奉伺ニ關スル事項
- ニ 献上品ニ關スル事項
- ホ 門鑑ニ關スル事項
- ヘ 以上ノ外宮廷ニ關スル事項

2 庶務係

- イ 規程ノ設定ニ關スル事項
- ロ 編纂ニ關スル事項
- ハ 人事ニ關スル事項
- ニ 豫算ニ關スル事項
- ホ 係員ノ徽章ニ關スル事項
- ヘ 天氣豫報ニ關スル事項
- ト 以上ノ外他係ニ屬セサル事項

3 兵事係

- イ 統監部ニ關スル事項
- ロ 演習ノ陪觀、同拜觀ニ關スル事項
- ハ 軍隊、宿舍、同馬繫場ニ關スル事項
- ニ 軍需品ノ供給ニ關スル事項
- ホ 通信、報告ニ關スル事項
- ヘ 演習部隊ニ關スル事項
- ト 損害賠償ニ關スル事項
- チ 出張所ニ關スル事項
- リ 戰病歿者遺族等ニ關スル事項
- ヌ 以上ノ外兵事ニ關スル事項

4 接待係

- イ 皇族ノ奉迎送、同御旅館竝接待ニ關スル事項
- ロ 供奉員、陪觀貴賓ノ御旅館、同接待ニ關スル事項
- ハ 新聞記者ニ關スル事項
- ニ 以上ノ外接待ニ關スル事項

5 工營係

- イ 御泊所ノ設備ニ關スル事項
- ロ 軍隊馬繋場、同厩舎等ノ設備ニ關スル事項
- ハ 出張所其ノ他ノ設備ニ關スル事項
- ニ 御道筋、演習關係地ノ道路橋梁ノ修築等ニ關スル事項
- ホ 以上ノ外工營ニ關スル事項

6 會計係

- イ 金錢ノ出納ニ關スル事項
- ロ 御料品ノ調達ニ關スル事項
- ハ 御荷物其ノ他ノ運搬ニ關スル事項
- ニ 備入、備上車馬等ニ關スル事項
- ホ 各係其ノ他ノ所要物品ノ供給ニ關スル事項
- ヘ 以上ノ外會計ニ關スル事項

二 警務部

1 警務係

- イ 停車場、御道筋、御泊所、水源地等ノ警衛、貴賓ノ警護ニ關スル事項
- ロ 警察官ノ記置ニ關スル事項
- ハ 警察電話ニ關スル事項

2 高等警察係

- イ 高等警察ニ關スル事項
- ロ 撮影ニ關スル事項

3 保安係

- イ 拜觀人ノ取締ニ關スル事項
- ロ 交通整理ニ關スル事項
- ハ 危險物取締ニ關スル事項
- ニ 警備ニ關スル事項
- ホ 飛行場ノ取締ニ關スル事項
- ヘ 車輛ノ準備及整理ニ關スル事項
- ト 以上ノ外保安警察ニ關スル事項

4 衛生係

- イ 御泊所、御道筋、水源地等ノ衛生ニ關スル事項
- ロ 皇族貴賓ノ御旅館等ノ衛生ニ關スル事項
- ハ 軍隊宿舎、演習地ニ於ケル衛生ニ關スル事項

兵事係						庶務係						
村松屬	清木屬	秋口屬	石上屬	川村屬	石原屬	本多係長	鶴田技手	宮司屬	遠藤屬	酒見屬	永見屬	岡田係長
裾野	御殿場	同	廠舎	十三師團附	三師團附		同	廠舎	裾野	同	御殿場	
出張所詰	統監部、戰病歿者遺族、通信報告、出張所、其他	同	統監部、通信報告、出張所、戰病歿者遺族其他	同	陪觀、拜觀、宿舍、馬繫場、軍需品、損害賠償及演習部隊		編纂、其他	規程、編纂、徽章、天氣豫報、其他	出張所詰	規程、編纂、人事、豫算、徽章、其他	縣會議員係、豫算、其他	

宮廷係								係名
蜂田視學	飯田屬	金原屬	川田屬	三橋屬	榎本屬	高梨屬	大石係長	係員
御殿場	不參	未定	同	同	廠舎	同	知事宿舍	勤務地
奉迎送、其他			拜謁御機嫌伺、献上品、其他	御泊所、奉迎送、門鑑、其他	御泊所、奉迎送、拜謁、御機嫌伺、献上品其他	總務部長附	知事附	分担

同 同 同 同 衛
生 係

事務分掌表(二)

静岡縣警部
警 察 醫
静岡縣衛生技師
静岡縣技師
同
小澤 正理
齋 藤 俊 雄
篠 田 恒 太 郎
真 田 幸 平
牧 野 亮 一

警務係			會計係				工營係						
佐野警部補	中山警部補	仁科警部	鈴木係長	野田屬	山田屬	程島屬	篠田係長	馬淵技手	大塚技手	渡邊技手	谷川技手	田中技師	藤宮係長
同	同	廠		廠	同	御殿場		同	廠	御殿場	裾野	御殿場	
電話、警察官宿舍、賄			警衛、警護、警察官配置、電話、其他	同	同	金錢出納、御料品調達、御荷物運搬、傭人、傭上車馬、物品供給其他		同	御泊所、出張所ノ設備、其他	同	御道筋、演習關係地ノ道路橋梁	一般	

接待係															
玉穗村長	勝又	勝亦	御殿場町長	深谷警部	古澤郡長	齋藤囑託	船津屬	徳田屬	爲永技師	芹澤原里村長	林警郎補	近藤視學	鳥越屬	柏木屬	飯沼係長
同	同	同	同	同	同	同	同	同	御殿場	廠	同	御殿場	廠	御殿場	
同	同	同	同	同	皇族奉迎送、御旅館、接待	同	同	同	新聞記者係	同	同	同	同	皇族奉迎送、供奉員、陪觀貴賓ノ御旅館及接待	

工營係	兼道路兼土木技手	北野大藏	同	同	山本清作
同	同	内山福之助	同	同	山口國作
同	同	太田赳夫	警務係	技手	大西光榮
同	同	根本儀八	同	警察技手	柴田榮次郎
同	土木助手	本田實	同	同	稻葉豐多
同	同	小島武夫	保安係	同	阪本信憲
同	同	伊藤匠太郎	衛生係	技手	藤井健太郎
同	工事雇	石井源太郎	同	防疫監吏	加藤實
會計係	屬	山下三郎	同	同	金指榮藏
同	同	太田六郎	同	同	大島兼太郎

第四章 宮延關係

第一章 行 啓

一行啓ニ關スル打合

一 七月十八日松原内務部長辛島警察部長以下ハ沼津町ニ於テ菊池參謀次長服部大佐等ト會見同年秋期縣下ニ於テ御舉行セラルル特種演習ニ關スル件ニ付打合セヲナシタリ

(以上ノ外本縣ヨリハ藤宮土木課長、古澤駿東郡長、鈴木沼津警察署長、石上屬、參謀本部ヨリハ松浦少佐池ノ上副官參加セリ)

一 特種演習ニ關シ下檢分ノ爲本多東宮主事出張參謀本部ヨリモ立會ノ爲服部大佐以下出張アリタルニヨリ松原内務部長辛島警察部長以下八月二日駿東郡靜浦村ニ出張本多主事ニ會見打合セヲナシ翌三日一同ハ御殿場驛並同驛ヨリ演習地間ノ道路及御泊所其他ニ使用スヘキ板妻廠舎建物等ニ付キ實地調査ヲ遂ケ更ニ演習場主幹事務所ニ於テ詳細ナル打合ヲ爲シ同日何レモ歸任セリ

(以上ノ外東宮職ヨリ永田屬、參謀本部ヨリ松浦少佐、羽場二等主計本縣ヨリハ榎本、石上屬、中山警部補其他古澤郡長、岩柳郡土木技手、鈴木署長、深谷分署長參加セリ)

一 九月十四日服部大佐登應アリ松原内務部長、本多社寺兵務課長、石上屬ト打合セヲナセリ

一 九月二十八日 皇太子殿下ニハ演習地御視察ノ爲箱根宮ノ下御用邸御出門自働車ニテ板妻ニ行啓アラセラレ即日御歸還アラセラル當日辛島部長、鈴木警部ハ沿道ノ御警衛ニ當リ道岡知事、古澤郡長ハ御殿場町ニ於テ御迎ヘ申上ケ板妻ニ扈從シ更ニ御歸途宮ノ下御用邸迄御送り申上ケタリ(當日供奉并扈從セルハ濱尾大夫、本多主事、壬生武官、甘露寺侍從及菊地參謀次長等ナリ)

二 行啓ニ關スル注意事項

東宮職庶第九〇二號

大正十年十月十八日

二〇

東宮事務官事務取扱 本多 正 復
靜岡縣内務部長 松原 權四郎 殿

通牒

特種演習ニ關シ別記諸項及御送附候間可然御取計相成度候

追テ去九日附演第三號ヲ以テ御照會ノ御用車臨時備人ノ件モ本文中ニ詳記致置候

一行啓ノ御次第御決定ノ上ハ其ノ御發着割ハ東京御發ノ約一週日以前ニ官報ヲ以テ公示シ其ノ御日
程ハ同日供奉長官ヨリ別ニ之ヲ通知致スヘク其ノ公示又ハ通知ニ先チ關係官衙其ノ他直接行啓事務
ニ關涉スヘキモノ、外行啓ニ關スル事項ヲ公示セラレサル様致サレタキコト

二 供奉員ノ官職氏名ハ決定ノ上御通知可致候

三 行啓事務ニ關與シタル地方官(市町村吏員共)中高等官又ハ之ニ準スヘキ者ハ其ノ官職氏名判任官
以下ハ其ノ人員ヲ記載シタル調書ヲ行啓後可成速ニ行啓主務官ニ提出セラレタキコト

四 御殿場驛御泊所(板妻廠舎)間ハ御往返共自動車御乗用ノコト (先般ハ御乘馬ノコトニ中上置候へ共御殿場驛
候成)

自動車御列

知事

皇太子殿下

御陪乘武官長

武官 侍從

侍從 醫官

列外

警察部長
憲兵隊長
内務書記官

供奉判任官以下

五 列外ニ入ルヘキ者ノ服裝文官ハ通常服又ハ其ノ相當服、武官ハ通常禮裝、警察官ハ禮裝タルヘキ
コト

六 御泊所ハ御座所、御浴室、御廁所、調理所及其ノ附近ニ限リ藥液其ノ他適當ナル方法ニ依リ消毒
施行御依頼致度其ノ費用ハ東宮職へ請求セラレ度コト

七 御泊所へ搬入ノ御手許へ差上クヘキ物品ハ適當ナル方法ニ依リ消毒施行相成度事

八 拜謁ヲ賜ハルヘキ範圍ハ其地在住ノ高等官同待遇及行啓事務ニ關シ職務ヲ以テ出張滞在ノ高等官
同待遇其他ハ時ニ臨ミ定メラレタキコト (今同ハ御泊所狹隘ニ付拜謁者ハ可成省略致度候)

九 拜謁ヲ賜ルヘキ者ノ服裝ハ文官ハ通常服又ハ其ノ相當服、武官ハ通常禮裝、警察官ハ禮裝トス
拜謁者ニ付テハ其ノ者ノ官位勳功爵氏名ヲ記載シタル名簿ヲ調製シ拜謁前之ヲ行啓主務官ニ提出セ
ラレタシ但シ單獨拜謁者ニ付テハ拜謁ヲ賜ハルヘキ順序ニ從ヒ其ノ氏名ヲ記載セラレタキコト拜謁
者名簿ハ大廣奉書其ノ他之ニ準スヘキ用紙ニ一通ニ美濃罫紙ニ認メラレタキコト

十 御道筋沿道ニ於ケル奉拜者ニハ雨雪ノ場合雨具ヲ用ヒラレタキコト

十一 御泊所ニ於ケル御警衛ハ陸軍側ト御協議相成度コト

十二 御沿道並御泊所附近ニ於ケル傳染病流行病(麻疹共)ノ調査報告相成度キコト

- 十三 御飲料水ノ理化學的性状及成分ヲ調査シ細菌學的検査成績書ヲ添ヘ御通報相成度コト
- 十四 御泊所内供奉員賄ハ一等ヨリ四等ニ區分シ尙之ヲ朝晝夕ニ區別シテ其ノ代金ヲ御協議相成度コト
- 十五 自動車人力車荷車及人夫雇上ニ付テハ行啓前總テ請負人菊地捨次郎ヨリ申上ヘク候ヘトモ大約左ノ通御用意相成タキコト

御着ノ節
 供奉員乗用自動車 三
 貨物積自動車 二
 御滯泊中
 人力車 二輛
 人夫約 十人

- 十六 行啓ニ關シ新聞記者及通信者員等トノ交渉ハ總テ地方官ニ於テ擔任セフレタキコト
- 十七 御泊所構内ヨリ物品ヲ搬出セントスル者アルトキハ守門警察官ハ供奉員ノ外東宮職又ハ地方官詰所ヨリ交付シタル物品持出證ヲ所持スル者ニ非サレハ之ヲ許可セラレサル様致サレタキコト
- 十八 薪炭其他小買物ノ商人御取極置相成タキコト
- 十九 御食料品(獸鳥魚肉及野菜等)ハ總テ東宮職ヨリ持參可致ニ付御用意ニ不及候
- 二十 供奉員用寢具モ總テ當職ヨリ持參可致候

三御發着割

東宮職庶第一〇五四號

大正十年十一月七日

東宮大夫男爵 濱 尾 新

静岡縣知事 道 岡 秀 彦 殿
 通牒

陸軍特種演習御統監ノ爲
 皇太子殿下來十三日東京御發静岡縣下御殿場附近へ行啓可被爲在旨仰出候御發着割別紙ノ通追テ御微行

御發着割

十一月十三日
 午後十二時二十五分 東京御所御出門 自動車
 同 十二時四十五分 東京驛御發車 臨時汽車
 同 三時四十五分 御殿場驛御着車 自動車
 御泊所板妻廠舎

同 十四日 演習御統監
 同 十五日 演習御統監
 午前十一時四十五分 御泊所御出門 自動車

供奉員發着表(其二)

十一日十五日		供奉		御殿場發	
入江東宮侍從長	奈良東宮武官長	本多東宮侍從	壬生東宮武官	濱田東宮武官	入田侍醫
永田東宮屬	伊部東宮內舍人	高橋藥劑員	高田陸軍屬	山口仕人	知本省丁
十一月十六日		後發		御殿場發	
跡片付ノ上歸京		枝川東宮屬	一條東宮屬	前田仕人	伊藤(莊)仕人
矢崎仕人	原田厨司	長峰藥手	鈴木省丁	茂呂省丁	大塚省丁

御召列車發着時間表

△印ハ飲湯用意驛

東京 御殿場間 (十一月十三日)				御殿場 新橋間 (十一月十五日)			
驛名	發着時刻	發着時刻	停車時間	驛名	發着時刻	發着時刻	停車時間
東京	午後一二、四五			御殿場	午後一二、〇〇		
△山北	着 二、五七	發 三、〇一	四	△山北	着 午後一二、三四	發 一二、三八	四
御殿場	着 同 三、四五			新橋	着 同 二、四五		

五奉送迎

十一月十三日午後及同月十五日午後御殿場驛ニ於ケル奉送迎ノ件別紙要圖ノ如ク被定タル旨參謀本部ヨリ通牒アリタリ

十一月十三日午後及同月十五日午後御殿場驛ニ於ケル奉送迎位置ニ關シテハ參謀本部ニラ定メラレタルモ右以外ノ者ニシテ御殿場驛板妻間ニ於ケル御道筋ニ於テ奉送迎ヲナス者頗ル多數ニ上ルヘキニヨリ本縣ハ是等ノ者ヲシテ不規律ニ涉リ混雜ヲ生セシメス送迎ノ赤誠ヲ捧ケシムルコトヲ得セシムヘク奉送迎者ノ位置ヲ別紙要圖ノ如ク定メタリ

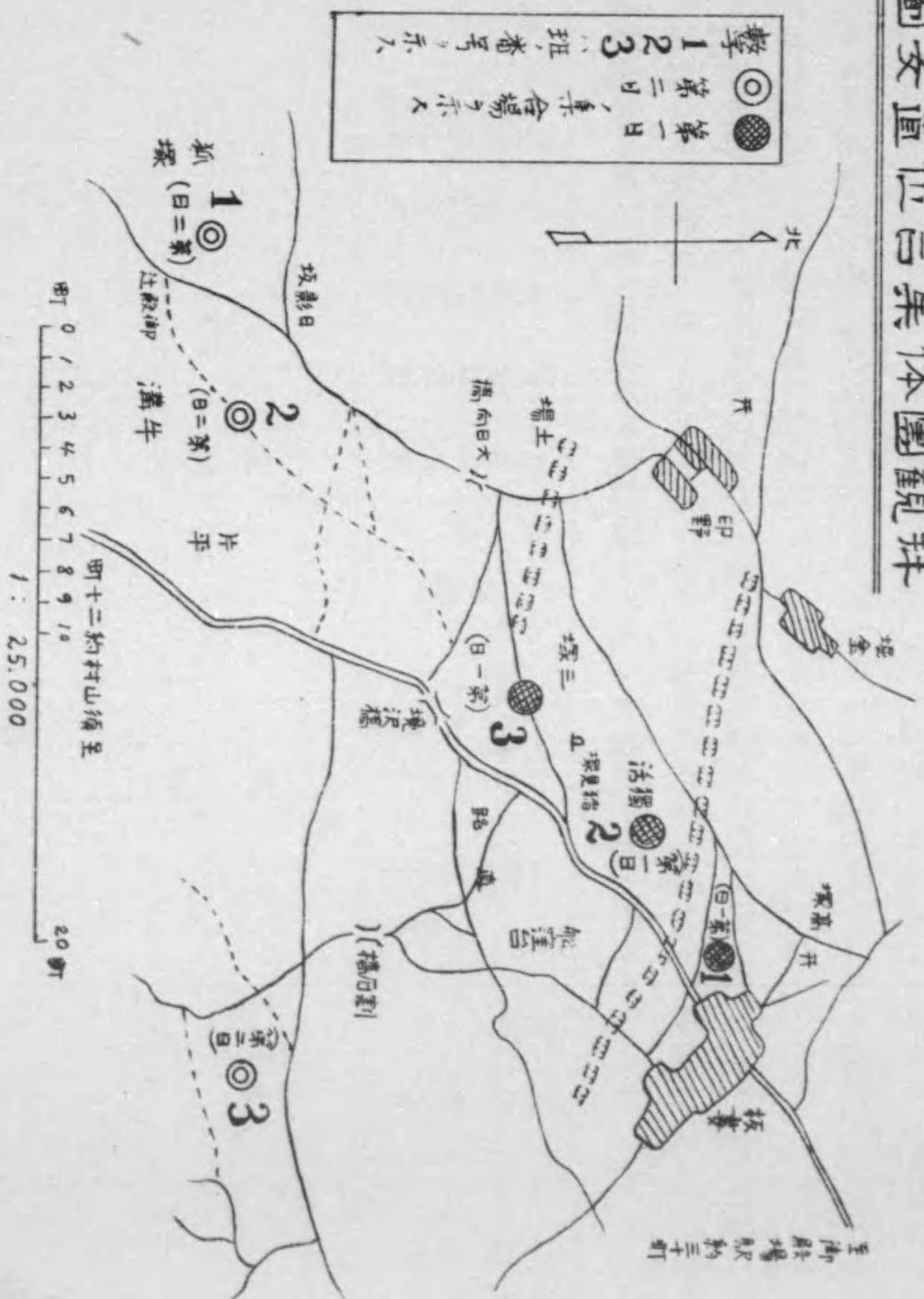
資 格 者

- 一 奏任待遇
- 一 神佛各宗派管長
- 一 門跡寺院住職
- 一 其ノ地方ニ於ケル市町村長
- 一 其ノ地ニ於ケル市會議長副議長
- 一 宮中席次第六階以上ノ者ノ夫人
- 一 宮中席次第七階以下ノ者(奏任官及奏任官待遇ヲ除ク)
- 一 褒賞拜授者
- 一 學位ヲ有スル者
- 一 御由緒寺院住職
- 一 行在所所在地官衙ノ長
- 一 縣社社司
- 一 縣會議員
- 一 郡會議員
- 一 市助役
- 一 市會議員

- 一 縣郡市農會、山林會、重要物産同業組合、茶業組合、畜産組合、水産組合、水産會會長又ハ聯合會長
- 一 商業會議所會頭、副會頭
- 一 縣郡市教育會長
- 一 縣郡市醫師會長、縣齒科醫師會長、縣藥劑師會長
- 一 辯護士會長
- 一 內務大臣ヨリ選獎セラレタル市町村吏員、地方改良功勞者、衛生功勞者、團體ナルトキノ其ノ代表者
- 一 文部大臣ヨリ選獎セラレタル學校職員及教育功勞者
- 一 內務大臣又ハ文部大臣ヨリ選獎セラレタル青年團ノ長
- 一 內務省ヨリ獎勵金又ハ助成金ヲ下附セラレタル救濟團ノ長
- 一 農商務大臣ヨリ選獎セラレタル實業功勞者
- 一 警察官吏消防官吏功勞徽章受領者
- 一 産業組合中央會ヨリ特別表彰セラレタル産業組合ノ長
- 一 赤十字社特別社員以上ノ者
- 一 帝國水難救濟會特別會員以上ノ者
- 一 月本海員救濟會特別會員以上ノ者
- 一 帝國海軍協會特別會員中銀鑄銀色章、黑鑄金色章、金鑄金色章、有功章(孰レモ總裁殿下御肖像付)帶用者

- 一 忠勇顯彰會維持會員以上ノ者
- 一 同仁會特別會員以上ノ者
- 一 帝國飛行協會正會員以上ノ者
- 一 濟生會二百圓以上ノ釀金者
- 一 大日本武德會二等以上有功章佩用者
- 一 前各號ニ該當スル者ノ夫人
- 一 帝國在郷軍人會支部又ハ分會代表者(各二名以下)
- 一 郡市青年團代表者
- 一 赤十字社篤志看護婦人會文會長支會副長及幹事
- 一 愛國婦人會支部長、支部副長幹事(職員章携帯者ニ限ル)及二等以上ノ有功章佩用者

拜觀團體集合位置要圖

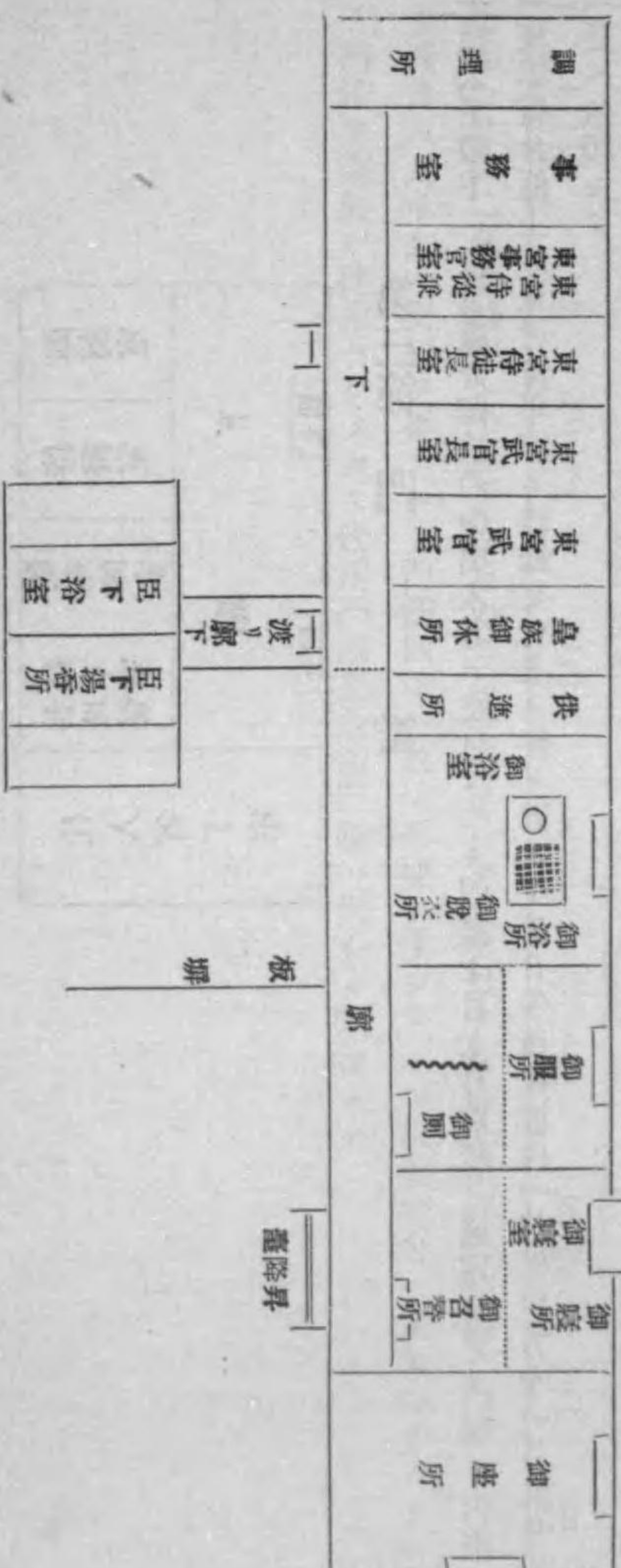


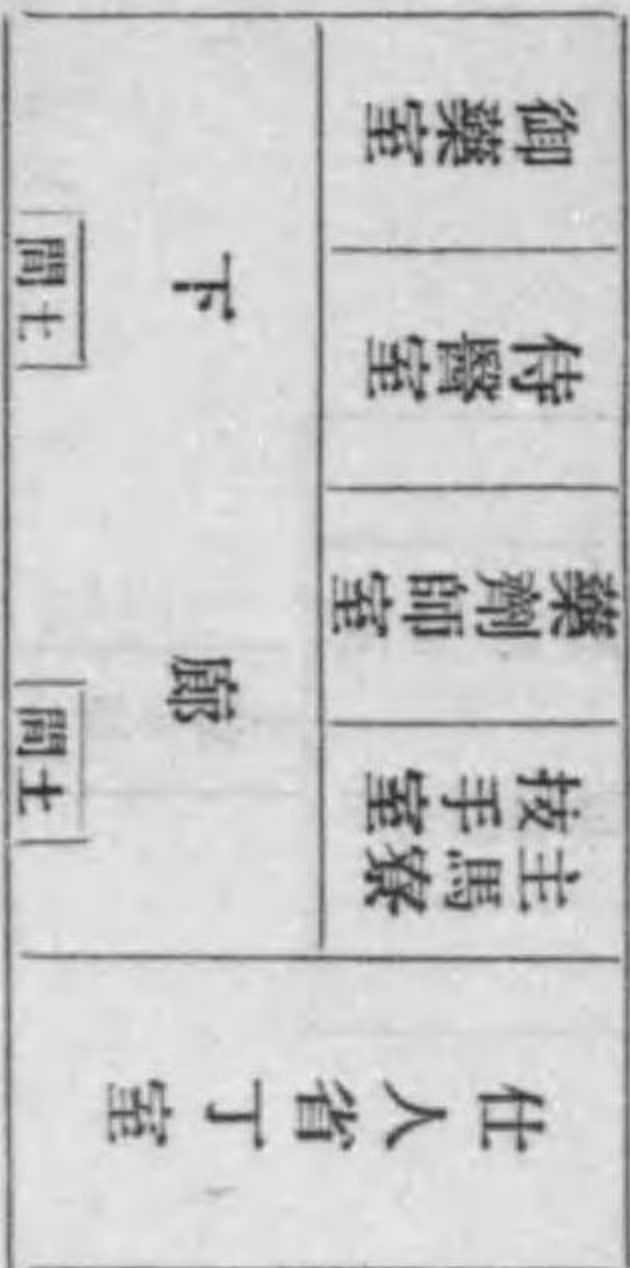
注 拜觀團體 各集合地附近に於て露骨に
 又被火に注意し、常時警戒を怠らざることを要す

第二節 御泊所

一御泊所ハ板妻廠舎東本部ニ定メラレ御座所其他各室・配置ハ別紙圖面ノ通りニシテ現在ノ建物ヲ清掃消毒シタル上簡單ナル應急的修理ヲ加ヘタルノミニシテ御座所ノ如キモ御料ノ卓子椅子各一脚ノ外六枝折屏風ヲ備ヘタル外何等ノ備付品等ノコトナク極メテ質素簡略ナリ

右ノ如キ簡素ヲ極メタル御泊所ニ晝夜御滞留被爲在御不自由ヲ厭ハセラレス晝ハ演習ノ御統監、賜謁其ノ繁激ナル御用務ヲ執ラセラレ夜ハ晩ク迄幕僚ヲ御前ニ召サレテ軍務ヲ纏ハサレ何等ノ御疲勞ナク御機嫌愈々麗ニ其ノ御元氣ト御精勵トヲ拜シテ感激セサル者アラサリキ





第三節 門 鑑

一 皇太子殿下 板妻廠舎御駐泊中出入者ニ交付スヘキ門鑑十月七日別紙ノ通定メタリ
 一 板妻廠舎備上原里村青年等ニ門鑑交付上ノ便ヲ圖リ十二日午後役場内一部借用方十一月二日原里村長へ依頼セリ

一 十一月五日門鑑交付方左ノ通定メ各係竝關係個所へ通知セリ
 十一月十二日午前九時三十分ヨリ正午十二時迄御殿場事務所、同日午後一時ヨリ午後四時迄原里村役場、十三日ヨリ十五日迄ハ御殿場及板妻廠舎兩事務所ニ於テ健康診断ノ上交付簿ニ捺印セシメ交付ス

一 十月九日門鑑使用心得左ノ通定メ門鑑交付ト同時ニ之ヲ交付セリ

御門鑑使用心得

一 門鑑ノ交付ヲ受ケタル者ハ取扱ヲ鄭重ニシ且他人ヲシテ之ヲ使用セシムヘカラス

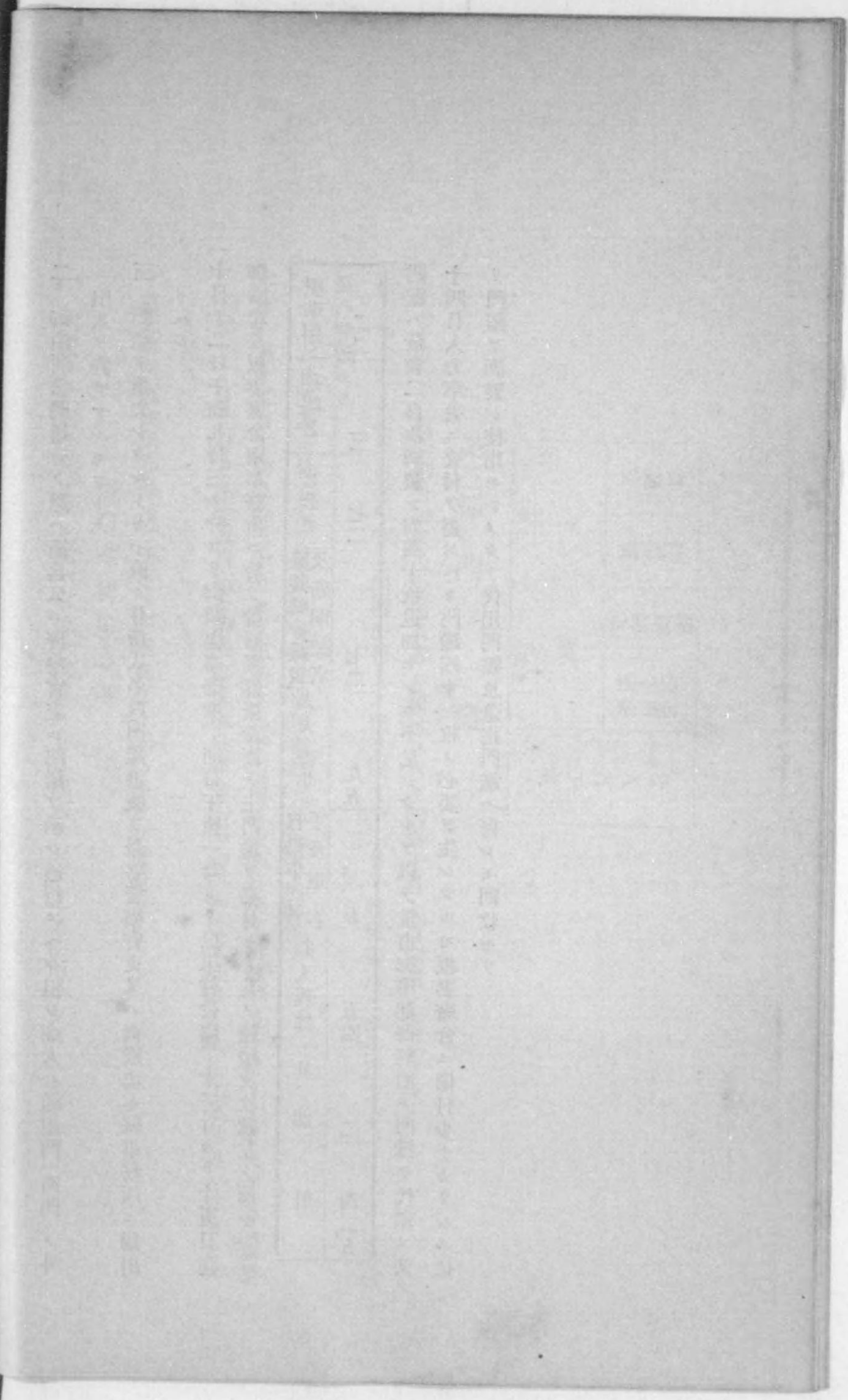
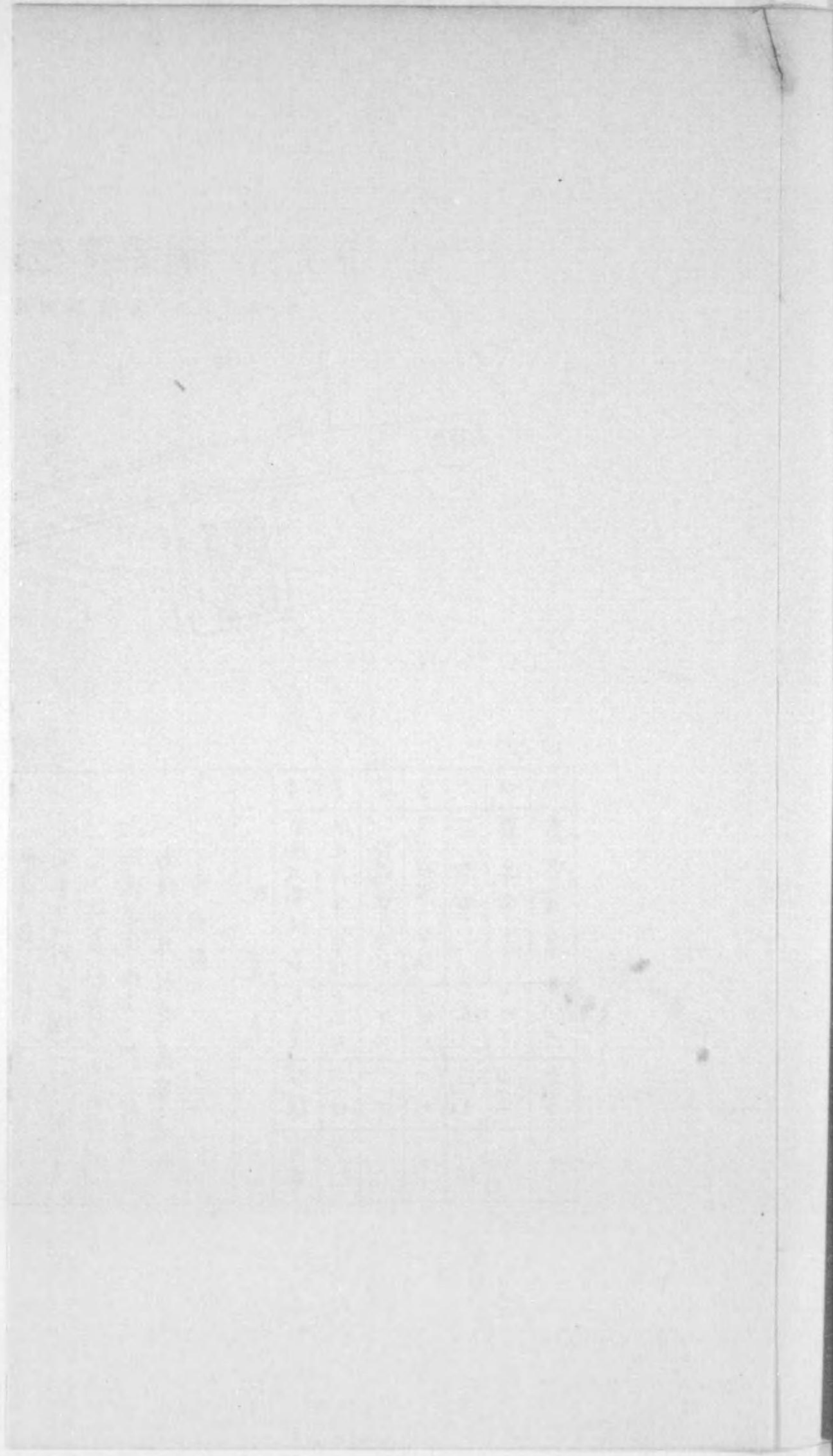
二 御泊所諸門通行ノ際ハ衛兵又ハ警察官吏ニ門鑑ヲ示シ通行スヘシ但シ商人ハ通用門(西門)ノ外出入ヲ許ササルモノトス

三 門鑑ヲ遺失シタルトキハ直ニ住所氏名竝門鑑番號ヲ最寄警察官吏又ハ御殿場本縣事務所ニ届出ツヘシ

一 十月十二日午前九時三十分ヨリ御殿場事務所、同日午後一時ヨリ原里村役場、十三日ヨリ十五日迄御殿場及板妻廠舎兩事務所ニ於テ警察健康診断ノ上門鑑ヲ交付セリ其ノ種類及枚數左ノ如シ

照準用	拜謁者	官公吏	陪觀縣會議員 及新聞記者	人夫(青年)	自動車運轉 手及車夫	商人雜仕	其他	計
一二二	三三	七二	七二	九五	一〇五	五四	二	四二五

門鑑ハ最初二百枚調製シ尙四十枚追加セシニ不足シタルヲ以テ當市御用邸御駐泊ノ門鑑ヲ代用ス又十四日人力車夫ニ交付ヲ要スヘキ門鑑四十一枚ノ必要ヲ生シタルモ板妻廠舎ニ備付少ナカリシニ依リ門鑑ヲ調製シ使用セシメタリ代用門鑑及急造門鑑ハ何レモ回收セリ



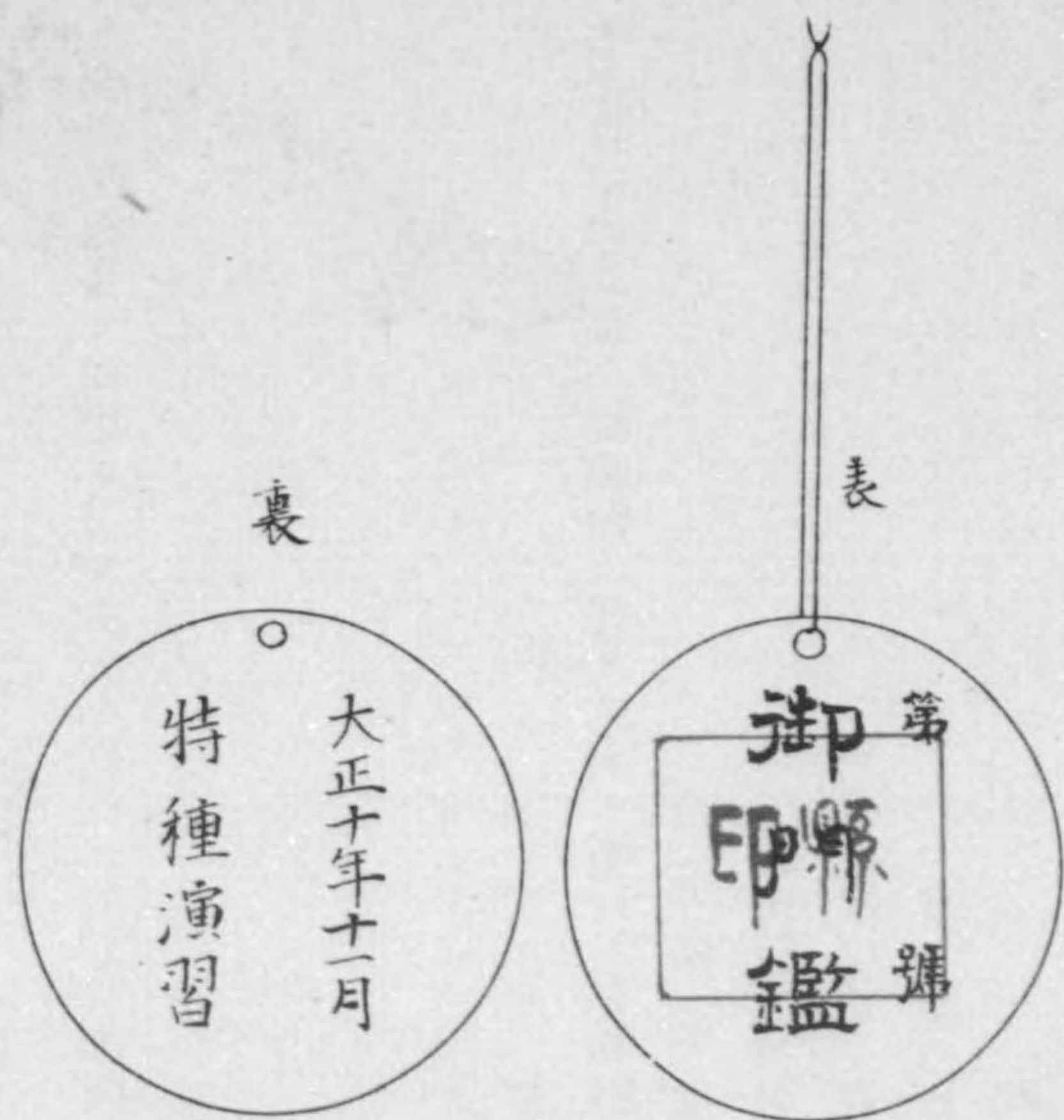
原里村於奉送迎位置要圖

(十一月三十日午後及同月十五日午後)



配 置 表		注 意	
番 号	學 校 及 團 体 名	人 員	間 數
1	原里尋常小學校	二三七	二四
2	印野尋常小學校	一二二	一二
3	須山尋常小學校	一七〇	一七
イ	在 卿 軍 人	一五九	三九
ロ	青 年 會 員	一七〇	四二
ハ	處 女 會 員	八〇	二〇

一 御通過約三十名前迄ニ集合
 整列スルモノトス
 二 兒童ニ列ニ其他ニ列ニ各所
 定ニ位置ニ整列スルモノトス
 三 御通過後約五分間ヲ経テ
 御頂路外ニ引率シ適當ノ場所
 ニ至リ解散ス



紙質模造紙厚紙
白色
內徑 一吋八分
紐長 四寸
青色

第四節 拜 謁

十一月十三日午後四時 御泊所御着後直ニ御座所ニ於テ左記ノ諸員ニ單獨拜謁仰付ケラレタリ

知事	道岡秀彦
内務部長	松原權四郎
警察部長	辛島知巳
陸軍憲兵少佐	須藤昇司
内務事務官	中谷政一

一同月十四日午前九時 御座所ニ於テ左記ノ諸員ニ單獨拜謁仰付ケラレタリ

陸軍中將	松井庫之助
同	渡邊滿太郎
同	吉江石之助
同	神頭勝彌
陸軍少將	高橋於菟丸

右了リテ御泊所前面ノ廣場ニ於テ左記ノ諸員ニ列立拜謁仰付ケラレタリ

(演習關係員)

陸軍騎兵大佐	服部直彦
--------	------

同一等軍醫正醫學博士 岩崎小四郎
 同 砲兵中佐 牟田準三郎
 同 歩兵少佐 松浦淳六郎
 同 工兵少佐 星川久七郎
 同 憲兵少佐 萬喜八郎
 同 歩兵大尉 春田隆四郎
 同 奧保夫
 同 阿南惟藏
 陸地測量師 水谷英保
 陸軍砲兵大尉 木村兵太郎
 同 歩兵大尉 小藤惠
 同 騎兵大尉 藤本晴三
 同 歩兵中尉 野田謙吉
 同 輜重兵中尉 藤林吉之助
 同 一等軍醫 三宅二一
 同 歩兵大尉 池ノ上賢吉
 同 森村經太郎

(行啓事務關係高等官同待遇及演習地在任ノ高等官同待遇者)

同 憲兵大尉 甘粕正彦
 同 歩兵中尉 森田範正
 同 加藤守雄
 同 中村正雄
 同 羽場龍郎
 同 二等主計 羽場龍郎
 陸軍三等軍醫正 瀬戸玄一郎
 静岡縣理事官 本多猶一郎
 静岡縣技師 藤宮惟一
 同 渡邊惟一
 静岡縣駿東郡長 古澤俊次
 静岡縣技師 田中傳吾
 静岡縣理事官 岡田周造
 陸軍歩兵少尉 勝間田憲衛
 静岡縣技師 眞田幸平
 静岡縣理事官 飯沼一省
 静岡郡技師 牧野亮一

静岡縣理事官 篠田茂助
 静岡縣警視 兒玉九一
 衛生技師 齊藤俊雄
 產業技師 爲永繁三
 陸軍歩兵少尉 向井忠也
 同 工兵少尉 芹澤英夫
 同 歩兵少尉 鎌野源一
 同 三等獸醫 迫田哲三
 同 歩兵少尉 中島不二太郎
 公立實業學校校長 友添佐一
 公立實業學校教諭 若林喜三郎
 同 有蘭仁藏
 元帥陸軍大將 伯爵 奧保章
 同 子爵 川村景明
 同 子爵 上原勇作
 陸軍大將 秋山好古

尙同日午前十一時三十分左記元帥大將ニ御座所ニ於テ單獨拜謁仰付ケラレタリ

同 松川敏胤
 同 柴五郎
 同 男爵 田中義一

一同日静岡縣會議長原保太郎同副議長袴田三雄ハ縣民ヲ代表シ御泊所ニ參上シ入江東宮侍從長ヲ經テ御禮言上方ヲ願出テタルニ御座所ニ於テ特ニ拜謁ノ光榮ニ浴セリ

第五節 獻上品

一十一月十三日日本縣知事ハ縣下所産ノ温州蜜柑及次郎柿各一籠竝左記圖書等ノ献上ヲ爲セリ
 静岡縣勢要覽 一冊
 静岡縣寫真帖 一冊
 静岡縣史蹟名勝誌 一冊
 特種演習記念繪葉書 五組
 一同日駿東郡泉村安生慶三郎ハ本縣知事ヲ經テ太刀(長二尺四寸五分)一口ヲ献上シタル外駿東郡長及駿東郡長ヲ經テ左ノ通獻上ヲ爲セリ

興津鯛 駿東郡長 古澤俊次
 野鶉 原里村長 芹澤十四雄
 鯉魚 御殿場町長 勝亦國臣
 籠籠籠

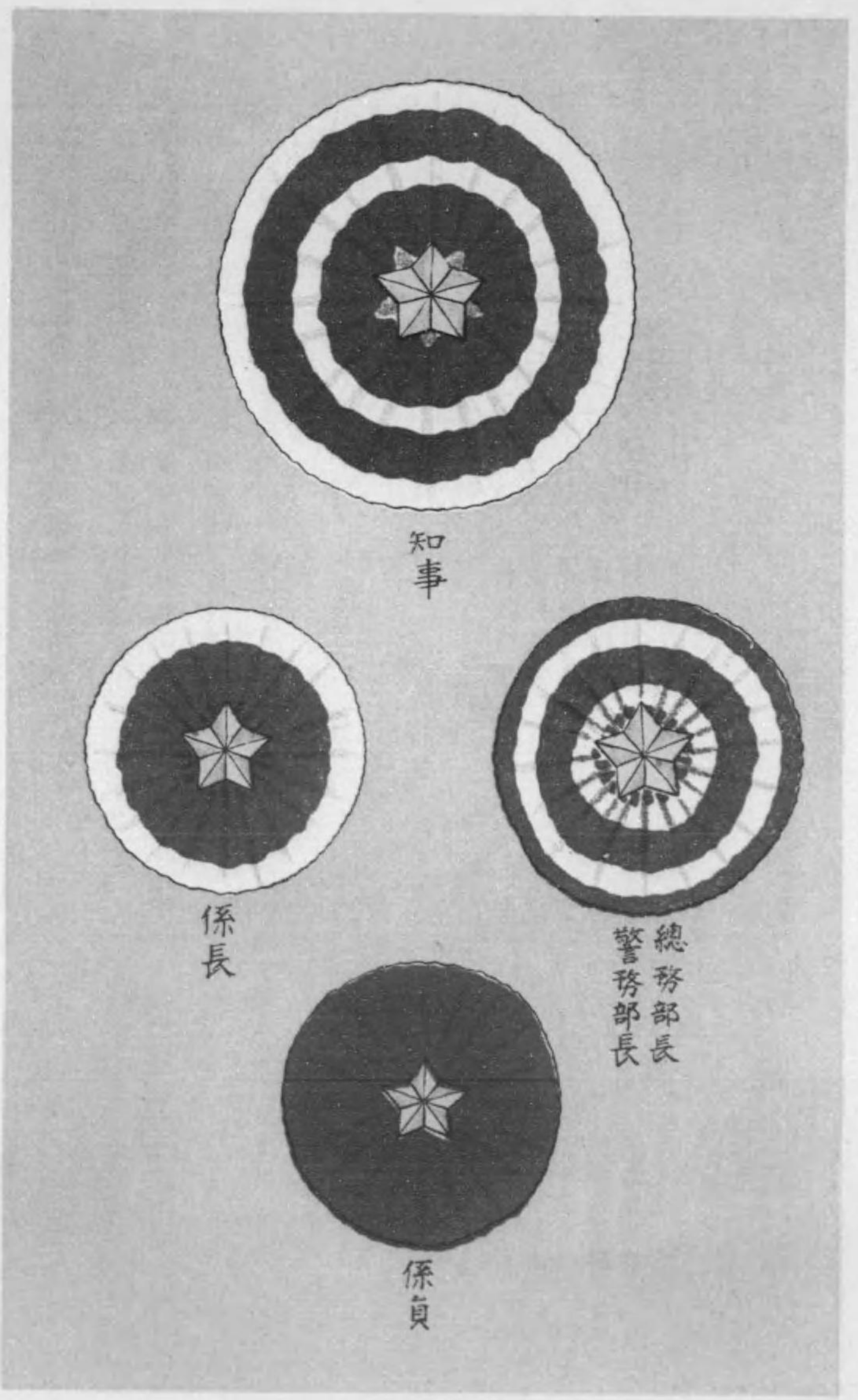
一同月十四日園藝試験場長恩田鐵彌ハ同試験場栽培ノメロン一籠ヲ献上シタリ

第五章 庶務關係

庶務ニ關スル事項ハ廣汎ニ亘リ前記諸規程ノ設定及後章ニ記載スル豫算決算ノ外左記事項及記録ノ編纂ニ從事セリ

第一節 徽 章

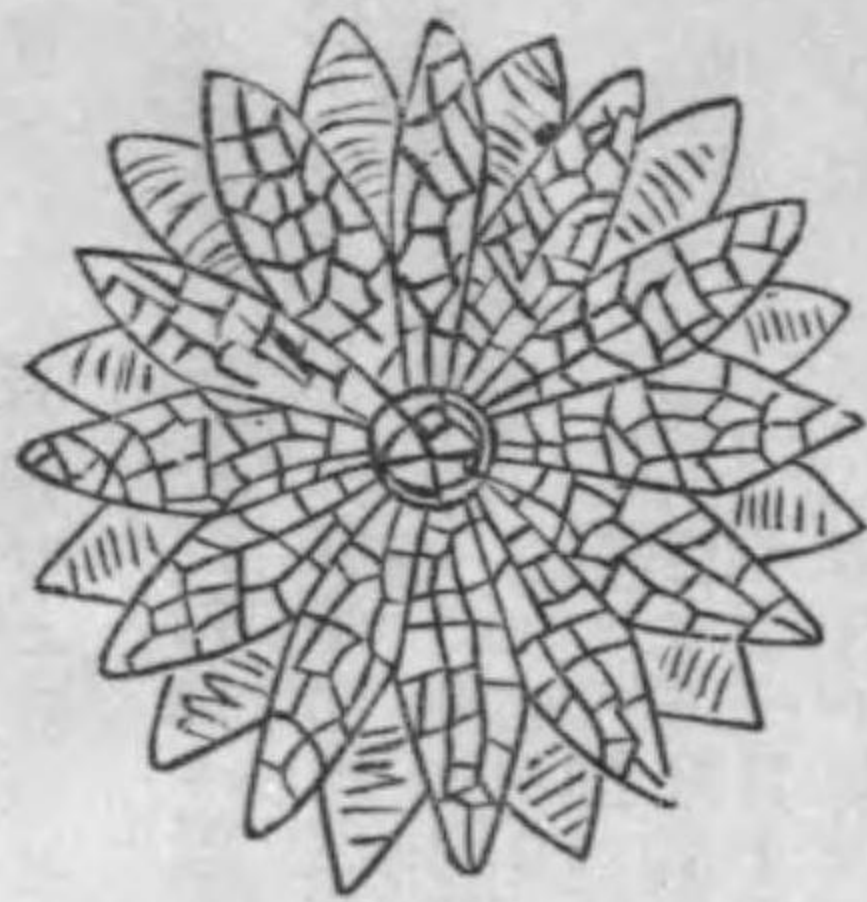
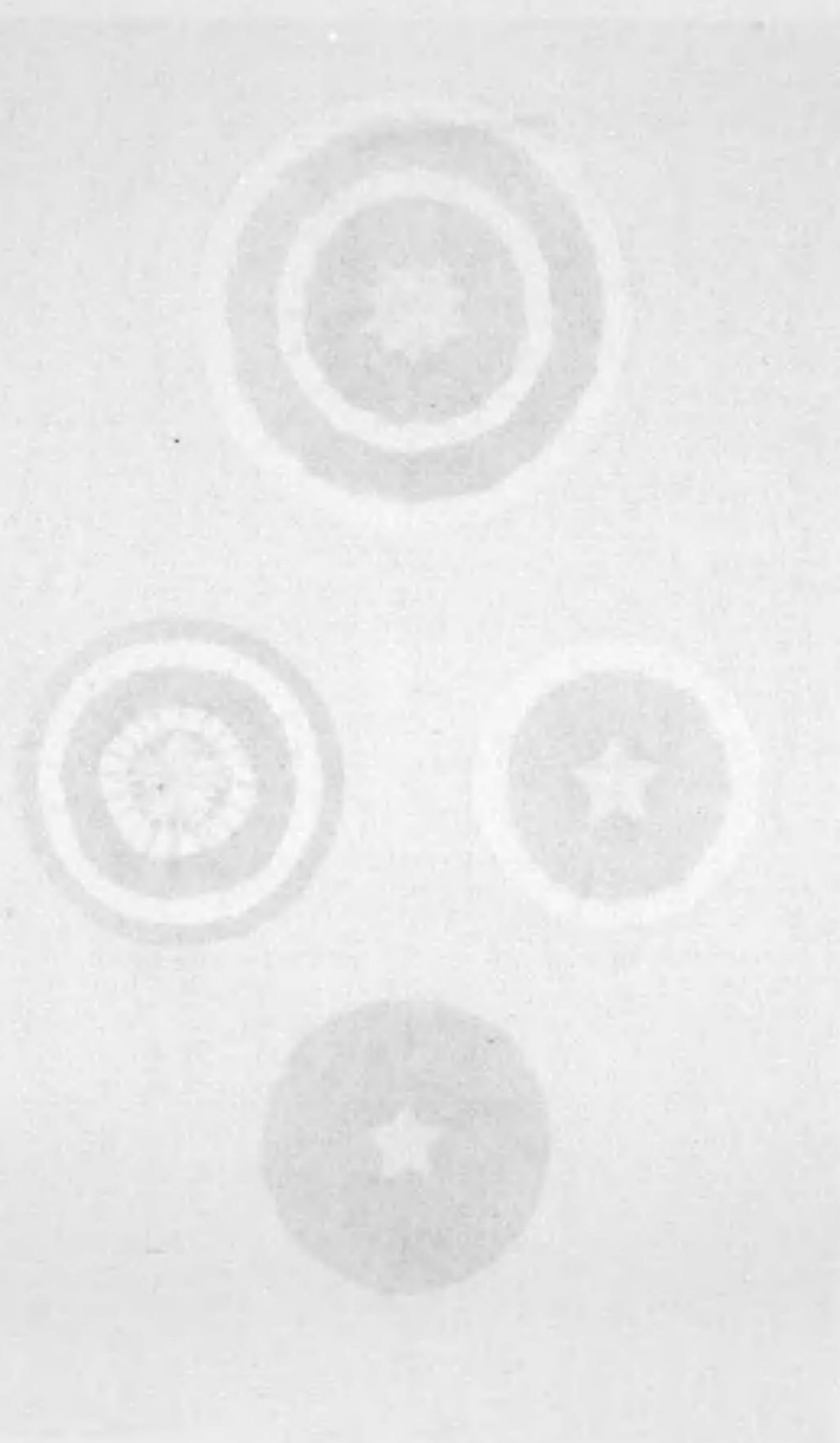
特種演習ニ際シ各委員ノ佩用スヘキ徽章ハ左ノ種類ニ區別シテ制定セリ



尙演習地タル駿東郡ニ於テハ係員ノ徽章ヲ左ノ二種ニ分テテ制定セリ、而シテ臨時傭人ノ徽章トシテハ青リボンヲ蝶形ニ結ヒタルモノヲ佩用セシメタリ

郡係長 (郡長)

郡係員



表硝子張
裏金箔製
中央赤色
内辨銀色
外辨綠色



表面硝子張
裏面金箔製
上紅葉赤色
下紅金梨地
周圍金屬ツチ

第二節 事務所

特種演習ニ關スル事務ヲ處理スル必要上事務所及出張所ヲ左ノ四ヶ所ニ設置シタリ

板妻事務所 駿東郡原里村板妻廠舎内

御殿場事務所 駿東郡御殿場町御殿場驛前松屋旅館内

裾野事務所 駿東郡泉村裾野驛前小松屋旅館内

御殿場驛前出張所 駿東郡御殿場驛構内

第三節 知事兩部長宿舍

特種演習ニ關スル事務執行上板妻廠舎内、御殿場驛前及裾野驛前ノ三ヶ所ニ事務所ヲ設ケ係員ヲ之レニ配置シテ遺憾ナキヲ期シタリシモ更ニ命令ノ統一連絡指揮ノ迅速正確ヲ圖ル爲知事及兩部長ノ宿舍ヲ特ニ板妻廠舎ト御殿場驛トノ中間ニ當ル原里村勝間田新治郎方ニ定メ電話ヲ設置シ以テ遺算ナキヲ期シタリ

第四節 氣象觀測

氣象ノ觀測ニ關シテハ演習地ニ近キ沼津測候所ヲシテ之ニ當ラシメ一定期間ニ於ケル天氣豫報ヲ警察電話ヲ以テ板妻廠舎内縣事務所庶務係ニ通知セシメ庶務係ハ更ニ之ヲ毎回左記ニ通知セリ

東宮職 統監部 沼津及御殿場警察署 知事 內務、警察兩部長 各係

觀測要項

觀測期間 自十一月十日七日間
至十一月十六日七日間
每日午前六時、正午、午後六時(三回)

觀測時刻 鹿兒島 福岡 高知 境 潮岬 大阪 福井

觀測場所 名古屋 相川 八丈島

觀測要錄 氣壓 風向 風速 雨量 雲量 雲形 記事

第五節 記念印刷物

皇太子殿下並各宮殿下ニ献上シ奉リ尙ホ陪觀將校新聞記者縣會議員等ニ配布シタル記念印刷物ハ左ノ各種ナリ

- 静岡縣勢要覽 静岡縣史蹟名勝誌
- 静岡縣寫真帖 静岡縣勢一覽(統計)
- 静岡縣勢一覽(案内) 静岡縣繪葉書(三枚)

第六節 自働車及人力車

特種演習ニ際シ事ヲ敏捷ニ處理スルノ要ヲ認メ特ニ意ヲ自働車ノ配給ニ注キ十一月十二日ヨリ十五日ニ至ル四日間縣下及神奈川縣ヨリ數十臺ヲ雇上ケ 宮殿下並陪觀貴賓ノ迎送ニ盡シ又新聞通信員及係員ノ乗用ニ任セ以テ演習事務ニ遺漏ナキコトヲ期シタルカ東宮職及統監部ヨリ依頼セラレタルモノヲ合シテ備上ノ車輛ヲ示セハ左ノ如シ

- 自働車
- 東宮職 延十一輛 內(乗用) 七輛
- 統監部 延二十一輛 貨物 四輛
- 縣 延定期三十輛 延臨時三十二輛

附人力車

東宮職 二人曳延六輛
 統監部 一人曳延六輛
 縣 三人曳延四十輛
 一人曳延二十輛

第六章 兵事關係

第一節 統監部

特種演習統監部ハ駿東郡原里村板妻廠舎ニ設ケラレ、先發隊ハ十一月十日來舎シテ諸般ノ準備ニ着手シ、本縣ニ於テモ同日ヨリ同所ニ於テ事務ニ從事ス
 皇太子殿下ニハ十一月十三日ヨリ十五日迄同所ニ御駐泊親シク御統監アラセラレタリ
 統監部幕僚、統監部職員、審判官、陪從官附屬學生、第三師團及第十三師團部隊長幕僚等ノ區分竝統監部衛兵服務規程左ノ如シ

大正十年 特種演習 統監部幕僚編成表

長	陸軍中將	菊地慎之助
同副官	陸軍步兵中尉	池ノ上賢吉

幕僚	統監部附
陸軍少將 金谷範三	陸軍砲兵大尉 木村兵太郎
陸軍騎兵大佐 服部眞彦	陸軍步兵大尉 小藤惠
陸軍步兵少佐 松浦淳六郎	陸軍步兵大尉 森村經太郎
陸軍工兵少佐 星川久七	陸軍步兵中尉 森田範正
陸軍歩兵大尉 春田隆四郎	陸軍歩兵中尉 加藤守雄
陸軍歩兵大尉 奥保夫	陸軍歩兵中尉 野田謙吾
陸軍歩兵大尉 阿南惟幾	陸軍歩兵中尉 中村正雄
陸軍中將 伯爵 奈良武次	
陸軍騎兵大佐 壬生基義	
陸軍歩兵少佐 濱田豊城	

大正十年 特種演習 統監部管理部編成表

長	兼陸軍騎兵大佐	服部眞彦
兼陸軍歩兵少佐	兼陸軍歩兵大尉	松浦淳六郎
兼陸軍騎兵大尉	兼陸軍騎兵大尉	阿南惟幾
兼陸軍騎兵大尉	兼陸軍騎兵大尉	藤本晴三
兼陸軍歩兵大尉	兼陸軍歩兵大尉	淺野嘉一

所ト稱スノ守衛ニ任ス

五六

第二 衛兵ノ服務ニ關シテハ陸軍禮式及衛戍勤務令ニ據ルノ外本規定ニ據ルヘシ

第三 衛兵ハ特ニ其重大ナル責任ニ顧ミ嚴ニ諸規定ヲ遵守シ全幅ノ注意ヲ拂ヒ其任務ヲ完フスヘシ

第四 衛兵ノ編成ハ附表ノ如シ

第五 衛兵ノ配置ハ別ニ之ヲ定ム

服 務

其一通 則

第六 衛兵ノ服務ハ儀式ノ場合ニ於ケル單裝トシ左上膊ニ白布ヲ纏ヒ背囊ニハ襦袢袴下及武器被服ノ手入具等ヲ收容スルモノトス

第七 衛兵ノ日課時限左ノ如シ

朝食 午前七時

晝食 正午

夕食 午後五時三十分

第八 御泊所ノ諸門ハ左ニ掲クル者ニ限り通行セシムヘシ

一 東宮職及統監部職員、陸海軍將校同相當官、警察官ニシテ制服ヲ著用スル者

二 東宮職ヨリ交付シタル供奉員徽章又ハ關係員徽章ヲ附著スル者

三 東宮職、統監部及地方廳ニ於テ發行スル通行門鑑ヲ所持スル者

四 拜謁又ハ伺候資格者ニシテ正規ノ服裝ヲ爲シタル者

五 前各號ノ者乗車馬ノ場合ニ在リテハ其馭者、車夫及馬丁

六 前各號ノ外特ニ許可セラレタル者但商人ハ通用門ノ外出入ヲ許サス

第九 衛兵ハ居常服裝ヲ整ヘ急遽事ニ應スルノ準備ヲ完成シアルヲ要ス

統監殿下ニ對シ奉リ敬禮スル場合及警戒、検査ノ爲整列スルトキハ背囊ヲ負フモノトス但警戒ノ爲急ヲ要スル場合ハ此限リニアラス

第十 他ノ皇族ニ對シ奉ル敬禮ハ右ニ準ス但事急ナレハ背囊ヲ負ハサルコトヲ得
衛兵ハ右ノ外總テ敬禮ヲ行フコトナシ

其二 衛兵司令

第十一 衛兵司令ハ部下衛兵ノ軍紀ヲ緊張シ嚴正ニ勤務ニ服セシムヘシ

第十二 衛兵司令ハ自ラ御泊所構内ヲ巡視スルノ外屢々部下ヲシテ巡察セシムヘシ

第十三 衛兵司令ハ統監部憲兵及警備ニ任スル地方警察官ト連絡シ衛兵ヲシテ該憲兵、警察官ノ配置ヲ知悉セシメ御警衛上遺漏ナキヲ期スヘシ

第十四 衛兵司令ハ前項ノ憲兵、警察官ヨリ援助ノ請求アリタルトキハ應急ノ處置ヲナシ且之ヲ管理部長ニ報告スヘシ

第十五 衛兵司令ハ朝夕人員検査ヲ行ヒ又適時衛兵ヲ整列セシメ單裝検査ヲナスヘシ

第十六 衛兵司令ハ衛兵所備附彈藥ノ保管ニ任ス

五七

衛兵所備附ノ彈藥ハ管理部長ノ命令アル外分配スルヲ禁ス

第十七 衛兵司令ハ午後九時ヨリ午前五時迄衛兵ノ三分ノ一以内ニ假眠ヲ許シ又毛布ヲ使用セシムルコトヲ得

第十八 衛兵司令ハ諸門ヲ通行シ得ル者ト雖舉動及携帶品ニ於テ疑アリト認メタルトキハ之ヲ取調ヘ要スレハ憲兵又ハ警察官ニ引渡スヘシ

第十九 衛兵司令ハ服務中疾病ニ罹リタル者アルトキハ直ニ管理部長ニ届出其處置ヲ受クヘシ

第二十 衛兵司令ハ日誌ヲ調製シ將來ニ關スル意見ヲ添ヘ任務終了後管理部長ニ提出スヘシ

其三 衛舍掛、步哨掛、巡察、步哨
第二十一 衛舍掛ハ衛兵司令ノ命ヲ承ケ衛兵所内外ノ清潔保存ニ任シ備付諸物品ヲ監守シ火元取締ニ任スヘシ

第二十二 衛舍掛ハ消耗品及食事ノ受領分配ヲ掌ル

第二十三 步哨掛ハ衛兵司令ノ命ヲ承ケ步哨ノ交代ヲ掌リ哨舍ノ清潔保存ニ任シ步哨ヲシテ服裝ヲ正フシ守則ヲ熟知シ之ヲ嚴密ニ實施セシムヘシ

第二十四 巡察ハ非常ノ外特ニ指定セラレタル区域内ニ立入ルヘカラス

第二十五 步哨ハ御泊所表門裏門及通用門ヲ守備シ其近傍ヲ警戒スルヲ以テ任トス又憲兵、警察官ノ配置ヲ知悉シ之ト協同動作ヲナスヘシ

第二十六 步哨ハ諸門ヲ通行シ得ル者ト雖舉動及携帶品ニ於テ疑アルトキハ一時其通行ヲ停止シ名刺

ヲ徴シテ衛兵司令ノ指示ヲ受クヘシ

第二十七 步哨ハ其守地附近ニ於テ疑ハシキ者ヲ認メタルトキハ之ヲ誰何シ若シ暴行ヲ加ヘントスルノ氣勢アレハ直ニ之ヲ捕ヘ統監部憲兵ニ引渡シ且衛兵司令ニ報告スヘシ之カ爲要スレハ武器ヲ使用スルコトヲ得

其四 非常事變

第二十八 衛兵司令ハ非常事變及其徵候アル場合急遽事ニ處スルノ準備ヲ欲カサルコトニ注意スヘシ

第二十九 衛兵司令ハ御泊地ニ於ケル非常事變ニ際シ管理部長ノ指揮ヲ受クル暇ナキトキハ其責ニ任シ直ニ適當ノ處置ヲナシ且ツ憲兵及警察官ニ急報スヘシ

第三十 御立退ノ場合ニ在リテハ衛兵司令ハ速ニ非常御立退所ニ所要ノ衛兵ヲ先遣シ豫定ノ配置ニ就カシムヘシ

第三十一 非常御立退所ノ守衛ニ就テハ本規定ヲ準用ス

衛兵編成表

中(少)尉	軍曹	上等兵	一、二等卒	喇叭手	計
司令	一 衛舍掛	一 步哨掛	二	一六	一
備考	時宜ニ依リ步哨掛上等兵ヲシテ衛舍掛ヲ代理セシムルコトヲ得				
					二一

特別大演習統監部衛兵服務日誌

凡 例

本日誌ハ統監部衛兵服務ニ關スル一切ノ事項ヲ記載シ勤務ノ完全ヲ期シ併セテ將來ノ參考ニ資スルモノトス記載ニ當テハ左ノ諸項ニ注意スヘシ

- 一 皇太子殿下御泊所御發著ノ日時
- 二 守則ニ關スル命令注意等
- 三 憲兵及地方警察官等ト連繫ニ關スル件
- 四 管理部長及東宮職等ヨリ取締上其他ニ就キ注意又ハ協議アリタルトキハ其要旨、時刻及採リタル處置
- 五 御泊所構内ニ於テ舉動疑ハシキ者及非違者ヲ發見シタルトキノ處置
- 六 非常ニ際シ御立退アラセラレタルトキハ其狀況ノ詳細
- 七 構内ノ靜否及火氣取締ノ狀況
- 八 將來ニ關スル意見

記載例
 月 日 曜日 天候 司令 官氏名 印
 一何々ニ關スル件
 何々……………

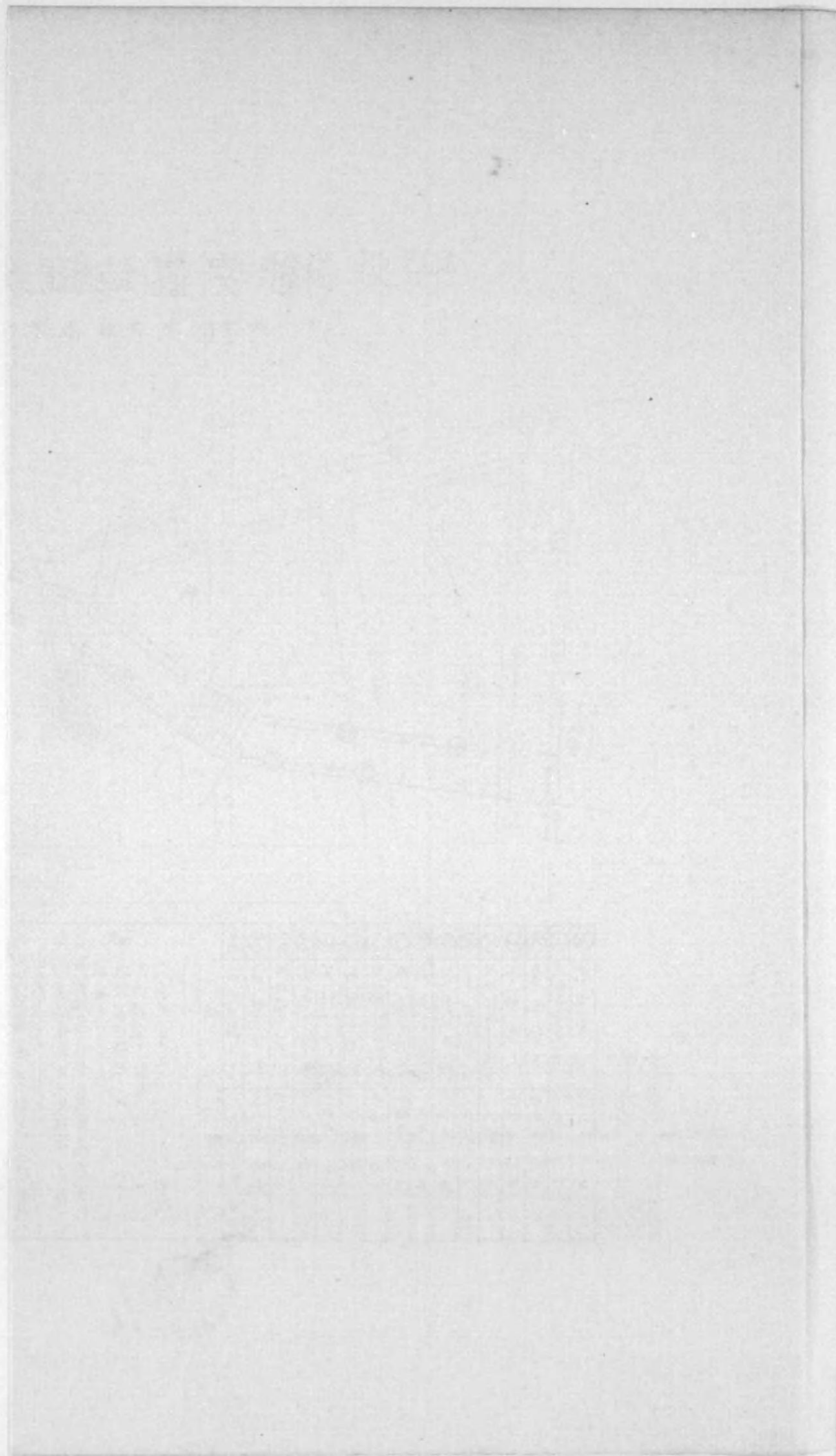
第二節 演習拜觀

參謀本部庶務課長ヨリ特種演習ニ際シ公共團體、學校生徒等ニシテ引率成隊ノ者ニ限り、演習拜觀許可アルヘキニ付希望團體取纏メ回答アリ度旨通知ニ接シタルヲ以テ、直ニ各郡市長ニ通牒ヲ發シテ調査セシメタルニ、拜觀希望ノモノ別表ノ如ク其ノ數百廿四團體、人員二萬一千三百四十二名ヲ算フルニ至レリ、而シテ之カ輸送ニ付テハ鐵道當局ト別表計畫書ノ如ク協定ヲ遂ケテ輸送ノ圓滑ヲ計レリ尙拜觀者ノ心得ヘキ諸規程別紙ノ如シ

演習拜觀團體集地一覽表 (要圖參照)

區分	拜觀團體集地	誘導將校所在地	集合日時	集合上ノ注意
第一班	御殿場ヨリ須山ニ通スル道路 板妻十字路ヨリ西南約五百米ノ道路北側附近	同上	十一月十四日 正午	一 耕作物植林等ヲ損セサルコト
第二班	同右ヨリ更ニ西南約五百米道路北側高地附近	同上	同上	二 道路ヲ閉塞セサルコト
第三班	御殿場―須山道上境澤橋北方高地附近	同上	同上	三 拜觀ノ爲他ニ移動スル際能ク集結シアルコト
第一班	御殿辻監の壕西北約二百米高地附近	同上	十一月十五日 午前五時	
第二班	御殿辻監の壕東北方約三百米高地附近	同上	同上	
第三班	割石橋東南約五百米ノ高地附近	同上	同上	

誘導將校ハ集合指定時刻約三十分前ヨリ各集地附近ニアリ

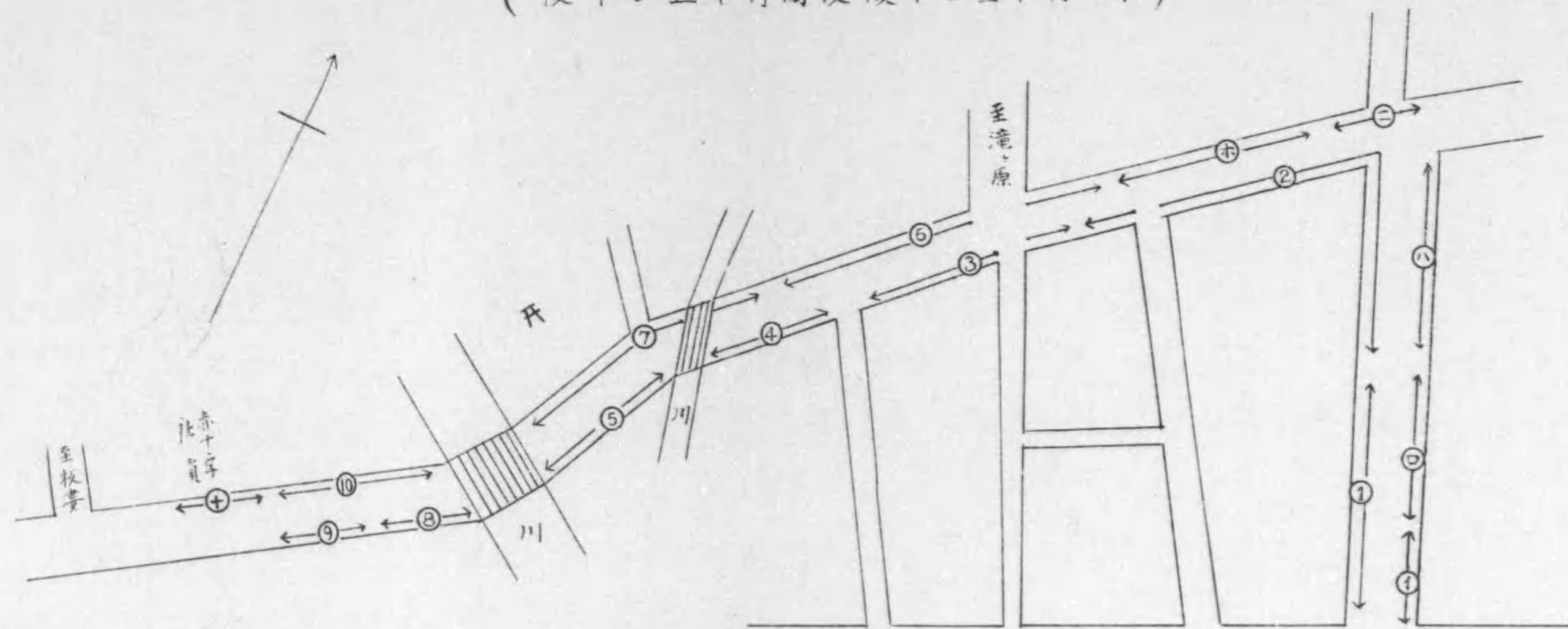


此書之內容，係根據作者多年之研究，而編纂成此。其內容之豐富，實為一般讀者所罕見。茲將全書之內容，分列於後，以供讀者之參考。

卷次	篇名	頁數
第一卷	第一章	1-10
第一卷	第二章	11-20
第一卷	第三章	21-30
第一卷	第四章	31-40
第一卷	第五章	41-50
第一卷	第六章	51-60
第一卷	第七章	61-70
第一卷	第八章	71-80
第一卷	第九章	81-90
第一卷	第十章	91-100
第一卷	第十一章	101-110
第一卷	第十二章	111-120
第一卷	第十三章	121-130
第一卷	第十四章	131-140
第一卷	第十五章	141-150
第一卷	第十六章	151-160
第一卷	第十七章	161-170
第一卷	第十八章	171-180
第一卷	第十九章	181-190
第一卷	第二十章	191-200
第一卷	第二十一章	201-210
第一卷	第二十二章	211-220
第一卷	第二十三章	221-230
第一卷	第二十四章	231-240
第一卷	第二十五章	241-250
第一卷	第二十六章	251-260
第一卷	第二十七章	261-270
第一卷	第二十八章	271-280
第一卷	第二十九章	281-290
第一卷	第三十章	291-300
第一卷	第三十一章	301-310
第一卷	第三十二章	311-320
第一卷	第三十三章	321-330
第一卷	第三十四章	331-340
第一卷	第三十五章	341-350
第一卷	第三十六章	351-360
第一卷	第三十七章	361-370
第一卷	第三十八章	371-380
第一卷	第三十九章	381-390
第一卷	第四十章	391-400
第一卷	第四十一章	401-410
第一卷	第四十二章	411-420
第一卷	第四十三章	421-430
第一卷	第四十四章	431-440
第一卷	第四十五章	441-450
第一卷	第四十六章	451-460
第一卷	第四十七章	461-470
第一卷	第四十八章	471-480
第一卷	第四十九章	481-490
第一卷	第五十章	491-500
第一卷	第五十一章	501-510
第一卷	第五十二章	511-520
第一卷	第五十三章	521-530
第一卷	第五十四章	531-540
第一卷	第五十五章	541-550
第一卷	第五十六章	551-560
第一卷	第五十七章	561-570
第一卷	第五十八章	571-580
第一卷	第五十九章	581-590
第一卷	第六十章	591-600
第一卷	第六十一章	601-610
第一卷	第六十二章	611-620
第一卷	第六十三章	621-630
第一卷	第六十四章	631-640
第一卷	第六十五章	641-650
第一卷	第六十六章	651-660
第一卷	第六十七章	661-670
第一卷	第六十八章	671-680
第一卷	第六十九章	681-690
第一卷	第七十章	691-700
第一卷	第七十一章	701-710
第一卷	第七十二章	711-720
第一卷	第七十三章	721-730
第一卷	第七十四章	731-740
第一卷	第七十五章	741-750
第一卷	第七十六章	751-760
第一卷	第七十七章	761-770
第一卷	第七十八章	771-780
第一卷	第七十九章	781-790
第一卷	第八十章	791-800
第一卷	第八十一章	801-810
第一卷	第八十二章	811-820
第一卷	第八十三章	821-830
第一卷	第八十四章	831-840
第一卷	第八十五章	841-850
第一卷	第八十六章	851-860
第一卷	第八十七章	861-870
第一卷	第八十八章	871-880
第一卷	第八十九章	881-890
第一卷	第九十章	891-900
第一卷	第九十一章	901-910
第一卷	第九十二章	911-920
第一卷	第九十三章	921-930
第一卷	第九十四章	931-940
第一卷	第九十五章	941-950
第一卷	第九十六章	951-960
第一卷	第九十七章	961-970
第一卷	第九十八章	971-980
第一卷	第九十九章	981-990
第一卷	第一百章	991-1000

御殿場町於奉送迎位要圖

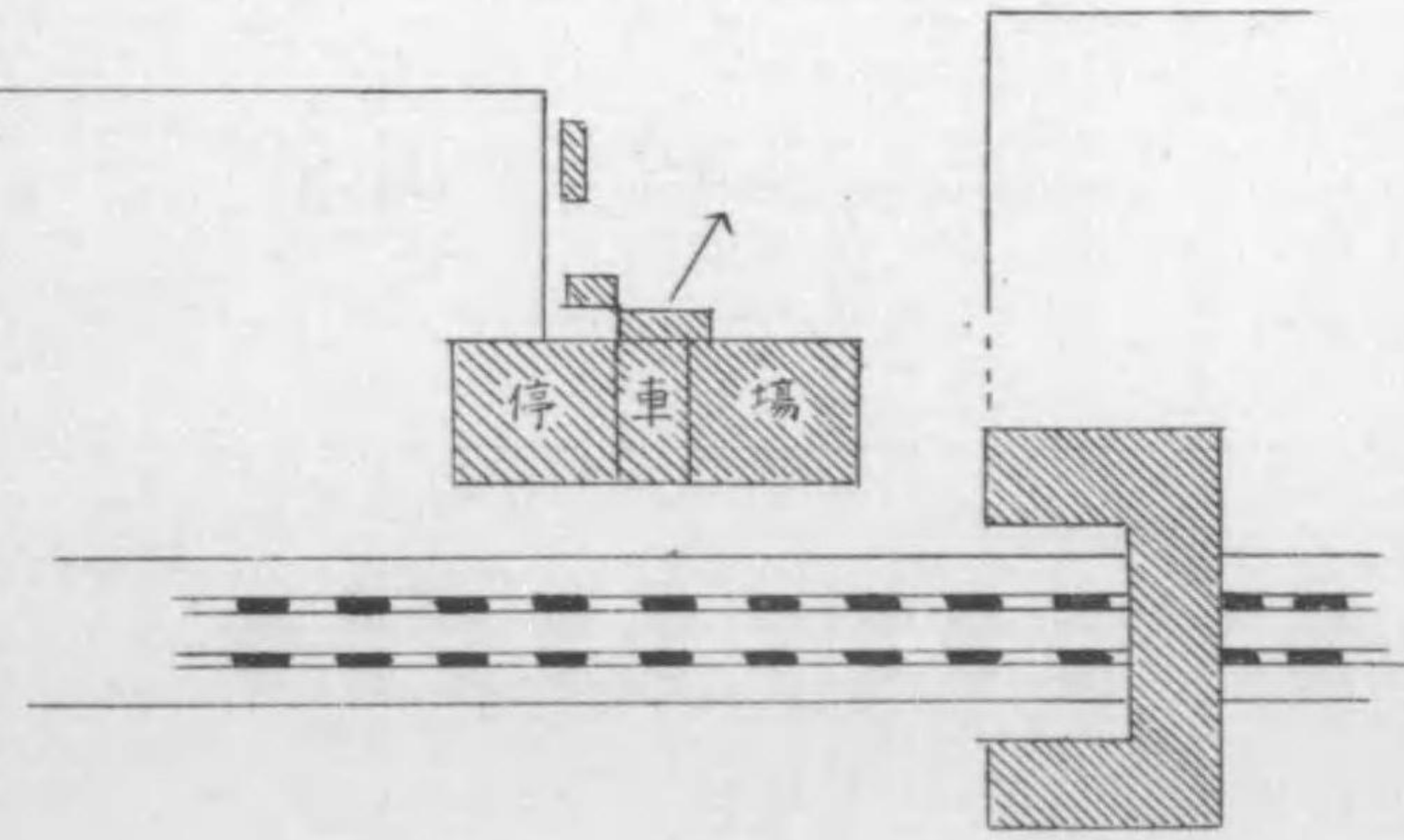
(十一月三十日午後及同月十五日午後)



番	名	人数	間	技	備
①	實業学校	五八〇	六	二	
②	街殿場小学校	二〇七	一	〇	
③	富士田小学校	三三八	四	〇	
④	玉穂小学校	一八六	二	〇	
⑤	高根小学校	一九〇	二	〇	
⑥	北郷小学校	二四九	三	〇	
⑦	成美小学校	二四九	三	〇	
⑧	須走小学校	三六	一	五	
⑨	足柄小学校	二五	一	五	
⑩	菅沼小学校	二五	一	五	
⑪	別荘小学校	二六	一	五	
⑫	在郷軍人	三二〇	四	〇	
⑬	青年會	四九〇	六	〇	
⑭	在郷軍人	三二〇	四	〇	
⑮	在郷軍人	四九〇	六	〇	
⑯	在郷軍人	三二〇	四	〇	
⑰	在郷軍人	四九〇	六	〇	
⑱	在郷軍人	三二〇	四	〇	
⑳	在郷軍人	四九〇	六	〇	

注意

- 一、御發車約一時間前、集合整列
- 二、生徒児童、所定位置に二列整列
- 三、御通過後約十分間経過した後に、御通過外、引率、通車場所、至り解散
- 四、道路出口橋本、朝立、セナル、ト、其他、狭路、部分、之、避、け、通、り、御通過、並、に、支、持、者、注意、を、期、す、ル、コト



2 交通路ノ開放

各種交通路ノ閉塞ハ演習ノ施行ヲ妨害シ且往々危害ヲ生起スルコトアルヲ以テ特ニ注意ヲ加ヘテ混雜ノ惹起ヲ豫防セラルルヲ要ス

3 部下團體ノ集結

演習部隊ノ情況ニ應シ往々拜觀場所ノ移動變更ヲ必要トスルコトアルヲ以テ各團體ハカメテ集結シ移動ニ便ナル如ク留意スルヲ要ス

六 各團體ノ引率者及其代表者ハ左腕ニ幅約二寸ノ赤布ヲ纏ヒ識別ヲ容易ナラシムヘシ

七 誘導將校ハ左腕ニ金屬徽章ヲ附シタル白布ヲ纏フ

演習拜觀人取締ニ關スル參考

拜觀人取締ニ關シ軍部ノ希望トシテ警察官ノ參考ニ供スヘキ事項概ネ次ノ如シ

一 日々統監部又ハ陪觀者掛將校ニ就キ軍隊ノ行動ヲ妨害スルコトナク而カモ拜觀人ニ便ナル地點ノ指示ヲ受ケ拜觀人ヲ努メテ指示セラレタル地點ニ誘導スルコト但シ廢兵、在郷軍人、學校生徒等ノ拜觀團體ニ關シテハ別ニ之ヲ規定ス

二 拜觀人ヲシテ靜肅ヲ守リ演習員ノ指揮、號令又ハ行動等ヲ妨害セシメサルコト
拜觀人ハ市街ニ於テハ行幸啓道路ノ廣狹ニ依リ一側若クハ兩側ニ整列スルハ己ムヲ得サルモ野外ニ於テハ努メテ之ヲ行幸啓道路外適宜ノ地ニ整列セシメラレタシ

三 拜觀人道路ヲ填塞シ又ニ部隊ノ正面前ニ停止スル等凡テ軍隊ノ行動又ハ射撃ノ妨害トナルヘキ行

爲ナキ様注意セシメラレタキコト

四 凹道凸道又ハ水田中ヲ通スル道路等ニ於テ砲兵及騎兵部隊ト遭遇スルハ甚タ危險ナルヲ以テ拜觀人此等ノ部分ヲ通過スル際ハ深甚ノ注意ヲ拂ヒ且ツ可成急速ニ通過シ終ラシムルコト必要ナリ

五 砲兵ハ木彈ヲ發射スルヲ以テ決シテ砲口前ニ出テシメサルヲ要シ又縱令後方ト雖俄然砲車ヲ轉向スルコトアルヲ以テ甚タシク砲車ノ位置ニ接近セシメサルヲ要ス草叢等ノ後方ニ遮蔽シアルカ如キハ特ニ危險ナリ從來ノ演習ニ於テ此注意ヲ缺キ拜觀人ニシテ即死又ハ重傷セル者往々アリ

六 軍馬ニシテ鬃ニ白布ヲ附セルハ咬癖、尾毛ニ附セルハ蹴癖アルヲ示スモノナルヲ以テ特ニ注意ヲ加ヘラレタシ

七 行進スル軍隊ノ先頭ニハ拜觀人ヲ集團行進セシメサルコト又學校生徒ノ如キ集團シテ拜觀スルモノハ可成梯隊トナリ行軍スル軍隊ノ間ニ入ラシムルコトナク他ノ道路ヲ探ルカ或ハ軍隊ノ後方ヨリ行進セシムルコト

八 陣禦陣地、步哨線又ハ軍隊ノ露营地附近ニ拜觀人ノ群集シ又ハ露營スル等ノコトナカラシムルコト
九 拜觀人ヲシテ焚火ヲ爲サシメサルコト、軍用電線就中地上ニ敷設シアル被覆線ノ附近ニ在リテハ特ニ然リトス

十 御野立場及御發着停車場、御講評場、賜饌場附近ハ統監部職員、陪觀者並馬車輻輳スルヲ以テ一般拜觀者ヲ接近セシメサルコト

十一 觀兵式ノ際一般拜觀者ヲ軍隊及陪觀資格者ノ後方ニ整列セシメ拜觀セシムルハ差支ナキモ軍隊

及陪觀資格者トノ間ニ相當ノ距離(約五十米)ヲ取り兩者判然區分シ得セシメ又御警衛上萬遺漏ナキ様セラレタシ

十二 臨時架設セシ軍用電線ハ樹木ニ添架セルモノアリ又單ニ地上ニ布置セルアリ此ノ如ク架設方單簡ナルヲ以テ往々拜觀人若クハ住民等之ニ觸レテ地上ニ落シ或ハ之ヲ蹂躪スルコトアリ特ニ一種好奇ノ念ヲ以テ被覆線接續部ヲ分解シ或ハ電線ノ一部ヲ切り取ル等ノコトアルヲ以テ嚴ニ注意ヲ加ヘラレタシ

若シ取締警察官ニシテ軍用電線ノ破損切斷等ヲ見聞セラレシトキハ速ニ最寄統監部員(左腕ニ白布ヲ纏フ者)又ハ軍隊ニ通報セラレタシ

十三 拜觀人ヲシテ可成耕地ニ立入ラシメス又已ムヲ得ス立入ルモ決シテ耕作物ヲ損傷セシメサル様注意アリタシ拜觀人ノ加ヘシ損害ニ對シテハ陸軍官憲素ヨリ賠償ノ責ニ任セス而モ從來ノ經驗ニ依レハ此種損害ハ軍隊ノ與フルモノニ比シ却テ多大ナリ

取締警察官ニシテ拜觀人ノ耕作物ヲ損傷スルヲ嚴認セラルル場合ニハ口頭若クハ筆記(可成筆記トシ其用紙、形式等ハ隨意トス)ニテ統監部又ハ地方損害賠償掛(軍隊側ハ左腕ニ紅白布ヲ纏フ)若クハ最寄軍隊ニ其時日、場所及程度ヲ通告セラレタシ

十四 演習部隊ノ指揮官ヨリ取締ニ關シ臨時要求アルトキハ努メテ之ニ應セラレタシ
十五 飛行機ノ爲ニハ別紙注意書ニ基キ取締ラレタシ

飛行機觀覽ニ關スル規定

一 軍隊、在郷軍人、學生、生徒其他各種團體並有志者ニシテ團體ヲ組ミ引率者ヲ有スルモノニ對シテハ十一月初旬ヨリ大演習開始直前ニ至ル期間航空隊ノ勤務ニ支障ナキ限り東京府、埼玉縣以東ノモノハ東軍、神奈川縣、山梨縣以西ノモノハ西軍航空隊長其飛行根據地ニ入場觀覽ヲ許可シ又時宜ニ依リ飛行機ニ關スル説明ヲ與フルコトアリ
個人ノ入場觀覽ハ之ヲ謝絶ス

二 觀覽希望團體ハ先ツ市役所又ハ町村役場ニ願出テ該公衙ハ(軍隊、學校ニ在リテハ直接航空隊ニ)團體ノ種類、人員、引率者ノ氏名、觀覽希望日次ヲ豫メ當該航空隊長ニ通報シ其承認ヲ受ケ置クヲ要ス

三 觀覽者ハ左記事項ヲ嚴守スヘシ

- 1 觀察者ハ一團トナリ且ツ航空隊員ノ指示、誘導ニ遵フコト
- 2 觀覽團體飛行場ニ到着セハ引率者ハ先ツ航空隊員ニ就キ觀覽位置、入口其他ノ注意事項ヲ承知シ之ヲ團員ニ告知シタル後所定ノ位置ニ於テ觀覽スルコト
- 3 觀覽者ハ飛行機其他ノ器材ニ手ヲ觸レ又ハ觀覽席以外ノ場所ニ於テ喫煙セサルコト
- 4 觀覽者ハ飛行場ヲ汚穢ナラシメサル如ク注意スルノ外場外ノ田畑等ヲ踏ミ荒ス等ノ行爲ナキコト

四 兩軍航空隊長ノ氏名、飛行根據地並觀覽ヲ許スヘキ日次、時限等ニ關シテハ追テ通牒ス

飛行機ニ對スル公衆一般ノ注意

- 一 無用ノ者ハ飛行場内ニ立入ルコトヲ禁ス
- 二 飛行機不時ニ着陸セントスル状態ヲ示シタル場合ニハ其近傍ニアル者ハ成シ得ル限り着陸ノ爲空地ヲ設クルニ努ムヘシ故ニ若シ着陸ニ適スル土地ニ位置スル場合ニハ速ニ一側ニ退避スルカ或ハ最近ノ地物(樹木、家屋、堤防、籬垣等)ニ近接スヘシ尙此際飛行方向ニ位置セサル如ク特ニ注意スルヲ要ス若シ之ヲ避クルニ違ナキカ或ハ空地ヲ設クルノ餘地ナキトキハ直ニ伏臥シ如何ナル場合ト雖混亂四散スルカ如キコトナキヲ要ス是レ操縦者ノ着陸位置選定ヲ困難ナラシメ危険ノ度ヲ大ナラシムルモノナレハナリ
- 三 飛行機ノ着陸ハ概ネ左ノ飛行状態ニ依リテ之ヲ豫知スルコトヲ得ヘシ
 - 一 發動機ノ爆音不規則ナルトキ又ハ全ク停止セルトキ
 - 二 螺旋機緩徐ニ廻轉スルトキ又ハ止マルトキ
 若シ疑ハシキ場合ニハ着陸ト見做シテ處置シ着陸後飛行機カ全然停止スルニ至ル迄ハ其近傍ニ立寄ルヘカラス
- 四 飛行機着陸ノ際異狀ヲ認メタルトキハ直ニ救護シ尙搭乗者ヨリ依頼セラレタル場合ニハ直ニ其要求ニ應スヘシ若シ搭乗者負傷等ヲ爲シ爾後ノ處置不可能ナル場合ハ迅速ナル方法ヲ以テ最寄軍隊又ハ官憲ニ通報スヘシ
- 五 演習期間臨時着陸場ヲ設備セラレタル場合之カ觀覽等ノ爲場内ニ立入り又ハ其附近ニ停止スヘカラス殊ニ飛行機ノ着離陸方向ハ極メテ危険ナルヲ以テ如何ナル場合ト雖立入ル可カラズ

第三節 軍隊宿舎

參謀本部庶務課長ヨリ關係地域タル駿東、田方、富士ノ三郡ニ對シ、軍隊宿營力調査方照會アリタルヲ以テ、直ニ右三郡長ニ通牒ヲ發シテ調査セシメ、左表ノ通り參謀本部庶務課長ニ回答シタリ

軍隊宿營ノ爲提供シ得ヘキ疊數調

郡		東		駿		郡名	
靜浦村	大岡村	楊原村	金岡村	鷹根村	浮島村	原町	片濱村
四〇〇	二、一〇四	六七	三、四三〇	一、七六二	二、五〇〇	三、〇〇〇	二、一五九
郡		東		駿		郡名	
富士岡村	須山村	富岡村	深良村	泉村	小泉村	長泉村	清水村
二、七六〇	一、六〇〇	二、二〇二	二、五〇〇	三、〇〇〇	二、二六六	二、一五六	二、四三九
郡		東		駿		郡名	
計	足柄村	小山町	北郷村	高根須走組合村	御殿場町	玉穗村	印野村
六七、一五五	二、六二六	三、六〇〇	三、一五〇	一、八五〇	二、四三〇	一、二四〇	一、八七二
郡		方		田		郡名	
西浦村	江間村	北上村	北狩野村	函南村	七肥村	内浦村	中郷村
二、七四五	一、三〇〇	五、一五六	一、三六〇	一、一五〇	七〇〇	二〇〇	八、〇九四
郡		方		田		郡名	
三島町	三島町	三島町	三島町	三島町	三島町	三島町	三島町
五、六九七	五、六九七	五、六九七	五、六九七	五、六九七	五、六九七	五、六九七	五、六九七

部	隊	人員	馬匹	宿營地	備考
十一月十五日 沼津町附近宿營					
第參師團司令部	隊	一七〇	四五	沼津町	
步兵第三十旅團司令部	隊	一九	七	同	
步兵第三十三聯隊	隊	一、四九九	五一	同	
病患馬收容班	班	九四	三二	同	
野砲兵第三聯隊	隊	八三七	五三五	沼津町 片濱村一部	外二砲車四八
步兵第五旅團司令部	部	一九	七	金岡村	
步兵第六十八聯隊	隊	一、四六〇	四六	金岡村 鷹根村一部	
騎兵第三聯隊	隊	二八〇	二七二	大岡村	
工兵第三大隊	隊	四八八	六七	同	
步兵第五十一聯隊	隊	一、五二二	四五	揚原村一部	

合計	田方郡																					
	一七九、六九一	西豆村	二、八〇〇	葦山村	二、六八〇	下狩野村	一、五〇〇	錦田村	二、四二一	川西村	一、五〇〇	戸田村	一、〇〇〇	修善寺村	五、六〇〇	田中村	三、七六	中狩野村	二〇〇	上狩野村	三、六五二	上大見村
合計	田方郡																					
	七二、〇二六	伊東町	一、四八〇	多賀村	一、二二六	下大見村	一、六〇〇	對島村	五、六〇〇	宇佐美村	三、〇〇〇	熱海町	二八〇	中大見村	二、〇〇〇	小室村	五〇〇	網代村	二八九			
合計	富士郡																					
	一、四〇〇	元吉原村	四、五〇〇	須津村	一、九〇二	吉永村	一、二二七	原田村	九二〇	今泉村	一、一〇〇	吉原島田 組合町村	八五〇	田子浦村	二、〇〇〇	加島村	二、四〇〇	岩松村	五〇〇	傳法村	八〇〇	大淵村
合計	富士郡																					
	四一、四七〇	鷹岡村	三、〇二一	富士根村	三、〇〇〇	大宮町	八、〇〇〇	富丘村	一、七〇〇	北山村	二八〇	上井出村	四、〇〇〇	白糸村	六〇〇	上野村	一、〇〇〇	袖野村	一、六八〇	芝富村	六〇〇	

十一月十三日 沼津町附近宿營

軍司令部	部	二〇〇	一〇〇	沼津町	
歩兵第五十一聯隊第二大隊		五一七	七	同	
野砲兵第三聯隊第四中隊		六八	五三	同	外ニ砲車 五
工兵第三大隊一部		三七	三	同	
歩兵第五十一聯隊一部		不詳	不詳	清水村	

十一月十二日
十一月十三日
御殿場町附近宿營

部	隊	人員	馬匹	宿營地	備考
第十三師團司令部		一八四	一〇三	玉穂村	
電話隊		一六	二	同	
一、二患者療養班		四	七	同	
一、二病馬收容班		三九	二	同	
歩兵第二十六旅團司令部		一三	七	同	
歩兵第五十聯隊		一、七二四	四八	玉穂村、原里村 御殿場町	

歩兵第五十八聯隊		一、八八五	五一	玉穂村、印野村	
騎兵第十七聯隊		二九三	二九	板妻廠舎	
砲兵第十九聯隊		五七八	四五	八 瀧ヶ原廠舎	外ニ砲車 二四
歩兵第十五旅團司令部		一三	七	高根村	
歩兵第十六聯隊		一、六九九	四九	高根村、須走村	
工兵第十三大隊		三九九	三四	御殿場町	

郡外

歩兵第三十聯隊、騎一分隊		一、八四三	五六	吉田方面	
--------------	--	-------	----	------	--

十一月十五日
十一月十六日
御殿場町附近宿營

部	隊	人員	馬匹	宿營地	備考
第十三師團司令部		一八六	一〇五	御殿場町	
電話隊		一一七	二二	同	
患者療養班		四二	八	同	

病馬療養班	四〇	二二	同	
歩兵第十五旅團司令部	一三	七	同	
歩兵第二十六旅團司令部	一三	七	北郷村	
歩兵第三十聯隊	一、八五一	六四	御殿場町 富士岡村	
歩兵第十六聯隊(一大隊欠)	一、一六七	五七	富士岡村、高根村	
歩兵第五十八聯隊	一、八九二	五八	高根村、北郷村 小山町	
歩兵第五十聯隊一大隊	五五〇	一〇	足柄村	
砲兵第十九聯隊	五九一	四七一	瀧ヶ原廠舎	外ニ砲二十四

郡外

歩兵第十六聯隊一大隊	五五〇	一〇	山北	
歩兵第五十聯隊(一大隊欠)	一、一八一	四五	弘西寺、内山 矢倉澤	
騎兵第十七聯隊一中隊	九〇	九〇	川村岸	
騎兵第十七聯隊(一中隊欠) (一小隊欠)	二〇二	二〇〇	關本	

第四節 軍需品供給

軍需品ノ供給ニ付テハ、軍隊ト當業者ト直接交渉シテ調達スヘキ趣ナリシヲ以テ、之カ交渉ノ任ニ當ラサリシモ、十一月十四日駿東郡富岡村中里ニ於テ、第三師團經理部員ノ申出ニ依リ、傳騎ヲ走セテ同村今里下和田及須山村須山ノ三字ニ木炭各五百貫ヲ準備セシメタリ

第五節 通信報告

事務ノ敏捷ト軍隊ト地方トノ連絡ヲ圖ル爲、各事務所ニ警察電話ニ依ル通信網ヲ架設シ、之ニ專任通信係ヲ配置シ、通信機關ノ完備ヲ圖リ、尙演習上ニ於ケル通信報告ニ關シテハ騎馬、徒歩ノ傳令使ヲ用井タリ

第六節 演習部隊

十一月十三日東軍第十三師團ハ司令部ヲ玉穂村小學校ニ置キ、西軍第三師團司令部ハ沼津町ニ位置ス兩軍ノ一般方略並兩軍ノ行動左ノ如シ

東軍第十三師團方略

一 駿河及伊豆沿岸ニ上陸中ナル敵ヲ擊攘スヘキ任務ヲ有シ東京方面ヨリ西進シタル第一軍(三師團ヲ基幹トス)ハ主力ヲ以テ相模平地、第十三師團ヲ以テ大月方向ヨリ沼津附近ニ向ヒ前進中ナリ

二 第十三師團ハ攻撃ノ目的ヲ以テ大月―吉田―須走―板妻道ヲ御殿場西南方大野原ニ向ヒ前進シ十一月十四日正午別紙要圖ノ位置ニ達ス
同時迄ニ師團長ノ知り得タル情況次ノ如シ

1 友軍ノ情況

イ 騎兵第一旅團(第十四師團ノ歩兵一聯隊ヲ支援トス)ハ十三日午後以來蘆ノ湖以南、豆相國境線ニ於テ略同等ノ敵歩、騎兵ト相對ス(假想)

ロ 第一軍司令部及第十四師團(歩兵一聯隊欠)ハ厚木―足柄峠―沼津道ヲ前進中ニシテ第十四師團主力ハ十四日午前十時三十分前衛歩兵ノ先頭ヲ以テ足柄峠ニ達シ又其歩兵一聯隊ハ十四日夕松田總領附近ニ到着スル見込ナリ(假想)

ハ 第十五師團ハ東海道ヲ西進中ニシテ十四日夕其先頭ヲ以テ大磯附近ニ到着スル豫定ナリ(假想)

ニ 航空第四大隊ハ東京飛行場ヲ根據トシ數日前ヨリ飛行ヲ開始シ秦野附近ニハ目下前進著陸場ヲ設備中ナリ

2 敵軍ノ情況

イ 清水港ニ上陸シタル約一師團ノ敵ハ歩兵約一聯隊ヲ以テ吉原―十里木―須山道ヲ、主力ヲ以テ東海道ヲ前進中ニシテ十四日午前十時其先頭神戸、原ノ線ニ達セリ

ロ 下田港ニ上陸シタル約一師團ノ敵ハ下田街道ヲ北進中ニシテ十四日午前九時其先頭大仁ニ達

セリ

注 意

一 十四日正午迄ニ本方略所定ノ姿勢ニ就キ直ニ行動ヲ開始スヘシ
但騎兵ハ堀金(瀧河原西南方約三吉)、板妻ノ線ヲ左ノ時刻ニ出發スルコトヲ得

十里木方向(部) 候 午前十一時三十分

沼津方向(部) 候 午前十時三十分

二 十四日正午以前ニ於ケル命令ハ演習開始前適時之ヲ下達スヘシ

但歩兵第三十聯隊ニ對スルモノハ審判官ヲ經テ統監部ニ提出スヘシ

三 地方自動車其他ノ運搬具ハ軍隊輸送ノ爲使用スヘカラス

四 本演習間板妻廠舍東端、西川(板妻廠舍東南方約六吉)、久根(西川東南方約四吉)、伊豆島田(久根西南方約四吉)、上土狩(伊豆島田南方約二吉)東端、三島西端鐵道踏切ヲ連スル線(含ム)以東ノ地區ニハ斥候ト雖行動スルコトヲ得ス

第十三師團ノ編組

- 師團司令部 歩兵第十五旅團
- 騎兵第十七聯隊 野砲兵第十九聯隊
- 師團電話隊 師團輜重(假想)
- 歩兵第二十六旅團
- 工兵第十三大隊

(歩兵第三十聯隊長ニ與フルモノ)

八二

情 況

- 一 師團主力ニ續行シ大月一吉田道ヲ南進シタル歩兵第三十聯隊ハ十一月十四日夕吉田ニ到着シ大休止ヲ爲ス同聯隊ハ午後七時三十分同地ヲ出發シ得ル状態ニアリ
- 二 午後四時迄ニ聯隊長ハ別紙東軍第十三師團方畧所載ノ情況ヲ知ル

西軍第三師團方畧

- 一 東京攻略ノ任務ヲ有シ主力ヲ以テ清水港ニ、一部ヲ以テ下田港ニ上陸中ナル第二軍(三師團ヲ基幹トス)ハ既ニ上陸ヲ完了セシ第二、第三師團ヲ以テ先ツ箱根、足柄以西ノ地區ヲ領有セントシ御殿場附近ニ向ヒ前進中ナリ
- 二 清水港ニ上陸シタル第三師團ハ十一月十四日吉原町附近ヲ出發シ主力ヲ以テ東海道ヲ、歩兵第六聯隊ヲ以テ吉原一十里木道ヲ前進シ正午別紙要圖ノ位置ニ達ス
同時迄ニ師團長ノ知り得タル情況次ノ如シ

1 友軍ノ情況

- イ 騎兵第二旅團(第二師團ノ歩兵一聯隊ヲ支援トス)ハ十三日午後以來蘆ノ湖以南、豆相國境線ニ於テ略同等ノ敵歩、騎兵ト相對ス(假想)
- ロ 下田港ニ上陸シタル第二師團(歩兵一聯隊欠)ハ下田街道ヲ北進中ニシテ十四日午前十時其先頭南條ニ達セリ(假想)
- ハ 第四師團ハ十四日早朝ヨリ上陸ヲ開始セリ(假想)
- ニ 航空第四大隊ハ清水飛行場ヲ根據トシ今十四日朝以來一部ノ飛行ヲ開始セリ
- ホ 十三日夜下達セラレタル第二軍命令ノ要旨別紙ノ如シ

2 敵軍ノ情況

- イ 敵ノ一兵團ハ十四日松田總領附近ヲ發シ西進中ニシテ午前八時其先頭關本ニ達セリ

八三

ロ 約一師團ノ敵ハ十四日吉田附近ヲ發シ南進中ニシテ午前九時其先頭龍坂峠ニ達セリ

注意

一 十四日正午迄ニ本方略所定ノ姿勢ニ就キ直ニ行動ヲ開始スヘシ

但騎兵ハ三島北端、三島驛(東海道線)、愛鷹山、勢子辻ノ線ヲ左ノ時刻ニ出發スルコトヲ得

師團主力方面斥候 隊 午前十時

步兵第六聯隊方面斥候 隊 午前十一時

二 十四日正午以前ニ於ケル命令ハ演習開始前適時之ヲ下達スヘシ

三 地方自動車其他ノ運搬具ハ軍隊輸送ノ爲使用スヘカラス

四 本演習間別紙第二軍命令ニ示ス作戰地境(含ム)以東ノ地區ニハ斥候ト雖行動スルコトヲ得ス

第三師團ノ編組

師團司令部

步兵第五旅團

步兵第三十旅團

騎兵第三聯隊

野砲兵第三聯隊

獨立野戰重砲兵大隊

工兵第三大隊

師團電話隊

師團輜重(假想)

十一月十三日夜下達セラレタル第二軍命令ノ要旨

第二軍命令ノ要旨 十一月十三日午後六時

一 軍ハ攻撃ノ目的ヲ以テ明十四日御殿場、澗河原ノ線ニ向ヒ前進セントス

二 騎兵第二旅團(步兵一聯隊ヲ屬ス)ハ依然現在地附近ニ在リテ軍ノ右側背ヲ掩護スヘシ

三 第二師團(步兵一聯隊欠)ハ正午其先頭ヲ以テ大場(三島南方約三吉)ヲ通過シ得ル如ク出發スヘシ

四 第三師團ハ正午其先頭ヲ以テ黄瀬川ヲ通過シ得ル如ク出發スヘシ

五 兩師團ノ作戰地境ハ下德倉(三島西南方約三吉)、三島西端鐵道踏切、上土狩(三島西北方約三吉)

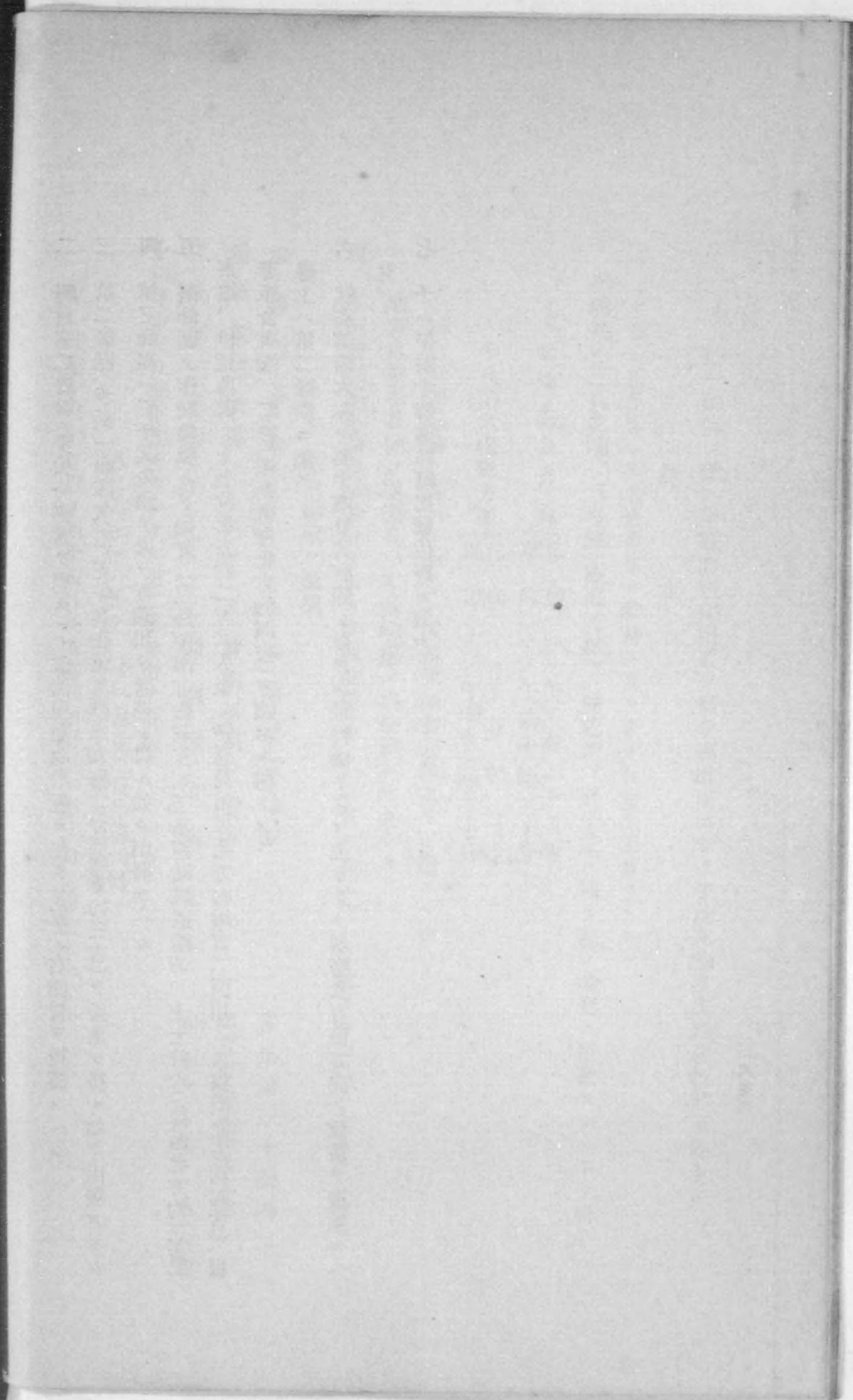
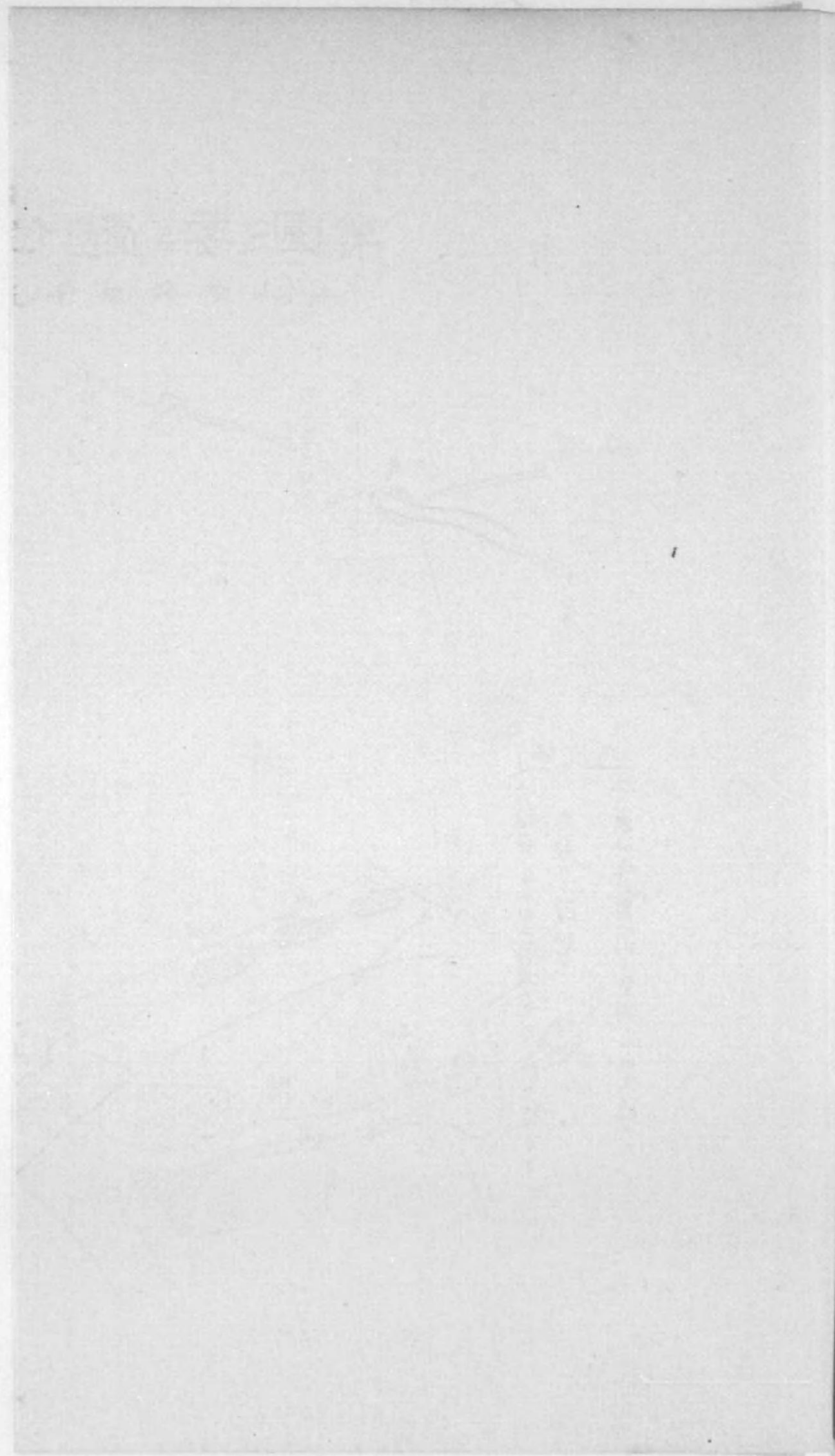
東端、伊豆島田(上土狩北方約二吉)、久根(伊豆島田東北方約四吉)、西川(久根西北方約四吉)、板

妻廠舎東端、仁杉(板妻廠舎北方約四吉)ヲ連ヌル線トス

線上ハ第二師團ニ屬ス

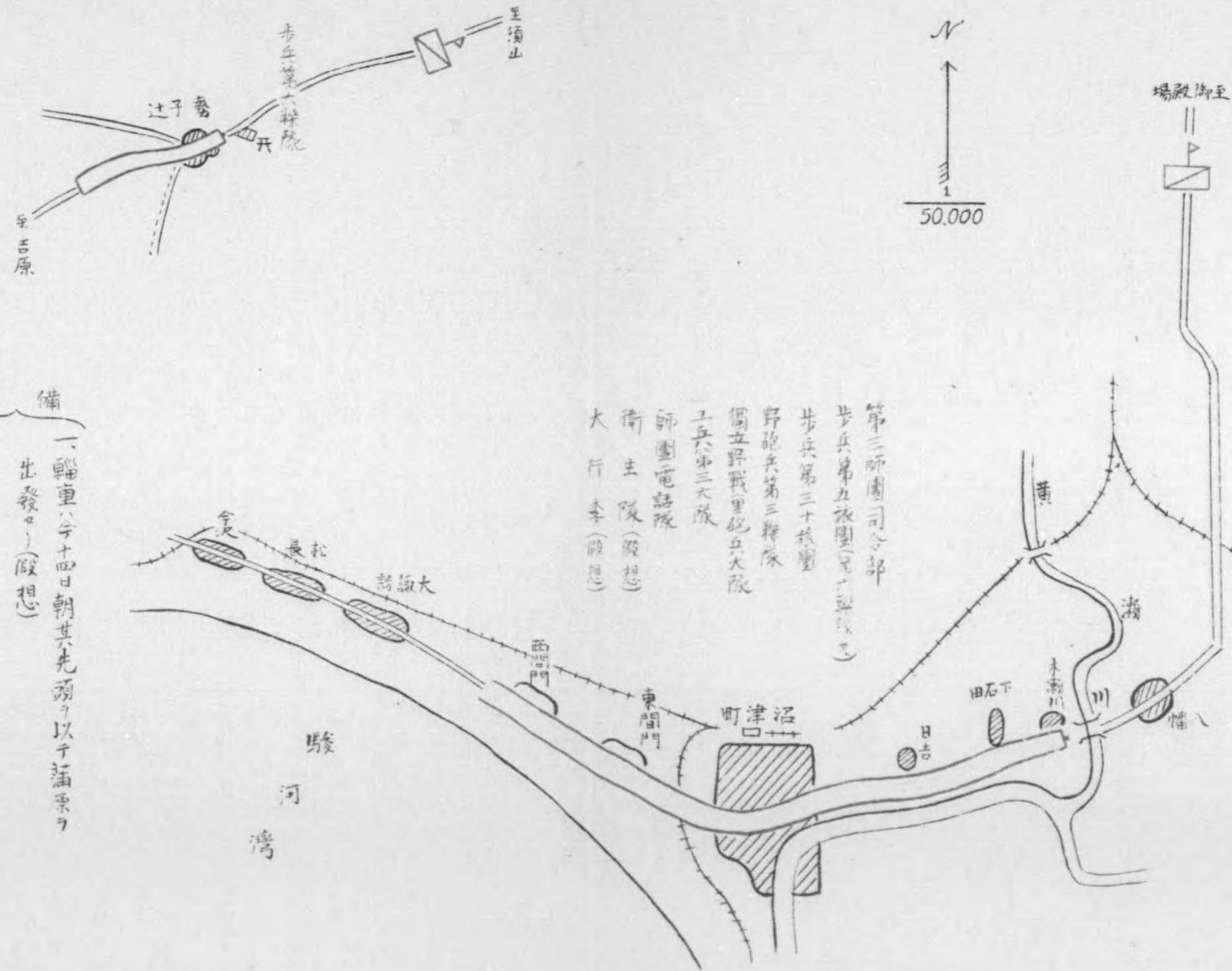
六 航空第四大隊ハ明十四日其整備シ得タル飛行機ヲ以テ主トシテ秦野及吉田方向ノ敵情ヲ搜索スヘシ

七 予ハ午前十時蒲原町出發佐野ニ到ル



第三師團位置要圖

(十一月十四日正午於之)

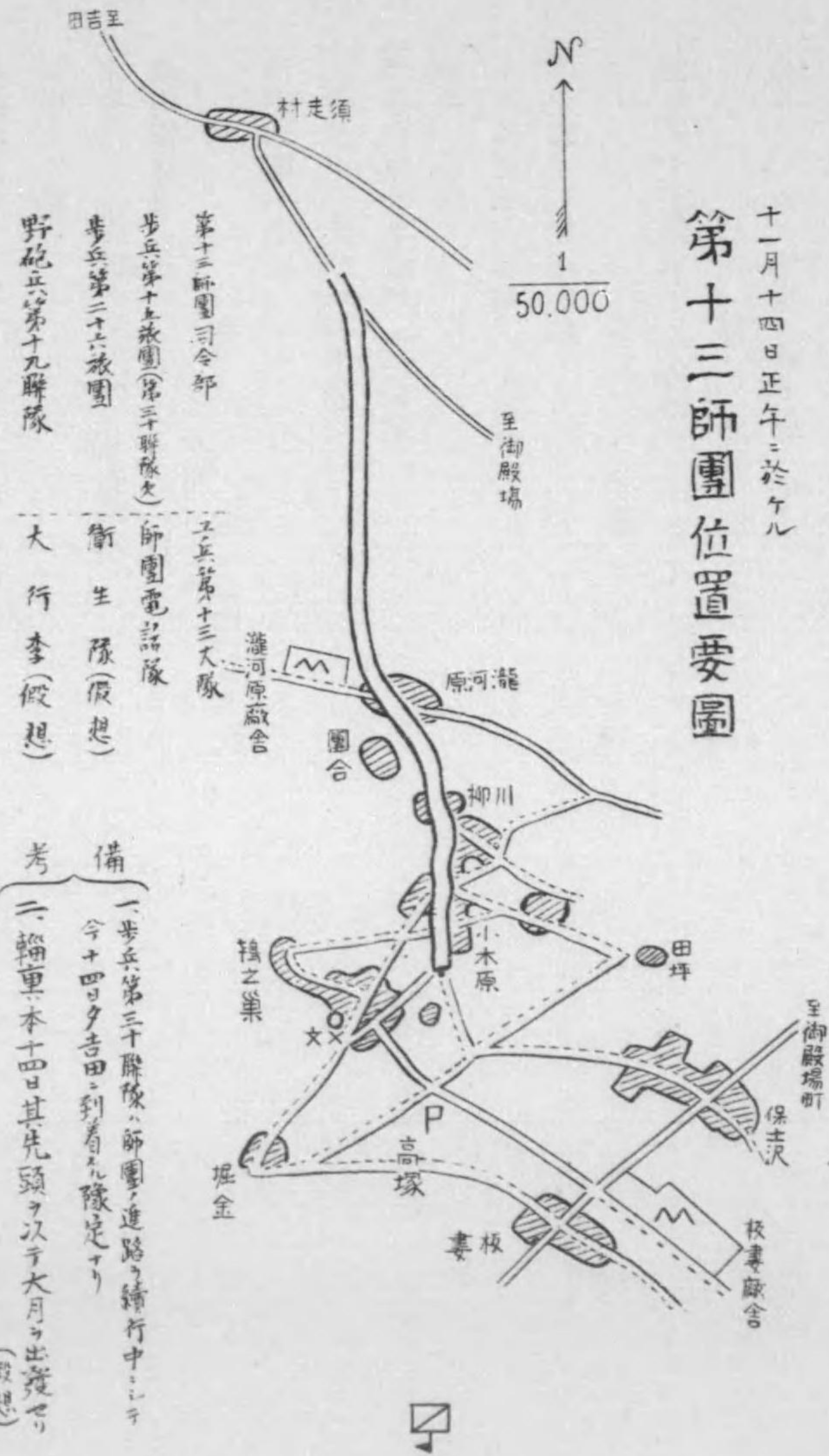


備考
 一、聯軍、十四日朝其先頭ヲ以テ蒲原ヲ出發ス(假想)
 二、東海道上富士川ニ堅固ナル永久橋アリ

十一月十四日正午ニ於ケル

第十三師團位置要圖

1
50.000



第十三師團司令部
 步兵第十五旅團(第三聯隊支)
 步兵第二十六旅團
 野砲兵第十九聯隊

工兵第十三大隊
 師團電話隊
 衛生隊(假想)
 大行李(假想)

備
 一 步兵第三十聯隊ハ師團ノ進路ヲ續行中ニシテ
 今十四日夕吉田ニ到着九隊定ナリ
 考
 二 輸車本十四日其先頭ヲ以テ大月ヲ出發セリ
 (假想)

東軍第一日情況(其一)

一 正午第十三師團ノ小木原南端ニ達セシ時ノ軍隊區分左ノ如シ

軍隊區分

騎兵隊

騎兵第十七聯隊(一小隊欠)

前衛

司令官 村田少將

步兵第五十八聯隊(一大隊欠)

騎兵一分隊

野砲兵第十九聯隊ノ一大隊

工兵第十三大隊ノ一中隊

衛生隊第一半部

本隊(同行軍序列)

師團電話隊

工兵第十三大隊(一中隊ト一小隊欠)

師團司令部

騎兵半小隊

歩兵第五十聯隊ノ一大隊
 野砲兵第十九聯隊(一大隊欠)
 歩兵第十五旅團(歩兵第三十聯隊欠)
 衛生隊半部

輜 重 (略ス)

二 正午ニ於ケル第十三師團長ノ決心竝處理ノ概要左ノ如シ

決 心

師團ハ一部ヲ以テ十里木方向ノ敵ヲ攻撃セシメ主力ハ依然大野原南端六號測點附近ニ向ヒ前進セントス

處置ノ大要

- 一 十里木支隊「長松崎大佐、歩兵第五十聯隊(一大隊欠)、野砲兵第十九聯隊ノ一中隊、工兵一小隊、衛生隊半部」ヲ以テ印野、十文字ヲ經テ十里木ニ向ヒ前進シ成ルヘク敵ヲ十里木以西ニ擊退セシム又吉原方向ニ派遣セル騎兵一小隊ハ十里木支隊長ノ指揮ニ入ラシム
- 二 師團主力ハ村田少將指揮ノ下ニ歩兵第五十八聯隊(一大隊欠)、騎兵一分隊、野砲兵第十九聯隊ノ一大隊(一中隊欠)、竝工兵第十三大隊ノ一中隊ヲ指揮セシメテ前衛トシ又歩兵第五十聯隊ノ一大隊ヲ右側衛トシ爾餘ノ部隊ヲ本隊トシ板妻―割石橋―十一號測點附近ヲ經テ六號測點附近ニ向ヒ前進右側衛ハ高塚―十四號測點―和田ヲ經テ三辻ニ前進セシム

騎兵ハ其主力ヲ以テ沼津方向ニ前進シ敵情ヲ偵察シ成ルヘク敵ノ前進ヲ遲滯セシメ一部ヲ以テ十里木ヲ經テ吉原方向ノ敵情ヲ偵察

西軍第一日情況 (其一)

- 一 十一月十四日朝ノ爲メノ第三師團長命令ノ要旨左ノ如シ
 - 1 師團ハ敵ヲ攻撃スル目的ヲ以テ瀧ヶ原ニ向ヒ前進セントス
 - 2 騎兵隊ハ早朝宿營地出發東海道箱根裏海道ヲ經テ下和田峠方向ノ敵情搜索
 - 3 十里木支隊ハ午前七時今西北端出發十里木街道ヲ印野ニ向ヒ前進シ師團主力ノ隘路進出ヲ容易ナラシムヘシ
 - 4 前衛ハ午前七時吉原東端出發、小泉―大野原ヲ經テ瀧ヶ原ニ向ヒ前進
 - 5 本隊ハ前衛ノ約千米ヲ續行ス
- 二 正午ニ於ケル軍隊區分竝師團長ノ決心左ノ如シ

軍 隊 區 分

騎 兵 隊

騎兵第三聯隊(一小隊欠)
 十里木支隊
 長 相良歩兵大佐
 歩兵第六聯隊

騎兵一分隊

師團電話隊ノ一部

前衛

司令官 前川少將

歩兵第三十旅團(歩兵第五十一聯隊欠)

騎兵一小隊

野砲兵第三聯隊第一大隊

工兵第三大隊(第一中隊欠)

衛生隊半部

本隊 (同行軍序列)

師團電話隊(一部欠、前衛ノ後尾ニ續行)

騎兵二分隊

歩兵第五旅團(第六聯隊欠)

工兵第一中隊

野砲兵第三聯隊(第一大隊欠)

歩兵第五十一聯隊

獨立野戰重砲兵大隊

衛生隊半部

十四日正午ニ於ケル第三師團長ノ決心

決心

師團ハ依然前進ヲ續行セントス

處置

一 前衛ヲシテ急行兎島附近ヨリ五號測點ニ亘リ陣地ヲ占領シテ師團主力ノ進出ヲ掩護セシム

二 本隊ノ先頭タル歩兵第五旅團(歩兵第六聯隊ヲ欠キ騎兵一分隊及工兵一小隊ヲ附ス)ヲシテ左縱

隊トナシ沼津―南小林―富澤―葛山―今里―下和田道ヲ經テ下和田東北側高地ニ向ヒ前進

西軍第一日ノ情況 (其二)

午後三時半迄ノ情況

騎兵ノ情況

騎兵隊主力ハ正午稍過キ六號測點附近ニ於テ敵騎兵主力ト衝突セシカ該地附近ニ根據地ヲ占領シ此ヲ

據點トシテ敵狀搜索ニ從事セリ

師團主力ノ情況

第三師團主力ハ遭遇戰ヲ豫期シツ、行進ヲ續行シ午後二時三十分前衛歩兵ノ先頭ヲ以テ六號測點附近

ニ本隊並ニ左縱隊ノ先頭ヲ以テ上田中里ノ線ニ達ス當時師團長ハ敵主力カニ號測點附近ヨリ十一號測

點附近ニ亘ル線ニ陣地ヲ占領シアルモノト判斷シ前衛ヲ以テ兎島ヨリ五號測點附近ニ亘ル間ヲ占領セ

シメ主力ヲ金澤北方地區ニ集結セリ

十里木支隊ノ情况

十里木支隊ハ午後二時稍前十文字辻附近ニ於テ砲二門ヲ有スル歩兵約一大隊ノ敵ヲ驅逐シ該地附近ニ兵力ヲ集中中優勢ナル敵ノ逆襲ニ遇ヒ午後四時稍前十文字岩山ノ線以西ノ地區ニ後退セリ

午後五時迄ノ情况

師團主力

午後三時三十分第三師團長ハ第二師團ノ大坂、作美臺ノ線ニ展開シ攻撃ヲ準備スヘキ旨通報ヲ受ケ作美臺附近ヨリ須山附近ニ亘ル線ニ進出スルニ決シ午後四時稍前伊血塚附近ノ敵ノ一部ヲ攻撃シ午後四時頃遂ニ之ヲ擊退セリ

西軍第一日ノ情况 (其三)

午後八時第三師團長ハ明十五日軍攻撃ニ關スル軍命令(情况第三參照)ヲ受領シ午後八時十分左ノ要旨ノ師團命令ヲ下達セリ

第三師團命令ノ要旨

軍隊區分

一 敵狀(省畧)

右翼隊

二 師團ハ明拂曉十一號測點附近ヨリ二號測點石神ヲ經テ岩山東方標高

長 前川少將

七六七附近ニ亘ル線ニ展開シ攻撃ヲ準備セントス

步兵第三十旅團(二大隊欠)

三 右翼隊ハ明十五日午前五時三十分迄ニ十一號測點附近ヨリ二號測點

工兵一小隊

ヲ經テ石神東南方三百米ノ地點ニ亘ル線ニ展開シ攻撃ヲ準備スヘシ

左翼隊

四 左翼隊ハ右翼隊ニ連繫シ午前五時三十分迄ニ石神附近ヲ經テ岩山東

長 等々力少將

方標高七六七高地ニ亘ル線ニ展開シ攻撃ヲ準備スヘシ

步兵第五旅團

五 兩翼隊及第二師團トノ戰鬪地域ノ境界左ノ如シ

騎兵二分隊

第二師團、右翼隊間 舊ノ如シ

工兵一中隊

右翼隊、左翼隊間 須山東端ヨリ御殿辻ヲ經テ印野二本松ヲ連ヌ

砲兵隊

ル線

長 青木大佐

六 砲兵隊ハ午前五時三十分迄ニ主トシテ狐塚、畑岡附近ヲ一部ヲ以テ

野砲兵第三聯隊

十四號測點以東ヲ射擊シ得ル如ク野砲兵ノ主力ヲ以テ大胡山北方高地

獨立野戰重砲兵大隊

ニ一部ヲ以テ須山西北方地區、野戰重砲兵ヲ以テ須山東南方ニ陣地ヲ

騎兵隊

占領シ天明ト共ニ砲擊ヲ開始スヘシ

騎兵第三聯隊(二小隊欠)

工兵第三大隊(一中隊ト一小隊欠)ヲ屬ス陣地占領ヲ援助シタル後豫備

豫備隊

隊ノ位置ニ到ラシムヘシ

步兵第三十三聯隊ノ一大隊

七 騎兵隊ハ明早朝岩山北方地區ニ前進シ敵ノ右側背ヲ攻撃スヘシ

步兵第五十一聯隊ノ一大隊

八 豫備隊ハ午前五時三十分迄ニ須山北側三又路附近ニ位置スヘシ

工兵第三大隊(一中隊ト一小隊欠)

九、十、十一、十二(略ス)

小隊欠)

十三 予ハ午前五時三十分豫備隊ノ位置ニ在リ

第十三師團長ハ正午軍司令官ヨリ大野原附近ニ陣地ヲ占領スヘキ旨軍命令ヲ受領シ畑岡附近ヨリ砲兵臺附近ニ亘リ陣地ヲ占領スルニ決ス之レカ爲メ歩兵第五十八聯隊ノ一大隊ト砲兵二門ヲ以テ山口附近ニ又前衛(砲兵一中隊欠)ヲ伊血塚附近ニ前進シ師團ノ陣地占領ヲ掩護セシメ爾余ノ本隊ヲ以テ堀金高塚間ニ開進シ陣地ノ偵察ニ從事ス

軍航空隊ノ一飛行機ハ正午稍過キ通信筒ヲ以テ秦野着陸場ノ設備略完了セルコト並ニ軍命令ニ基キ爾今「モ」式二機ヲ以テ該着陸場ヲ根據トシ貴師團ノ作戰ニ協カスヘキ旨通報ス又他ノ一機ハ午後一時頃ニ於ケル十里木方面ノ敵部隊ノ情況ヲ偵察シ師團長ニ通報セリ

午後二時師團長ハ船窪臺ニ於テ陣地占領ニ關シ左ノ要旨命令ヲ下達セリ

第十三師團命令ノ要旨

- 一 我騎兵ノ主力ハ正午稍前敵騎兵約一聯隊ト六號測點南方金澤附近ニ於テ戰鬪後之ヲ南方ニ擊退セリ
- 十里木南方ニ就キテハ敵狀ヲ得ス
- 二 師團ハ畑岡附近ヨリ狐塚ヲ經テ砲兵臺附近ニ亘リ陣地ヲ占領セリ
- 三 右側掩護隊及陣地占領掩護隊(舊前衛)ハ依然前任務ヲ續行シ成ルヘク長ク敵ノ前進ヲ遲滯セシムヘシ
- 四 歩兵第五十聯隊長ハ部下部隊(二中隊欠)ヲ以テ狐塚御殿辻ヲ經テ一號測點附近ニ亘リ陣地ヲ占領

スヘシ

特ニ一部ヲ以テ畑岡狐塚附近ニ堅固ニ據點ヲ構成スヘシ

- 五 歩兵第十五旅團(歩兵第二十聯隊欠)ノ歩兵第五十聯隊ノ左翼ニ連繫シ一號測點ヲ經テ砲兵臺附近ニ亘リ陣地ヲ占領スヘシ

- 六 歩兵第五十聯隊ト歩兵第十五旅團トノ戰鬪地域ノ境界ハ大日向橋一號測點二號測點ヲ連ヌル線トス

線上ハ歩兵第五十聯隊ニ屬ス

- 七 野砲兵第十九聯隊(一中隊ト一小隊欠)ハ主力ヲ以テ大日向橋附近ニ一部ヲ以テ割石橋附近ニ主ト

シテ大胡山ヨリ大坂ニ亘ル間ヲ射撃シ得ル如ク陣地ヲ占領スヘシ

十里木方向ヲ射撃シ得ル如ク豫備陣地ヲ構築スヘシ

- 八 工兵第十三大隊ハ主力ヲ以テ第一線ノ工事構築ヲ援助シ一部ヲ以テ交通道路及野砲兵ノ進入路ヲ構築スヘシ作業終ラハ印野東方地區ニ至リ豫備トス

- 九 歩兵第五十聯隊ノ二中隊ハ豫備トナリ三塚附近ニ位置スヘシ

以下略

十里木方面ノ情況(午後五時頃ニ至ル)

十里木方向ニ派遣セシ師團陣地占領掩護部隊ハ一旦十文字辻附近ニ進出セシカ西軍歩兵約三大隊ノ攻撃ヲ受ケ遂ニ後退ノ已ムナキニ至レリ茲ニ於テ師團長ハ歩兵第五十聯隊長ノ意見具申ニ依リ第五十聯

隊ノ主力ヲ以テ此敵ニ對シ攻勢ニ轉シ敵ヲ擊退シ岩山十文字辻ノ線ヲ占領セリ
 大野原南端附近ニ於ケル情况(午後五時頃ニ至ル)
 前衛ハ伊血塚附近ヲ占領シ兎島ヨリ五號測點ニ亘ル間ヲ占領シアル敵ノ一部ト相對峙シアリシカ午後
 四時頃優勢ナル敵ノ攻撃ヲ受ケ遂ニ陣地内ニ後退ス
 右情况ニ基キ師團長ハ前衛タリシ歩兵第五十八聯隊ノ二大隊ヲ豫備トシテ印野附近ニ控置シ從來ノ豫
 備タリシ二中隊ヲ第五十聯隊長ノ指揮ニ復歸シ右翼隊ノ指揮ヲ歩兵第二十六旅團長ニ移セリ
 右情况ニ基キ師團長ハ陣地占領掩護隊タリシ二大隊ヲ印野附近ニ位置セシメ軍豫備トナシ又歩兵第二
 十六旅團長ヲシテ第五十聯隊長ニ代リ右翼隊ヲ指揮セシメタリ

第七節 損害賠償

損害賠償ニ付テハ軍隊及地方各二名ノ評價委員ヲ設ケテ其ノ事務ヲ掌ラシメ公平ニ裁斷シタリト雖損
 害面積少ナク其ノ賠償金總額五十五圓五十錢ヲ算スルニ過キス、右ニ關シ規程シタル損害賠償手續及
 賠償表左ノ如シ

損害賠償手續

大正十年特種演習

- 一 損害賠償ヲ爲スハ演習部隊ニ於テ發行セル損害證明書アルモノ、ミトス損害證明書無キモノト雖
 モ演習部隊ニ於テ損害ヲ加ヘタルコト明白ナルモノハ臨時詮議ス
 前項損害證明書ハ可成現地ニ於テ演習部隊ヨリ當該地主又ハ所有主若クハ地方官(公)吏ニ交付スル

モノトス

損害證明書ヲ演習部隊ヨリ受領シ得サルトキハ速ニ師團司令部ニ届告シ調査ヲ受クヘシ

- 二 演習參加團隊ニハ教令ヲ以テ左ノ規定ヲ指示シアリ

特別大演習中ニ關スル土地耕作物等ノ損害ハ師團司令部ニ於テ之ヲ賠償ス之カ爲メ各部隊ハ損害ノ
 狀況ヲ審査ツ附表ノ様式ニ依リテ證明書ヲ調製シ當該地主又ハ所有者若クハ地方官(公)吏ニ交附ス
 ルト同時ニ速ニ師團司令部ニ報告スヘシ但シ各部隊ニ於テハ決シテ評價セサルモノトス

- 三 損害賠償額ハ評價委員ノ評定ニ依ルモノトス

評價委員ハ師團司令部主任官及地方官二名以上トス

- 右評價委員ハ演習後共ニ現地ヲ視察シ大體ノ調査ヲ爲シ評價ノ標準ヲ協定ス

- 四 前項標準ニ依リ各部長ハ被害者ヲ代表シ請求書ヲ縣知事ニ同官ハ全部取纏メタル後之ヲ調査シテ
 各部ニ於ケル請求ヲ彼此對照シ著ルシキ不公平ヲ來ササル如ク損害ヲ決定シ請求書ヲ師團司令部ニ
 提出ス

損害賠償請求書(正副二通)ハ別紙附録ノ様式ニ依リ調製シ損害證明書ヲ添付スルモノトス

損害證明書ノ例
(用紙半紙) (○ヲ附シタル所ハ記入ノ例ヲ示ス)

(シベス管保ニ隊原ハ片一此)

甲號	
被害物ノ種類	土地耕作物損害證明書
又面積幅員數	
損害ノ程度	
被害物所有者	被 害 物 所 有 者 何 部 何 村 大 字 何 番 地 何 ノ 誰
損害ヲ生セシメタル理由	主任者官氏名 陸軍歩兵少佐 何 某 十一月何日何々附近ノ演習ニ於テ師團總隊備隊トシテ進出ノ際蹂躪シテ損害ヲ生
部 隊 號	何兵第何隊

(シベス付送ニ速成可ハ片一此) 部令司團師ニ速成可ハ片一此

乙號	
被害物ノ種類	土地耕作物損害證明書
又面積幅員數	
損害ノ程度	
被害物所有者	
損害ヲ生セシメタル理由	
部 隊 號	

(シベス付送ニ吏(公)官方地ハ片一此) (シベス付送)

丙號	
被害物ノ種類	土地耕作物損害證明書
又面積幅員數	
損害ノ程度	
被害物所有者	
損害ヲ生セシメタル理由	
部 隊 號	

(中紙罪紙)

損害賠償請求書	一金何拾何圓何拾錢也
内 譯	

名稱	數量	單位	價	小計	摘要
麥畑	三百坪	一坪	〇四〇	一二〇〇	步兵散兵壕構築ノ爲掘開ニ付復舊ヲ要ス
同	百五十坪	同	〇四〇	六〇〇〇	砲兵陣地構築ノ爲掘開ニ付復舊ヲ要ス
同	二百坪	同	〇一〇	二〇〇〇	部隊集各ノ爲踏荒シ作物損害
雜木	五百本 (徑自二寸至五寸)	一本	〇一〇	五〇〇〇	射界清掃及陣地進入路修繕ノ爲伐採
何々
何々
何々

但シ大正何年特種演習ニ何月何日及何月何日ニ於ケル(損害損害物件内譯書ノ通)ニ對シ賠償金(別紙評定書ニ依リ算出)如本文右請求候也
大正何年何月何日
師團司令部御中
注意
集計上賠償金額ニ錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ各人毎ニ切捨ツルコト
(半紙野紙)

損害物件名稱	數量	請求書ト對照用番號	住	所	所有者氏名
麥畑	百五十坪	何郡何村何字何番地
同	五十坪

名稱	數量	單位	價	小計	摘要
同	百坪	一坪
同	五十坪	一坪
同	百坪	一坪
同	三十坪	一坪
同	五十坪	一坪
同	百二十坪	一坪
雜木	三百本	一本
同	二百本	一本
何
同
同

富士	佐野	太郎	榛原	名波	義三	濱名	桔川
庵原	保太郎	同	山田	實太郎	同	同	熊重
同	森和	一	宮崎	孫兵衛	同	同	武平
安倍	鈴木	與平	田邊	三郎	同	同	廣八
同	小林	清次	太田	可平	同	同	高部
志太	山口	忠五	樽松	長	同	同	袴田
同	杉村	吉之助	長谷川	一郎	濱松市	中村	寺崎
						四郎	乙次
						兵衛	郎

第八章 工營關係

第一節 板妻廠舎

皇太子殿下御座所及御用室ニハ板妻廠舎ノ一部ヲ以テ之ニ充テラル、趣ヲ拜シ、東宮職ノ囑託ヲ受ケ各室ノ設備ヲ爲スヘク大正十年十月二十日作業ヲ開始シ大正十年十一月十二日竣功セリ、其大要左ノ如シ

- 一 御座所、御寢室、御召換所竝御藥室ハ周圍ノ壁及天上ヲ白布張トナシ、供進所及調理所ハ周圍ノ壁ノミ白布張トナス
- 一 御寢室御召換所境及御服所御廁境竝廊下境ハ仕切幕ヲ釣リ尙御寢室ニハ雨戸ヲ設ケタリ
- 一 御昇降口ニハ階段ヲ新設シ御昇降口ト他ノ附屬建物ノ境ニハ目隠板塀ヲ設置セリ

- 一 御座所、御寢室竝御召換所ニハ疊表製ノ敷物ヲ敷キ込ミ御浴室及調理室ニハ給用水用ノ亞鉛鍍鐵管ヲ布設セリ
- 一 御用室ニ備フル備品ノ新調セシモノハ調理室用卓二脚七輪台一個流シ一ヶ所、御浴室用流シ及目隠台一ヶ所ナリ
- 一 御召自動車置場ハ御座所附近ノ空地ニ天幕張ノ裝置ヲ以テ之ヲ建設セリ
- 一 御座所其ノ他ノ御用室、御召自動車置場竝東宮職用ノ厩舎ニハ電燈架設工事ヲ施行セリ

尙囑託以外ニ御歡迎上左記ノ必要ナル設備ニ關シテハ縣費營繕費ノ負擔トシテ十一月五日營繕ニ着手シ十一月十三日竣工セリ

- 一 御座所窓硝子戸新調、各御用室窓硝子竝建具其ノ他諸修繕
- 一 御避難場ニハ窓掛及テーブル掛新調

第二節 統監部

統監部ニ關シテハ參謀本部ノ囑託ヲ受ケ其事務所タル板妻廠舎ノ一部ニ左ノ設備ヲアスヘク十月二十九日作業ヲ開始シ十一月十二日竣工セリ

- 一 統監部各室憲兵室寫眞室及醫務室ニハ電燈架設工事ヲ施行セリ
- 一 寫眞檯台ヲ廠舎構内ノ空地ニ建設セリ

第三節 縣事務所

板妻廠舎及御殿場(松屋)ニ設ケタル縣ノ事務所ニ就テハ左記ノ設備ヲナシタリ

- 一 縣事務所ニハ表札ヲ、廠舎内ニハ道標ヲ、道路ノ各所ニハ揭示板ヲ設ク
- 一 御殿場驛前ニハ天幕張裝置ノ案内所ヲ建設ス
- 一 廠舎内縣事務所ニハ水流シ、昇降口、階段、浴室、脱衣棚、下足棚並帽子掛ヲ設ク
- 一 縣事務所用ノ自動車置場ヲ廠舎内ノ空地ニ建設ス

第四節 營繕工費

以上營繕工事ニ要セシ工費ハ左記ノ通り

東宮職ヨリ囑託ノ分

名	稱	工費精算額	摘	要
御座所其他御用室設備	損料工事	七七八五〇〇	室内周圍壁及天井白布張並ニ仕切幕給水管其他ノ設備	
同備品	新調損料	八八二〇〇	御浴室並ニ調理室用ノ各備品	
御召自動車置場建設	損料工事	二三八〇〇〇	天幕裝置ヲ以テ建設ス	
御座所其他御用室電燈	架設工事	一七〇八五〇		
計		一、三一二〇七〇		

參謀本部ヨリ囑託ノ分

名	稱	工費精算額	摘	要
御召自動車置場及廠舎電燈	架設損料工事	一九五〇〇		
各所電燈點火料		一七〇二〇		
計		一、三一二〇七〇		
板妻廠舎内燈ニ對スル配線工	事及外燈一燈架設工事	一、〇九〇三五〇		
統監部電燈架設工事		一七三二一〇		
憲兵室、寫真室、醫務室	電燈架設損料工事	八一〇〇〇		
統監部電燈料		一三八四〇		
寫真檯臺建設損料工事		七〇〇〇〇	杉丸太材料ヲ以テ建設ス	
計		一、四二八四〇〇		

縣費營繕費ヨリ支出セシ分 (工營係關係)

名	稱	工費精算額	摘	要
御座所窓硝子戸新調及各御用室窓硝子戸並ニ建具其他修繕		一三〇七五〇	臨時切迫ニ際シ必要ヲ認メ擱キ難キ分	
同 諸 修 繕 工 事		二八二三二〇	同	
宮家方及供奉員ニ對スル自動車小屋損料		三三〇〇〇〇	杉丸太材料ヲ以テ造リ屋根杉皮葺	
計		七四三〇七〇		
縣事務所關係ノ分 (縣費設備費) (兵事係關係)				
事務所其他設備		三二〇〇〇〇	表札、道標、揭示場、天幕張ノ案内所、水流シ、階段、浴室、脱衣棚、下足棚、帽子掛等	
同 各 所 損 電 料 工 事		一一六五五〇		
計		四三六五〇〇		
合 計		三、九二〇〇四〇		

第五節 道路 橋 梁

大正十年八月十九日及同年十月二十二日ノ縣參事會ニ於テ、工費總額四萬七千六百六拾八圓内道路費

金參萬七千六百拾八圓橋梁費金壹萬五拾圓ノ追加豫算議決ヲ經、道路工事ノ一部ヲ直營トシ、帝室林野管理局長ノ承認ヲ受ケ、御料地内ニ於ケル砂利二百六十立坪ヲ採取シ、其ノ他ハ全部請負ニ附シ、九月六日着手、十一月三十一日迄ニ全部ノ工事ヲ完成ス、而シテ演習開始中國道府縣道以下道路延長三十四里三十二丁ニ互ル區域ヲ大體三區域ニ分チ、駿東郡御殿場町、小泉村佐野、足柄村竹ノ下ニ監督員詰所ヲ設置セリ

一、道路々面工及側溝修繕箇所及工費

一金壹萬四千八百五拾九圓

此ノ施行總延長 壹萬三千百九十三間

内 譯

路 線 名	箇 所 名	町 村 名	工 費	施 行 延 長
國 道 特 第 二 號	駿 東	原 里	四、四六一〇〇	二、五〇〇、〇
同	同	富 士 岡	三、一六五〇〇	一、四〇〇、〇
同 特 第 三 號	同	王 原 穗 里	一、二〇〇〇〇	二、一〇〇、〇
御 殿 場 停 車 場 線	同	御 殿 場	四六〇〇〇	一七〇、〇
小 山 厚 木 線	同	小 山	三六〇〇〇	九〇〇、〇

御殿場小田原線	駿東	御殿場	一、〇二二〇〇	同	三六、〇〇〇
御殿場吉田線	同	須走	四六六〇〇	砂利	二〇、〇〇〇
同	同	玉穗	二、一七五〇〇	同土	五九、五〇〇
同	同	御殿場	七六五〇〇	同	二二、〇〇〇
御殿場小山線	同	高根	二九二〇〇	砂利	一八、〇〇〇
同	同	北郷	三五三〇〇	同土	一五、〇〇〇
御殿場湯本線	同	御殿場	四四八〇〇	砂利	一四、〇〇〇
同	同	富士岡	四一六〇〇	同	一三、〇〇〇
計			一九、三〇二〇〇	砂利 同土	六六七、〇〇〇 一一二、五〇〇

一、溝橋修繕並架替工費及箇所數

一金壹千四百貳拾參圓

此ノ箇所數拾壹箇所

内譯


路	線	名	箇所名	工費	箇所數
國道	特	第二號	駿東原里	二二〇〇〇	三ヶ所
北	上	御殿場線	田方北上	一八一〇〇	一同
同			駿東小泉	三七六〇〇	二同
同			同	二四一〇〇	二同
同			同	二一六〇〇	一同
三	嶋	北上線	田方三嶋	八四〇〇	一同
沼	津	御殿場線	駿東長泉	一〇五〇〇	一同
計				一、四二三〇〇	十一ヶ處

一、人夫使役數及金額

一金壹千百五拾六圓

此延人員八百四十九人

内譯

御殿場小田原線	同	御殿場	一、四五二〇〇	四同
同	同	足柄	五四四〇〇	二同
沼津御殿場線	同	大長岡	九一一〇〇	一同
同	同	富士岡	二二〇〇	一同
豫備材料			四一五〇〇	
計			一〇、〇五〇〇〇	四一ヶ所

第九章 警務關係

第一節 警察官吏服務心得

警察官吏ニ對シテハ左記服務心得及事務分掌規程ヲ印刷シテ小冊子トナシ之ヲ配布シテ以テ警務上遺憾ナカラシムルコトニ注意シタリ

警察官吏服務心得

第一章 一般心得

第一節 服 務

第一條 特種演習中ハ非常勤務ノ心得ヲ以テ同心協力至誠事ニ當リ注意周到敏活事ヲ處シ苟モ緩漫放

態ニ流ルル等ノコトナキヲ期スヘシ

第二條 姿勢ハ常ニ端正嚴肅ニシ苟モ他ノ侮蔑ヲ招ク等ノ行爲アルヘカラス

第三條 頭髮鬚髯ハ見苦シカラサル注意スヘシ

第四條 同僚ハ互ニ和親ヲ旨トシ公私ヲ問ハス論難爭議ニ涉ル等ノコトアルヘカラス

第五條 勤務中ハ指定位置ヲ守リ濫ニ會合又ハ私語雜談スヘカラス

第六條 統率者ハ所屬ノ巡查ニ對シ毎朝必服裝及携帶品ヲ點檢シ且分擔任務ニ關スル要領ノ訓授應問ヲ爲スヘシ

第七條 勤務中ハ自己ノ命セラレタル任務ニ專從スヘキハ勿論他係ノ事務ニ屬スル事項ト雖之ヲ見聞

シテ注意ヲ要スヘキモノト認メタルトキハ直ニ上官ニ報告シ若ハ當該係員ニ引繼ク等相當措置スヘ

シ

第八條 私服勤務者ト制服勤務者ハ濫ニ交語スヘカラス又私服勤務者ニ在リテハ上官同僚ニ對シ行禮

セサルコトヲ得

第九條 軍人軍屬陪觀者外國人其ノ他一般公衆ニ對シテハ懇切丁寧ヲ旨トシ態度ヲ慎ミ言語ヲ穩和ニ

シ成ルヘク諸事便宜ヲ與ヘ努メテ其ノ希望ヲ満足セシムル様注意スヘシ

第十條 宿舍賄寢具等ノ供給及其ノ良否ニ關シ不滿ヲ懷キ又ハ論爭スルカ如キコトアルヘカラス

第十一條 勤務ニ從事セサルトキト雖許可ナクシテ外出スヘカラス但シ許可ヲ得テ外出ヲ爲ストキト

雖其ノ行先ヲ明ニスヘシ

第十二條 時ニ攝生ニ意ヲ用井病氣缺勤等ノコトナキ様注意スヘシ

第十三條 左記事項ハ特ニ注意スヘシ

- 一 勤務中鹵簿ヲ拜觀シ又ハ軍隊ノ行動ヲ望見セントシ爲ニ主要任務ヲ缺ク等ノコトアルヘカラス
- 二 勤務中ハ警笛ヲ鳴スヘカラス

三 勤務中ハ勿論休憩中ト雖軍隊ノ彈藥其ノ他危險物ノ附近ニ於テ喫煙スヘカラス

第十四條 軍隊ノ行動機略ニ關シテ見聞シタル事項ハ上官ニ報告スルノ外秘密ヲ嚴守スヘシ又之ニ關スル書類ヲ遺失若ハ紛失セサル様注意スヘシ

第十五條 職務上必要ノ携帶品ハ常ニ整頓シ遺失紛失スル等ノコトナキ様注意スヘシ

第十六條 軍人軍屬ハ勿論一般公衆ニ對シ輕微ナル事件ニ關シ苛察ニ涉ラサル様注意スヘシ

第十七條 皇族其ノ他貴顯ハ成ルヘク其ノ面識ニ努メ敬意ヲ失セサル様注意スヘシ

第二節 服裝及禮式

第十八條 警部補以上ハ凡テ禮裝トシ巡查ハ常裝ヲ用ウルモノトス

降雨ノ際ハ甲種外套長靴ヲ用ウルモ妨ケナシ但シ警衛ニ從事スルモノハ覆面ヲ用ウヘカラス降雨ニ際シ外套長靴ノ著脱ハ各隊齋一ヲ期スヘシ

第十九條 勳章其ノ他記章ハ警衛配置ノ場合ハ之ヲ佩用スヘシ

第二十條 演習地取締ニ從事スルモノハ草鞋、脚絆、紺足袋若ハ短靴「ゲートル」ヲ用ウヘシ但シ草鞋ヲ用ウルモノト雖參集地ヘハ必短靴ヲ携帶スヘシ

第二十一條 被服其ノ他附屬品ハ清潔ニシ靴ハ常ニ光澤ヲ有シ刀ハ錆ヲ生セサル様注意スヘシ

第二十二條 勤務中ハ刀身ノ脱出セサル様注意スヘシ

乘馬勤務又ハ演習地取締ニ從事スルモノハ豫メ相當ノ裝置ヲ爲スヘシ

第二十三條 勤務中ハ帽ノ頤紐ヲ用ウヘシ

第二十四條 夜間勤務ニ從事スル場合ハ提燈ヲ携帶スヘシ但シ視察又ハ演習上妨害ト爲ルヘキ場合並停車場鐵道沿線ニ於テハ點火スヘカラス

第二十五條 騎馬巡查ハ常ニ長靴ヲ用ウヘシ

第二十六條 演習地取締ニ從事スルモノニシテ辨當其ノ他必要品ヲ携帶スルトキハ黑色ノ揷袋ニ入レ右肩ヨリ左脇ニ纏束スヘシ

第二十七條 警衛其ノ他特別ノ職務執行ニ從事スル場合ノ外軍旗又ハ貴顯ニ對シテハ敬禮ヲ行フヘシ

第二章 警衛及警護心得

第一節 通 則

第二十八條 警衛ノ任ニ當ルモノハ最緊張セル精神ヲ以テ其ノ任務ニ從事シ敬虔ノ姿勢ヲ保持スルト共ニ不斷ノ活動ニ依リ萬一ニ備ヘ警戒上毫モ間隙アルヘカラス

第二十九條 警衛線ニ配置セラレタル警察官吏ノ態度或ハ畏縮ニ過キ或ハ形式ニ流ルルノ嫌アリ克ク警衛ノ任務ヲ了解シ通御ノ際ハ鹵簿ノ進行ニ相對シテ正シク側面ノ方向ヲ取り直立シテ視線ヲ公衆ニ注キ通御後ハ常態ノ姿勢ニ復シテ交通ヲ整理シ拜觀人ノ解散スル迄嚴密警戒ノ任ニ當リ遺憾ナキ

第三十條 途上警衛線配置巡查ノ擔任區域ハ前方配置巡查ノ背面ニ至ル迄トス

第三十一條 途上警衛ニ從事スル者ハ敬禮ヲ行ハサルモノトス

第三十二條 通御ノ際ハ特ニ意ヲ用非注意制止ヲ爲ス必要アルトキハ可成形容ヲ以テシ已ムヲ得サル場合ノ外音聲ヲ發スヘカラス

第三十三條 警衛ニ從事スル巡查ニ對シテハ配置前服裝及携帶品ノ點檢ヲ行フヘシ

第三十四條 警衛ニ關シテハ鐵道官憲哨兵並ニ憲兵ト相亘ニ氣脈ヲ通シテ遺算ナキヲ期スヘシ

第二節 御駐泊所警衛
第三十五條 御駐泊所警衛ニ從事スル警察官吏ハ御駐泊所ノ外部並其ノ附近ノ警戒ニ任シ特ニ要注意人物ノ徘徊スルヤ否ヤニ注意スヘシ

第三十六條 御駐泊所警衛巡查ノ勤務ハ立番及巡回トス其ノ勤務方法立番位置並巡回線路ハ別ニ之ヲ定ム

第三十七條 御駐泊所警衛ハ靜肅ヲ旨トシ殊ニ夜間ハ靴及佩刀ノ音ヲ發セサル様注意スヘシ

第三十八條 御駐泊所ニ出入スル者ニシテ相當身分アルモノト認ムルトキハ敬禮ヲ行スヘシ

第三十九條 供奉員等ヨリ警衛其ノ他ノ事項ニ關シ協議アリタルトキハ其ノ旨直ニ上官ニ報告スヘシ但シ輕易ニシテ事緊急ニ屬スル場合ハ適宜措置シタル後報告スヘシ

第四十條 御駐泊所ノ正門及諸門ニ配置セラレタルモノハ出入者ニ注意シ左ニ掲ケタル者ニ限り通行セシムヘシ

一 鹵簿内ノ諸員

二 陸海軍ノ將校同相當官及警察官ニシテ制服ヲ着用スル者

三 宮内省ヨリ交付シタル供奉員徽章又ハ關係員ノ徽章ヲ附著スル者

四 前三號ノ外宮内省統監部及縣廳ヨリ交付シタル門鑑ヲ所持スル者

五 以上ノ外臨時ノ命令ニ依リ出入ヲ許サレタル者

前項ニ掲ケタル者乗車馬ノトキ之ニ附隨スル運轉手馭者車夫及馬丁ハ門鑑ヲ所持セサルモ通行セシムルコトヲ得

第四十一條 御駐泊所諸門ヲ通行シ得ル者ト雖舉動不審又ハ携帶品ニ關シ疑アリト認メタルトキハ一時其ノ通行ヲ止メ名刺ヲ徴シテ上官ノ指揮ヲ受クヘシ

第四十二條 危險ノ虞アル物件ヲ携帶シ又ハ舉動不審者ヲ認メタルトキハ嚴重ニ警戒シ毫モ寬假セサルト共ニ一面上官ニ速報スヘシ若引致ノ必要アルトキハ速ニ上官ノ指揮ヲ受クヘシ

第四十三條 立番中ハ左ノ場合ヲ除ク外其ノ位置ヲ離ルヘカラス

一 第四十二條ノ場合ニ於テ相當ノ措置ヲ爲スニ必要ナルトキ

二 緊急事件ノ爲上官ニ報告スルトキ

第四十四條 前條ノ場合ニ於テ立番者其ノ位置ヲ去ラントスルトキハ左右何レカノ立番者ニ其ノ旨ヲ告知シ且上官ニ報告スヘシ告知ヲ受ケタル立番者ハ補助員ノ到著スル迄自己ノ責任區域ト併セテ之

カ警戒ニ任スヘシ

一三〇

第四十五條 立番者其ノ位置ヲ去リタルトキハ御駐泊所警衛係長ハ速ニ之カ補充員ヲ配置スヘシ

第四十六條 御駐泊所附近ニ於テハ左ノ事項ニ注意スヘシ

- 一 屋上又ハ二階物干等ニ襤褸其ノ他不潔若ハ不體裁ノ物件ヲ出サシメサルコト
- 二 屋外ニ於テ焚火ヲ爲サシメサルコト
- 三 銃砲火藥類仕込杖其ノ他ノ危險物、不潔物惡臭ヲ發散スル物件ヲ取扱ヒ又ハ携帯運搬セシメサルコト
- 四 火氣ヲ取扱フ營業者ハ勿論其ノ他ノ者ト雖火氣取締ニ注意セシメ且煙突等ヨリ煤煙ノ飛散ナカラシムルコト

五 歌舞音曲其ノ他喧噪ノ行爲ヲ爲サシメサルコト

六 袒褻、裸體、頰冠、鉢卷、股脚露出其ノ他不體裁又ハ異様ノ風體ヲ爲サシメサルコト

七 御駐泊所周圍ノ道路ニ露店ヲ出シ其ノ他異様ノ方法ニ依リ行商ヲ爲サシメルコト

八 畜犬其ノ他家畜類ヲ徘徊セシメサルコト

九 酩酊者、白痴、瘋癲、精神病者、乞丐等ヲ接近セシメサルコト

十 荷車、荷馬車ノ往來ハ相當取締ヲ爲スコト

十一 道路ヲ壅塞スヘキ長大物件ハ運搬セシメサルコト

十二 御駐泊所へ音響ノ達スル範圍内ニ於テ銃獵ヲ爲サシメサルコト

第四十七條 御駐泊所近傍ニ於ケル火災其ノ他非常事變ニ際シテハ最迅速ニ上官ニ報告スヘシ

第四十八條 警衛中取扱ヒタル事故ハ毎日午後八時迄ニ主任者ヨリ警務部長ニ報告スヘシ

第四十九條 非常御立退所等ノ警衛ハ本節ニ準スヘシ

第三節 汽車沿道停車場御立所警衛

第五十條 御道筋汽車沿道停車場御立所ノ警衛ハ總テ行幸啓警衛心得ニ依ルヘシ

第五十一條 御道筋汽車沿道停車場御立所ノ警衛ニ從事スヘキ巡查ニ對シテハ配置出發前服裝及携帶品ヲ點檢シ且警衛ニ關スル訓授ヲ與フヘシ

第五十二條 御道筋ノ交通ハ通御前二十分迄ニ整頓シ車馬ノ類ハ可成他ノ路線ニ避讓セシムヘシ

第五十三條 警戒ハ鹵簿通御後凡ソ五分間ヲ過クルニ非サレハ解除スヘカラス但シ拜觀人解散シ交通ノ状態舊ニ復スル迄取締ニ從事スヘシ

第五十四條 御道筋ニシテ道幅狹隘ナル場所ニハ拜觀人ヲ堵列セシムヘカラス但シ場合ニ依リ片側ニノミ堵列セシムルコトヲ得

第五十五條 拜觀人ニ對シテハ左ノ事項ヲ注意警戒スヘシ

- 一 拜觀人ハ謹肅ヲ守リ苟モ不敬ニ涉ル様ノコトナカラシムルコト
- 二 拜觀人ハ成ルヘク一定ノ場所ニ集合セシムルコト
- 三 拜觀人ハ總テ起立セシムルコト但シ高齢者ハ敷物ヲ用井テ跪座セシムルモ妨ケナシ
- 四 屋内ニテ拜觀スル場合ハ床上ニ在リテハ正座セシムルコト

一三一

五 團體旗ノ旗手ハ敬禮ヲ行フ際旗ヲ操縦スルコトナク直立不動ノ姿勢ヲ維持スル様豫メ注意スルコト

六 御乗馬ニテ通御ノ際ハ萬歳ヲ唱ヘサル様豫メ注意スルコト

第五十六條 左記ノ者ヲ發見シタルトキハ直ニ監督者ニ報告シ指揮ヲ受クヘシ其ノ暇ナキトキ又ハ猶豫スヘカラサル状態ナルニ於テハ臨機處置シタル後報告スヘシ

一 泥酔者

二 精神ニ異狀アル者

三 要視察人

四 舉動不審者

五 銃器刀劍等危險ノ物件ヲ携帯スル者

六 其ノ他前各項ニ類スル者

第五十七條 通御ノ際鹵簿ヲ犯シ又ハ直訴セムトスル者アルトキハ最神速ニ之ヲ押ヘ通御ヲ待ツヘシ

前項ノ場合ニハ附近ヲ喧噪セシメ又ハ鹵簿ヲ紊ス等ノコトナキ様嚴重警戒注意スヘシ

第五十八條 鹵簿撮影ヲ許可セラレタルモノニ對シテハ指示セラレタル條件ヲ遵奉セシムル様豫メ注意ヲ與ヘ且指定セラレタル位置ヲ變更セントスルトキハ之ヲ阻止スヘシ

第五十九條 鐵道線路停車場ノ取締ニ關シテハ驛長其ノ他關係員ト協議スヘシ

第六十條 警衛中事故ノ爲關係人取調ノ必要生シタルトキハ成ルヘク群集ノ外ニ同行シ公衆ノ喧噪ヲ

惹起セシメサル様留意スヘシ此ノ場合ニ於テハ隣接配置員ニ於テ其ノ區域ヲ併セ警戒スヘシ

第六十一條 御用物運搬ノ際ハ其ノ通行ニ支障ナキ様注意スヘシ

第六十二條 御道筋取締ニ從事スルモノハ左ノ事項ニ注意スヘシ

一 道路ハ清潔ニ掃除シ塵埃ノ飛散スル場所ニハ適當ニ撒水セシメ下水堰等ハ特ニ注意ヲ與ヘ廢棄物又ハ惡臭ヲ發散スル物件ヲ除去セシムルコト

二 附近ニ於テハ成ルヘク肥料其ノ他臭氣ヲ發散スル物件ヲ取扱ハシメサルコト

三 附近ニ犬其ノ他家畜類ヲ徘徊セシメサルコト

四 附近ノ民家ニ對シ火氣取扱ニ注意セシメ且煙突等ヨリ煤煙飛散セシメサルコト

五 近接セル家屋ハ内外ヲ問ハス不體裁ノコトナキハ勿論清潔ニ之ヲ掃除セシムルコト

六 投石其ノ他惡戲等不都合ノ行爲ナカラシムルコト

第六十三條 警衛中取扱ヒタル事故ハ毎日午後八時迄ニ主任者ヨリ警務部長ニ報告スヘシ

第四節 皇族 警衛

第六十四條 皇族警衛ニ従事スル警察官吏ハ御旅館ニ詰切り警衛ニ任スヘシ

第六十五條 警衛ニ關シテハ隨員ト氣脈ヲ通シ遺算ナキヲ期スヘシ

第六十六條 御出向ノ際ハ途中警衛ニ従事スヘシ但シ謝絶セラレタルトキハ適宜ノ方法ニ依リ間接ノ警衛ヲ爲スヘシ

第六十七條 御出向ノ際ハ御道筋及時間等豫メ上官ニ報告スヘシ御歸還ヲ前知シタルトキ亦同シ

- 第六十八條 御旅館ニ出入スル者ニ對シテハ嚴密注意警戒スヘシ舉動不審ノ者ヲ認メタルトキハ相當取調ヲ爲シ上官ニ報告スヘシ
- 第六十九條 警衛中重大ナル事故發生シタルトキハ速ニ上官ニ報告シ指揮ヲ受クヘシ但シ緊急ノ場合ハ應急ノ措置ヲ爲シ即報スヘシ
- 第七十條 隨員ヨリ依頼若ハ協議ヲ受クタル事項ハ迅速ニ處辨シ其ノ重大ナル事項ハ上官ニ報告スヘシ
- 第七十一條 自動車人力車等御使用ノ場合ハ隨員ト協議ノ上何時ニテモ差支ナキ様用意ヲ爲シ車體服裝等ノ清潔ニ留意スヘシ
- 第七十二條 御旅館主又ハ其ノ家族雇人ト雖御室附近庭先等ヲ徘徊シ喧噪シ又ハ濫ニ御室ニ出入シ若ハ視見スルカ如キコトナキ様注意スヘシ
- 第七十三條 火氣ノ取締盜難ノ豫防ニ就テハ嚴重注意スヘシ
- 第七十四條 出火其ノ他非常事變アリタル場合ハ一層警戒ヲ嚴ニシ上官ノ指揮ナクシテ警衛ノ任務ヲ缺ク等ノコトアルヘカラス
- 第七十五條 御徒歩又ハ御停立中突然接近又ハ追隨シ來リテ撮影申上クルカ如キ不法ナルコトヲ爲サシムヘカラス
- 第七十六條 皇族警衛ニ關シテハ第四十六條ヲ適用ス
- 第七十七條 警衛中取扱ヒタル事故ハ毎日午後八時迄ニ主任者ヨリ警務部長ニ報告スヘシ

第五節 貴 賓 警 護

- 第七十八條 大臣其ノ他貴賓警護ニ從事スル警察官吏ハ旅館ニ詰切リ警護ニ任スヘシ
 - 第七十九條 出向ノ際ハ隨從警護ニ從事スヘシ若謝絶セラレタルトキハ適宜ノ方法ニ依リ間接ニ警護ヲ爲スヘシ
 - 第八十條 警護ニ關シテハ隨員及接待委員ト氣脈ヲ通シ遺算ナキヲ期スヘシ
 - 第八十一條 前各條ノ外第六十七條及第七十四條及第七十七條ヲ適用ス
- 第三章 御駐泊所在地警備心得
- 第一節 一 般 警 備
- 第八十二條 御駐泊所在地警備區域ハ原里村及御殿場町ノ一部トス
 - 第八十三條 警備ノ警察官吏ハ交通風俗營業等ノ取締及盜難火災其ノ他警備ニ從事スヘシ
 - 第八十四條 御駐泊所、御駐泊所停車場間御用物運搬通路ハ常ニ支障ナキ様注意スヘシ
 - 第八十五條 警備巡查ノ勤務ハ立番及警邏ノ二種トス
- 立番ノ位置及警邏線路ハ別ニ之ヲ定ム
- 第八十六條 盜難其ノ他犯罪事件アルコトヲ知リタルトキハ直ニ上官ニ報告スヘシ現行犯ノ場合ニ於テハ之ヲ逮捕シ又ハ應急ノ措置ヲ爲シ事件ハ警察署ニ引繼クヘシ
 - 第八十七條 勤務中ハ左ノ事項ニ注意スヘシ
- 一 交通頻繁ナル場所ニ於テ左側通行ヲ勵行スルコト

- 二 街路破損ノ場合ハ速ニ報告スルコト
- 三 街路ハ常ニ清潔ニ掃除セシメ時々撒水セシムルコト
- 四 街路又ハ街路ニ沿ヒタル場所ニハ危険又ハ通行上妨害ト爲ル物件ヲ置カシメサルコト
- 五 街路ニ於テ工事其他ノ作業又ハ遊戯等ヲ爲サシメサルコト
- 六 牛馬ノ手綱ハ三尺以内ニテ牽カシムルコト
- 七 街路ニテ濫ニ敷物疊其ノ他ノ物件ノ塵埃ヲ拂ハメサルコト
- 八 屋上、店頭、物干其ノ他ノ場所ニ不潔物又ハ見苦シキ物件ヲ出サシメサルコト
- 九 街路ニ面シタル空屋又ハ空地ニシテ不潔ナルモノハ其ノ持主又ハ管理者ヲシテ清潔ニ掃除セシムルコト
- 十 人馬諸車ニシテ軍隊ニ行會フトキハ避讓セシムルコト
- 十一 自動車、馬車、自轉車等ヲ群集ノ場所ニ馳驅セシメサルコト
- 十二 牛馬ハ凡テ街路又ハ街路ニ沿ヒタル場所ニ緊留セシメサルコト
- 十三 牛馬其ノ他ノ家畜ハ繫鎖ヲ嚴ニシ奔逸セシメサルコト
- 十四 道筋、宿所等ヲ問フモノアルトキハ懇切ニ指示シ其ノ他便宜ヲ與フルコト
- 十五 音聲ノ御駐泊所又ハ皇族御旅館ニ達シ得ヘキ場所ニ於テ歌舞音曲ヲ爲ナシメサルコト
- 十六 各種營業者ニシテ不正ノ利益ヲ貪リ其ノ他不都合ノ行爲ナキ様嚴重ニ注意スルコト
- 十七 戸締油斷、火氣取扱ニ注意ヲ與ヘ盜難火災ノ豫防ニ努ムルコト

六 興行場及公衆ノ來集スヘキ場所ニ對シテハ其ノ持主又ハ管理者ヲシテ消火器ノ設備其ノ他火防

ニ關スル適當ノ方法ヲ爲サシムルコト

七 汚物又ハ惡臭ノ發散スル物品ノ運搬ハ可成日出前日没後ニ爲サシムルコト

第八十八條 精神病者、要視察人舉動不審者又ハ危険ノ物件ヲ携帯スル者ヲ認メタルトキハ取調ヲ爲シ又ハ尾行シテ其ノ行先ヲ確メ若ハ警察署ニ同行スル等臨機ノ措置ヲ取ルヘシ

第八十九條 火災其ノ他ノ事變アリタルコトヲ知リタルトキハ速ニ上官ニ報告シ自己受持區ノ警戒ヲ嚴ニスヘシ

第九十條 貴賓、紳士、上長官以上ノ軍人並各隊本部ノ宿舍ヲ豫メ之ヲ調査シ知悉シ置クヘシ

第九十一條 警備中取扱ヒタル事故ハ毎日午後八時迄ニ主任者ヨリ警務部長ニ報告スヘシ

第二節 犯罪豫防

第九十二條 刑事視察ヲ要スルモノノ行動ヲ視察シ犯罪ノ豫防及檢舉ニ努ムヘシ

第九十三條 係員相互間ハ勿論他ノ係トノ間ニ常ニ氣脈ヲ通シ連絡ヲ保ツヘシ

第九十四條 勤務中ハ勿論休憩中ト雖所屬上官ノ承認ヲ得シテ其ノ責任區域ヲ離ルヘカラス但シ周圍ノ事情又ハ事件ノ性質上上官ノ指揮ヲ受クルノ違アラサル場合ハ其ノ旨便宜ノ方法ニ依リ報告スヘシ

第九十五條 左記ノ者ニ對シテハ特ニ視察ヲ嚴ニスヘシ

- 一 拘摸、邯鄲師、空巢視、萬引、板間稼其ノ他重ナル犯罪ノ前科者常習者及其ノ疑アル者

二 乞食及浮浪者、不良少年

三 危險物ヲ携帯スル者

四 舉動不審者

五 其ノ他取締上必要ト認ムル者

第九十六條 係員ハ常ニ其ノ責任區域内ヲ偵察シ且宿屋、料理店、飲食店、貸座敷其ノ他必要ノ箇所

ニ臨檢スヘシ但シ特ニ必要ト認ムル場合ノ外投宿人又ハ登樓者ニ對シ直接取調ヲ爲スヘカラス

第九十七條 停車場ニ勤務スル者ハ常ニ驛員ト連絡ヲ保チ汽車ノ發著ニ際シ改札口待合所車輛内等ノ

乗客ニ注意スヘシ

第九十八條 非現行犯ニ對シテハ指揮ヲ受クルニ非サレハ檢舉ニ著手スヘカラス

第九十九條 犯人又ハ不審者ヲ引致同行セントスル場合ハ言動ヲ慎ミ後日物議ヲ惹起セシムルカ如キ

コトナキ様注意ヲ要スルハ勿論尙其ノ著手ニ際シテハ先ツ巧ニ先方ノ體索ヲ爲シ兇器其ノ他ノ危險

物携帯ノ有無ヲ調ヘ引致同行ノ途中ハ自己ヨリ一步先ニ被監視者ヲ行進セシメ逃走又ハ携帯品ノ投

棄ヲ企ツル如キ餘地ヲ與ヘサル様注意スヘシ

第一百條 高等警察上注意ヲ要スヘキ者ヲ發見シタルトキハ直ニ高等警察係員ニ引繼クヘシ

第一百一條 警察警備及演習地取締上參考ト爲ルヘキ事項ヲ見聞シタルトキハ流言浮説ト雖細大トナク

必迅速ニ報告シ一面其ノ真相ヲ確ムルニ努ムヘシ

第一百二條 勤務中取扱ヒタル事項ハ毎日午後八時迄ニ主任者ヨリ警務部長ニ報告スヘシ

第三節 火災 警防

第一百三條 係員ハ克ク消防組員ヲ督勵シテ火災豫防ニ努メシムヘシ

第一百四條 機械器具ノ手入れ整理及地利水利等ハ豫メ調査ヲ爲シ置クヘシ

第一百五條 出火ノ場合ハ警鐘ヲ用井ス適宜ノ方法ニ依リ周知セシムヘシ

前項ノ場合ハ當該主任者及消防詰所ニ急報シ現場ニ駆付クヘシ

第一百六條 御駐泊所在地其ノ他行啓關係地ニ出火アリタルトキハ保安係長ハ迅速ニ其ノ狀況ヲ警務

部長ニ報告スヘシ

第一百七條 出火アリタルトキハ直ニ消防詰所前ニ火災場所ヲ揭示スヘシ

第一百八條 鎮火後ト雖上官ノ命アルニ非サレハ退場スヘカラス

第一百九條 勤務中取扱ヒタル事項ハ毎日午後八時迄ニ主任者ヨリ警務部長ニ報告スヘシ

第一百十條 係員消防組員ヲ配置警備區域並勤務方法ハ別ニ之ヲ定ム

第四章 危險物取締心得

第一百十一條 工事場等火藥類ヲ消費スル場所ニ在リテハ毎日其ノ使用ノ狀況ヲ視察シ終業ノ際ニ於ケ

ル終業者ノ身體檢査ニ立會ヒ其ノ實況ヲ監査シ不都合ナキヲ期スヘシ

第一百十二條 火藥商並火藥類貯藏所ニ對シテハ毎日火藥類ノ收受及異狀ノ有無ヲ檢査シ盜難又ハ不良

品ヲ發見シタルトキハ速ニ警務部長ニ報告スヘシ但シ緊急ヲ要スルモノハ應急ノ措置ヲ爲シタル後

其ノ手續ヲ爲スヘシ

第一百三條 坑夫勞働者ノ居宅其ノ他火藥類ノ密藏スル疑アル場所ニ對シテハ隨時臨檢ヲ行フヘシ
 前項ノ場合ニハ可成火藥取扱人又ハ其ノ他ノ者ヲシテ立會ハシムヘシ
 第一百四條 勤務中取扱ヒタル事故ハ毎日勤務終了後主任者ヨリ警務部長ニ報告スヘシ
 第一百五條 危險物取締員ノ配置並勤務方法ハ別ニ之ヲ定ム

第五章 演習地取締心得

第一百六條 演習地取締ニ從事スル警察官吏ハ豫メ憲兵及町村長並其ノ他ノ係員ト協議ヲ遂ケ相互應援シ取締上遺憾ナキヲ期スヘシ

第一百七條 軍隊ヨリ取締上ニ關シ要求アリタルトキハ努メテ之ニ應シ速ニ適當ノ措置ヲ爲シ又ハ關係者ニ通報スヘシ

第一百八條 左記事項ハ上官ニ即報スヘシ

- 一 軍司令部、師團司令部、旅團司令部及聯隊本部ノ宿營地
 - 二 皇族及將官同相當官ノ宿所
 - 三 翌日行ハルヘキ重ナル戰鬪地點
 - 四 出火其ノ他災害事故ノ發生
 - 五 取締ニ關シ軍隊若ハ地方民ノ希望又ハ要求ヲ聞知シタルトキ
 - 六 其ノ他重大若ハ至急ヲ要スト認メタルトキ
- 第一百九條 傷病者アリタルトキハ直ニ相當ノ保護ヲ爲シ軍人軍屬ハ其ノ所屬部隊ニ一般拜觀人ハ最

救護所ニ連行シ又ハ同行者ニ引渡ス等臨機措置スヘシ

第二十條 軍隊ノ通過スル道路ニ於テ其ノ通行ノ妨害ト爲ルヘキ物件ハ之ヲ取除カシメ又長大ノ物件ヲ運搬セントスルモノアルトキハ之ヲ制止シ又ハ他道ニ避ケシムヘシ

第二十一條 道路橋梁其ノ他交通上危險ノ虞アル個所ヲ發見シタルトキハ直ニ相當ノ措置ヲ爲シ一面關係者ニ急報スヘシ

第二十二條 防圍ヲ設ケサル井戸、肥料溜、及地窖(土壤採取跡)等ヲ發見シタルトキハ關係者ト協議シ適當ノ標識ヲ樹テ或ハ繩張ヲ爲ス等危險防止ノ措置ヲ爲スヘシ

第二十三條 臨時架設ノ軍用電線ハ他ノ電柱ニ添架若ハ家屋樹木等ニ托架又ハ地上ニ布置スル等其ノ架設方法簡單ナルヲ以テ動モスレハ之ニ觸レテ地上ニ落シ若ハ蹂躪シ或ハ好奇心ヲ以テ之ヲ切取ル等ノ惡戲ヲ爲シ演習ノ妨害ト爲リタル例ナキニアラス特ニ注意スヘシ

第二十四條 宿營地及其ノ附近ハ特ニ警邏ヲ嚴ニシ火災盜難軍馬ノ逸走等ニ注意スヘシ

第二十五條 宿舍車馬及人夫ノ供給ヲ忌避シ又ハ不當ノ物價若ハ貨錢ヲ要求スル等ノコトナキ様注意スヘシ

第二十六條 犯罪者檢視事件ハ所轄警察署ニ引繼クヘシ但シ軍人軍屬ニ係ルトキハ憲兵ニ引渡シ憲兵在ラサルトキハ本文ニ依リ取扱フヘシ

第二十七條 迷兒、白痴、瘋癲等ヲ發見シタルトキハ最寄警察官署町村役場若ハ引取人ニ之ヲ引渡スヘシ

第二百二十八條 拾得届アリタルトキハ假領收證ヲ交付シ之ヲ所轄警察官署ヘ送付スヘシ但シ遺失者直ニ判明シタルトキハ之ヲ還付シ拾得者ニ其ノ旨告知スル手續ヲ爲スヘシ

第二百二十九條 演習地ニ於テハ警笛ヲ鳴スヘカラス

第二百三十條 取締ニ従事スヘキ位置ハ軍ノ進退ニ應シテ變化スヘキニ付各部隊長ハ軍ト連絡ヲ取り臨機適當ノ取締ヲ爲スヘシ

第二百三十一條 拜觀人ニ對シテハ特ニ左記各號ニ注意スヘシ

- 一 成ルヘク一團ト爲シ演習ヲ妨ケサル場所ニ集合セシムルコト
- 二 成ルヘク一部落ニ於テ適宜團體ヲ作り其ノ統率者ヲ定メシメ又學生ハ職員ヲシテ之ヲ引率セシムルコト

三 隊伍ヲ組ミ又ハ多數集團シテ拜觀スル者ハ行軍部隊間ニ入ラシムルコトナク他ノ道路ヲ採ラシムルカ又ハ軍隊ト離隔シテ其ノ後方ヨリ行進セシムルコト

四 靜肅ヲ保チ軍隊ノ指揮號令ノ妨ト爲ルカ如キ行爲ナカラシムルコト

五 演習係員若ハ陪觀者ノ徽章ニ類似ノモノヲ用井又ハ白帽鉢卷等ヲ爲シ或ハ旗幟ヲ掲揚スル等其ノ他軍裝ニ紛ハシキコトヲ爲サシメサルコト

六 濫ニ戰線内ニ立入ラシメサルコト

七 行進軍隊ノ先頭ニ進ミ又ハ追尾シ其ノ他道路ヲ填塞シ或ハ散兵線密集部隊ノ前面ニ停止スル等凡テ軍隊ノ運動又ハ射撃ノ妨害ト爲ルヘキ所爲ナカラシムルコト

八 途中軍隊ニ出會シタルトキハ避讓セシムルコト

九 軍馬、砲車及輜重車等ニ接近シ又ハ砲兵陣地附近ニ近寄ラシメサルコト

十 一般拜觀人ハ坂路森林丘阜其ノ他ノ高地又ハ橋梁堤防演習上必要ト認メラル、地點ニ停立若ハ

集合セシメサルコト

十一 拜觀人ヲシテ樹木又ハ屋上等ニ登ラシメサルコト

十二 前哨線又露营地附近等軍隊ノ露营地ト誤認シ易キ場所ニ多數集合又ハ露宿セシメサルコト

十三 屋外ニ於テ焚火ヲ爲サシメサルコト軍用電線ノ附近ニ在リテハ特ニ注意スヘシ

十四 軍用氣球ノ近傍ニ於テハ喫煙セシメサルコト

十五 耕地其ノ他農作物ヲ踏荒シ又ハ墻塀柵欄等ヲ毀損セシメサルコト

十六 群集雜踏ノ場所ニ車馬ヲ挽キ入ラシメサルコト

十七 傳染病患家附近ニ拜觀人ノ近寄ラシメサルコト

十八 軍隊ノ休憩中ト雖モ隊伍又ハ又銃ニ接近シ或ハ軍馬繫留所ニ集マル等其ノ妨害ヲ爲サシメサルコト

十九 道路ニ集マリ傳令ノ通行ヲ妨ケシメサルコト

二十 耕地其ノ他農作物ヲ踏荒シ又ハ墻塀柵欄等ヲ毀損シタル者ヲ發見シタルトキハ一應取調ヲ爲シ其ノ事項ヲ上官ニ報告スルコト

第二百三十二條 飛行機ニ對シテハ左ノ各號ニ注意スヘシ

- 一 無用ノモノハ飛行場内ニ立入ラシメサルコト
- 二 飛行場附近ニ於テ飛行ヲ觀覽セムトスル者ハ必係員ノ指示シタル場所ニ於テセシムルコト
- 三 飛行機カ不時ニ降陸セムトスル状態ヲ示シタル場合ハ速ニ其ノ附近ニ在ルモノヲ適當ノ場所ニ避ケシメ廣ク空地ヲ作ラシムルカ若ハ最近ノ障害物ニ接著セシムルコト
- 四 降陸ニ際シ之ヲ避クルノ違ナキトキハ直ニ地上ニ伏臥若ハ靜止セシメ以テ危害ヲ豫防シ如何ナル場合ト雖混亂四散セシメサルコト
- 五 飛行機ノ降陸ハ概ネ左ノ飛行状態ニ依リテ之ヲ豫知スルコトヲ得ヘシ
 - (一) 飛行機ノ爆音不規則ナルトキ又ハ全ク停止セルトキ
 - (二) 螺旋機緩徐ニ廻轉スルトキ又ハ止マリタルトキ
 若シ疑ハシキ場合ニハ降陸ト見做シテ處置スヘシ
- 六 降陸後飛行機ノ全然停止スル迄ノ間ハ勿論何レノ場合ニ於テモ機體ヲ去ル約十間以内ニ近寄ラシメサルコト
- 七 降陸ノ際異狀ヲ認メタルトキハ直ニ救護シ尙搭乗者ヨリ依頼セラレタル場合ハ直ニ其ノ要求ニ應スヘシ若シ搭乗者負傷等ヲ爲シ爾後ノ處置不可能ナル場合ハ迅速ナル方法ヲ以テ最寄軍隊及上官ニ通報スルコト
- 八 演習期間臨時著陸場ヲ設ケラレタル場合之カ觀覽等ノ爲場内ニ立入り又ハ其ノ附近ニ停止セシメサルコト殊ニ飛行機ノ降陸陸方向ハ極メテ危険ナルニ付如何ナル場合ト雖立入ラシムヘカラス

九 飛行機ノ近傍ニ於テ喫煙シ若ハ點火セシメサルコト

十 飛行ニ際シテハ拍手喝采其ノ他飛行者ヲ感動セシムヘキ行爲ナカラシムルコト

十一 飛行場ノ周圍ニ於テ旗、竿、杖等ヲ高ク掲ケ又ハ飛行機ノ發著ニ際シ突然場内ニ進入スルカ如キハ極テ危険ナルヲ以テ嚴重取締ヲ爲スコト

第一百三十三條 勤務中取扱ヒタル事故ハ毎日午後八時迄ニ主任者ヨリ警務部長ニ報告スヘシ

第六章 車輛取扱心得

第一百三十四條 自動車人力車ノ車輛數及運轉手挽子數ヲ調査シ置キ所要數ノ調達配給ヲ爲スヘシ

第一百三十五條 乗用ノ車輛並附屬品ハ完全ニシテ且清潔ナルモノヲ選フヘシ

第三十六條 運轉手、挽子ハ體質強健性行善良ニシテ本人ハ勿論家族中ニ傳染性疾患ナキ者ヲ選ヒ

其ノ服装ハ制規ニ適合シ且清潔ノモノヲ用井シムヘシ

第三十七條 運轉手、挽子ハ一定ノ場所ニ宿泊セシメ常ニ所要數ノ車輛服裝附屬品ヲ準備シ置キ不時ノ供給ニ支障ナキヲ期スヘシ

第三十八條 宮内省皇族及統監部ニ供給スル車輛ハ豫メ車體ヲ消毒シ他ノ車輛ト區別シ置キ運轉手挽子ハ健康診斷ヲ行フヘシ

第三十九條 車輛ニハ宮内省用皇族用統監部用又ハ縣應用等ヲ明ニスル爲各所定ノ標識ヲ附スヘシ

第四十條 乗用者ノ一定シタル車輛ニハ官名ヲ記シタル木札ヲ其ノ蹴込ニ附著セシムヘシ

第四十一條 板妻廠舎、停車場等ニ於ケル車輛置場並其ノ配列ハ宮内官統監部員ト豫メ協定シ置ク

ヘシ

第四百二十二條 車輛主任ハ所要ノ車輛及運轉手挽子員數ヲ前日中ニ調査シ乗用當日使用一時間前ニ乗
用場所ニ參著セシメ整理スヘシ

第四百二十三條 車輛請負人ヨリ世話係若干名ヲ差出サシメ車輛ノ配給整理ヲ補助並運轉手挽子取締ニ
當ラシムヘシ

係員及世話係ハ運轉手挽子ニ對シ特ニ左記各項ノ注意ヲ爲スヘシ

- 一 運轉手挽子心得ヲ了解シ克ク遵守セシムルコト
- 二 土地ノ狀況ニ通曉セシムルコト
- 三 何時ニテモ迅速出車スルニ差支ナキ様常ニ仕度ヲ整ヘ置カシムルコト
- 四 爭論、喧嘩競争等ノ舉動ナカラシムルコト

第四百二十四條 出車セシムル際ハ運轉手挽子ニ對シ其ノ行先及到着時刻等ヲ能ク告知スヘシ

第四百四十五條 運轉手挽子ハ休憩中ト雖何時出車スルモ差支ナキ様注意シ置キ決シテ休憩所ヲ離レシ
ムヘカラス

第四百四十六條 運轉手挽子ハ乗客ノ目前ニ於テ上衣ヲ脱キ又ハ胸ヲ開キテ汗ヲ拭キ又ハ便所ニアラサ
ル場所ニ放尿スル等不慮不體裁ノコトヲ爲サシメサル様注意スヘシ

第四百四十七條 運轉手挽子休憩所ニ於テ高聲ヲ發シテ談笑シ其ノ他喧嘩ニ涉ルカ如キ所爲ナカラシム
ヘシ

第四百四十八條 運轉手挽子ヲシテ乗客ノ容貌ヲ覺ヘシメ再乗車スル場合ニ於テ不便ナカラシムル様注
意スヘシ

第四百四十九條 運轉手挽子ヲシテ言葉遣ヒニ注意セシメ且乗客ニ對シ懇切叮嚀ナラシムヘシ

第七章 報告通信心得

第四百五十條 報告及通信ハ事ノ輕重緩急ヲ見計ヒ口頭電話又ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ書面ニ依ル場
合ハ傳令巡查若ハ特使ヲ用ウヘシ

第四百五十一條 通信報告命令傳達ノ迅速確實ヲ期スル爲係長以上及必要ト認ムルモノニ傳令巡查ヲ配
屬セシム

第四百五十二條 電話ヲ以テ通信スルニ方リテハ其ノ事項ヲ電話用紙若ハ手帳ニ記載シ通話スヘシ

受信者ハ其ノ事項ヲ電話用紙ニ筆記シ復唱シテ相違ナキヲ確ムヘシ

第四百五十三條 係長ハ係員ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ警務部長ノ閱覽ニ供スヘシ事緊急ニシテ必要
アルトキハ相當措置ヲ爲シ一面遲滞ナク警務部長ニ報告スヘシ

第四百五十四條 係長ハ係員ニ對シ報告ニ關スル心得ノ要領ヲ訓授シ置クヘシ

第四百五十五條 報告ハ努メテ簡明ニシ事實ノ的確ヲ期スルニ注意スヘシ

第四百五十六條 各主任及係員ハ左記事項ニ關シ知り得タル狀況ヲ演習終了後直ニ報告スヘシ各係長ハ
其ノ報告ヲ綜合シ尙自己ノ意見ヲ加ヘ演習終了後十日内ニ警務部長ニ報告スヘシ

一 特種演習カ地方民心ニ及ホシタル影響

- 二 軍隊ノ行動並宿舍ノ狀況
- 三 軍隊宿營中待遇ノ狀況
- 四 物價並貨銀等變動ノ有無
- 五 拜觀人宿泊ノ狀況
- 六 特種演習地域内ニ於ケル盜難其ノ他犯罪狀況
- 七 耕作物損害ノ狀況並之ニ對スル地方民ノ意向
- 八 特種演習中ニ於ケル軍隊ノ感觸
- 九 特種演習ニ關シ地方青年團員在郷軍人消防組員其ノ他地方民活動ノ狀況
- 十 特種演習ニ關シ警衛警備及取締計劃上ノ適否並將來改良スヘキ事項
- 十一 演習取締ニ關スル一般ノ感想
- 十二 其ノ他必要ト認メタル事項

第八章 傳令巡查心得

- 第一百五十七條 傳令巡查ハ左腕ニ傳令ト書キタル白布ヲ纏附スヘシ
- 第一百五十八條 傳令巡查ハ必要ニ依リ騎馬自轉車又ハ人力車ヲ用井迅速ニ命令ヲ通達スヘシ
- 第一百五十九條 傳令巡查ハ現ニ任務ニ服スルモノノ外常ニ詰所又ハ上官ノ側ニ在リテ命令ヲ待ツヘシ
- 第一百六十條 口頭ヲ以テ傳令ノ命ヲ受ケタルトキハ之ヲ手帳ニ記載シ復唱シテ後出發スヘシ
- 第一百六十一條 任務遂行中ト雖諸般ノ出來事ニ注意シ見聞シタル事項ハ速ニ上官ニ報告スヘシ

第一百六十二條 傳令巡查ハ任務ヲ終リタルトキハ速ニ復命シ舊位ニ復スヘシ

第二節 一般計畫

皇太子殿下特種演習御統監ノ爲板妻廠舎へ行啓可被爲在御模様拜承シ、關係ノ向ニ數次ノ打合せヲナシ、又實地踏査ノ結果、先ツ行啓地ノ圖面ヲ作製シ、汽車沿道ニ付テハ、從來御通過ノ例ヲ斟酌シ、途上竝御野立所ハ大體ニ於テ一丁一人ノ配置ヲ、廠舎周圍ハ十八ヶ所ノ立番位置ト夜間特別立番箇所三ヶ所(豫備員ヲ充ツ)ヲ選定シテ所要人員ヲ算定シ、皇族宿舍ノ警衛警備ハ、巡查二名乃至一名ヲ以テシ、飛行場二ヶ所ノ内三島飛行場ハ三島署員ヲ以テ充テ、瀧河原飛行場ハ騎馬巡查部長一名外ニ巡查十名ヲ以テ警戒ニ膺ラシム、又演習場「周圍約三萬二千米突」ノ取締ニ就テハ之ヲ軍隊組織ト爲シ攻防二軍ニ各一個小隊ヲ附シ、小隊長ニ警部ヲ充テ、其ノ第一小隊ノ下ニ須山、今里、神山ノ三分隊ヲ置キ、第二小隊ノ下ニ中山、神場、印野ノ三分隊ヲ配屬セシメ、各分隊長ハ警部補ヲ以テシ、一分隊ニ巡查部長一名乃至二名巡查十名乃至二十名ヲ隸屬セシメ、警務部ト各小隊及分隊トノ連絡統一ヲ期スル爲警務部及各隊ニ騎馬ノ傳令巡查ヲ配置シ、其ノ他高等、保安ニ關スル事務、水源地警戒等ニ關シテハ、何レモ土地ノ狀況ニ鑑ミテ必要人員ヲ豫定シ、別表ノ如ク御警衛並演習取締ノ計畫ヲ樹テ所要ノ人員ト之ニ要スル經費トヲ算出シ、尙警務ノ萬全ヲ期スル爲板妻廠舎、長官々舎(原里村勝間田信次郎方)及事務所ニ警察電話ヲ架設シ、外ニ直接御警衛並演習取締ニ任セル警察官吏ニ對シテハ別ニ前記ノ如キ警察官吏服務心得ヲ印刷配布セリ

